

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2004-509539

(P2004-509539A)

(43) 公表日 平成16年3月25日(2004.3.25)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

F I

テーマコード(参考)

H04L 12/28  
G06F 13/00  
G06F 15/00H04L 12/28 310  
G06F 13/00 353C  
G06F 15/00 310D5B085  
5B089  
5K033

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全 248 頁)

(21) 出願番号 特願2002-527943 (P2002-527943)  
 (86) (22) 出願日 平成13年9月12日(2001.9.12)  
 (85) 翻訳文提出日 平成15年3月11日(2003.3.11)  
 (86) 国際出願番号 PCT/US2001/028391  
 (87) 国際公開番号 W02002/023362  
 (87) 国際公開日 平成14年3月21日(2002.3.21)  
 (31) 優先権主張番号 09/660,500  
 (32) 優先日 平成12年9月12日(2000.9.12)  
 (33) 優先権主張国 米国(US)  
 (31) 優先権主張番号 60/274,615  
 (32) 優先日 平成13年3月12日(2001.3.12)  
 (33) 優先権主張国 米国(US)

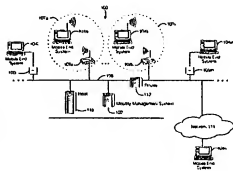
(71) 出願人 503095055  
 ネットモーション ワイヤレス インコー  
 ポレイテッド  
 アメリカ合衆国, 98109-3032  
 ワシントン州, シアトル, デクスター ア  
 ベニュー ノース 1500  
 (74) 代理人 100080034  
 弁理士 原 謙三  
 (74) 代理人 100113701  
 弁理士 木島 隆一  
 (74) 代理人 100116241  
 弁理士 金子 一郎

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コンピュータ環境におけるモバイル他の断続的接続性を提供する方法および装置

(57) 【要約】

ノマディックなシステムの特徴を透過的にする、シームレスなソリューションであって、既存のネットワーク・アプリケーションが、モバイル環境でも確実に動作するようにする。モバイルネットワークと組み合わせられたモビリティ管理サーバ(102)は、数量を限定されないモバイル端末システム(104)それぞれの状態を維持し、ネットワークへ、および他のピアでの処理への持続的な接続の維持に必要な、複雑なセッション管理を実行する。モバイル端末システムが圏外に出たり、サスペンドしたり、(例えば、あるネットワーク相互接続から別のものへとローミングして)ネットワークアドレスを変更したりした場合、モビリティ管理サーバは、結合しているピアのタスクとの接続を維持し、モバイル端末システムとネットワーク媒体とのコンタクトが一時的に失われても、モバイル端末システムが持続的な接続を維持できるようにする。インターフェイスベースのリスナは、ネットワーク・インターフェイスからのネットワーク接続ポイント情報を利用して、ローミング状態を判定し、ローミングに際した接続を効率的に確立する。モビリティ



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

ネットワーク接続ポイントを介してネットワークと接続されるモバイルコンピュータ装置を少なくとも一つ含むモバイル・コンピューティング・ネットワークであって、モバイルコンピュータ装置のロケーションを含む様々なメトリクスに基づくポリシー管理ルールを適用するポリシー管理手法を特徴とするモバイル・コンピューティング・ネットワーク。

## 【請求項2】

前記ルールの属性についての処理は、モバイルコンピュータ装置あるいはモビリティ管理サーバのいずれか、またはその両方に対して分配され適用されることを特徴とする請求項1記載のネットワーク。

## 【請求項3】

前記ルールの優先順位は、そのようなテーブルの項目における位置で暗示されるか、あるいは期待動作を確実にするための順序が明白に記されることを特徴とする請求項1または2記載のネットワーク。

## 【請求項4】

前記ルールの属性のデータ保存は、中央管理サービスを介して局所的または集中的に管理されることを特徴とする請求項1、2または3記載のネットワーク。

## 【請求項5】

特定のアプリケーションの動作は、サービス費用、ネットワーク接続ポイント、信頼関係等を含む多数のメトリクスに基づいて修正されることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載のネットワーク。

## 【請求項6】

動作修正の結果、前記ルールの属性に基づいて要求が許可、拒否、または遅延されることを特徴とする請求項1～5のいずれか1項に記載のネットワーク。

## 【請求項7】

アプリケーションが既に開始されている場合でも、アプリケーションプロセスを修正するため、1つのルール、または一連のルールが呼び出されることを特徴とする請求項1～6のいずれか1項に記載のネットワーク。

## 【請求項8】

現在位置情報（ロケーション）は、アプリケーション動作を管理するため、あるいはモバイルコンピュータ装置の関連情報を提供するためにも使用されることを特徴とする請求項1～7のいずれか1項に記載のネットワーク。

## 【請求項9】

距離測定に伴う動作速度は、アプリケーションの動作または通信パスを変更するために使用されることを特徴とする請求項1～8のいずれか1項に記載のネットワーク。

## 【請求項10】

ロケーション情報の結果としてトポロジ情報が抽出され、表示されることを特徴とする請求項1～9のいずれか1項に記載のネットワーク。

## 【請求項11】

ネットワーク接続ポイントを介してネットワークと接続されるモバイルコンピュータ装置を少なくとも一つ含むモバイル・コンピューティング・ネットワークにおいて、ネットワーク接続ポイントの識別子の少なくとも一部分に基づき、前記モバイルコンピュータ装置が異なるネットワーク・セグメントに移動したかどうかを検出するインターフェイス補助ローミングリスナを備えることを特徴とするモバイル・コンピューティング・ネットワーク。

## 【請求項12】

前記モバイルコンピュータ装置はネットワーク・インターフェイス・アダプタを含み、前記インターフェイス補助ローミングリスナは前記ネットワーク・インターフェイス・アダプタから前記ネットワーク接続ポイントの識別子を取得することを特徴とする請求項11記載のネットワーク。

10

20

30

40

50

## 【請求項 13】

前記インターフェイス補助ローミングリスナは、前記ネットワーク接続ポイントの識別子をネットワーク接続についての詳細情報に相関させる情報を記憶するネットワーク・トポロジ・マップを保持することを特徴とする請求項 11 記載のネットワーク。

## 【請求項 14】

前記インターフェイス補助ローミングリスナは、前記ネットワークとの通信がいつ中断または再確立されるかを検出することを特徴とする請求項 11 記載のネットワーク。

## 【請求項 15】

前記インターフェイス補助ローミングリスナは、(a) ネットワーク通信の中断及び再確立、及び (b) 前記ネットワーク接続ポイントの識別子の変化の検出を受けて、ローミング信号を生成することを特徴とする請求項 14 記載のネットワーク。

## 【請求項 16】

モバイルコンピュータ装置において使用されるインターフェイススペースのリスナであって、インターフェイススペースのリスナは少なくとも 1 つのネットワーク・インターフェイス・アダプタからの情報と、少なくとも 1 つのネットワークスタックから入手可能な情報を統合して、前記モバイルコンピュータ装置が新しいネットワーク接続ポイントに移動したかどうか判定することを特徴とする、インターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 17】

ネットワーク接続ポイント情報を含むネットワーク接続情報を提供するネットワーク・トポロジ・マップを含むことを特徴とする請求項 16 記載のインターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 18】

上記リスナは学習情報に基づき前記ネットワーク・トポロジ・マップを動的に構成することとを特徴とする請求項 17 記載のリスナ。

## 【請求項 19】

イベント発生に基づき、ステータスをチェックするステータスチェッカーを含むことを特徴とする請求項 16 記載のインターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 20】

前記イベントはタイマーのタイムアウト、ローレベルのローミング・ドライバ・コールバック、ネットワーク・レベル・アクティビティ・ヒントのいずれかを含むことを特徴とする請求項 16 記載のインターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 21】

モバイルコンピュータ装置が既に現在のネットワーク接続ポイントを訪れたかどうかインターフェイスに照会する接続情報探索部を含むことを特徴とする請求項 16 記載のインターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 22】

新規のネットワーク・セグメントにおいて有効となる現行のアドレスを登録または再取得する接続構成を含むことを特徴とする請求項 16 記載のインターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 23】

インターフェイスから提供された情報の少なくとも一部分に基づいて、前記モバイルコンピュータ装置が異なるネットワーク・セグメントに移動したことの検出を受けてローミング信号を生成するローミング信号発生部を含むことを特徴とする請求項 16 記載のインターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 24】

予め割り当てられたアドレスがまだ有効かどうかを判定するヒューリスティック・アナライザをさらに含むことを特徴とする請求項 23 記載のインターフェイススペースのリスナ。

## 【請求項 25】

モバイルノードが新しいネットワーク接続ポイントに移動したかどうか判定する方法であって、

10

20

30

40

50

- (a) ネットワーク・インターフェイスからネットワーク接続ポイントの識別情報を受け取るステップと、
- (b) 前記ネットワーク接続ポイントの識別情報を使用して前記モバイルノードが新しいネットワーク接続ポイントに移動したかどうかを判定するステップと、
- (c) 前記ステップ (b) を受けて信号を生成するステップとを含むことを特徴とする方法。

【請求項 26】

請求項 25 記載の方法であって、  
ネットワーク・トポロジ・マップを保持するステップ、及び前記ネットワーク・トポロジ・マップを使用して前記ステップ (c) を行うステップをさらに含むことを特徴とする方法。 10

【請求項 27】

請求項 25 記載の方法であって、  
前記ステップ (c) はローミング信号を生成するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 28】

請求項 25 記載の方法であって、  
前記ステップ (b) はネットワーク・アダプタから前記ネットワーク接続ポイントの識別情報を取得するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 29】

請求項 25 記載の方法であって、  
一般的な信号をサポートするネットワーク・インターフェイスが利用不可の場合、選択的ローミング検出メカニズムにフォールバックするステップをさらに含むことを特徴とする方法。 20

【請求項 30】

請求項 25 記載の方法であって、  
前記ネットワーク接続ポイント情報の少なくとも一部に応じて、代わりになるネットワーク接続パスの中から選択するステップをさらに含むことを特徴とする方法。 3

【請求項 31】

非接続のネットワークを介したモバイルシステムとの通信を円滑にするための方法であって、  
第 1 ネットワークを介してノードと前記モバイルシステム間の通信を確立するステップと、  
前記第 1 ネットワークと非接続の少なくとも第 2 ネットワーク上の前記ノードを識別するデータと、前記第 1 ネットワークを介して前記モバイルシステムに送信するステップと、  
前記第 2 ネットワークを介して前記モバイルシステムと前記ノードとの通信を確立するために前記データを使用するステップとを含むことを特徴とする方法。 30

【請求項 32】

請求項 31 記載の方法であって、  
前記第 1 ネットワークを介して前記ノードに前記データを送信する前に、前記第 2 ネットワークを介して前記ノードとの通信許可を付与するために前記モバイルシステムを認証するステップをさらに含むことを特徴とする請求項 31 記載の方法。 40

【請求項 33】

請求項 21 記載の方法であって、  
前記送信ステップは、分配されるインターフェイスデータを前記第 1 ネットワークを介して前記モバイルシステムに送信するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 34】

前記モバイルコンピュータ装置のネットワーク・インターフェイス・アダプタは、前記ネットワークと物理的に接続されていることを特徴とする請求項 12 記載のネットワーク。

【請求項 35】

前記モバイルコンピュータ装置はネットワーク接続ポイントと無線で通信することの特徴 50

とする請求項 12 記載のネットワーク。

【請求項 36】

モバイルコンピュータシステムが複数の別個のネットワーク間を移動する際、モバイルコンピュータシステムとネットワークノードとの間での通信を維持するための方法であって、

第 1 ネットワークセグメントを介してモバイルシステムとノード間の通信を確立するステップと、

第 1 ネットワークセグメントを介して、それぞれ第 1 ネットワークセグメントとは別個の複数のさらなるネットワーク・セグメントを介して前記ノードとの通信を再確立する際に使用される情報をモバイルコンピュータシステムに送信するステップと、  
前記情報を使用して、前記別個の複数のさらなるネットワーク・セグメントのいずれかを介してモバイルコンピュータシステムとノード間の通信を再確立するステップとを含むことを特徴とする方法。

10

【請求項 37】

請求項 36 記載の方法であって、

前記情報は分配されるインターフェイスデータを含むことを特徴とする方法。

【請求項 38】

複数の別個のセグメントを有するネットワークにおいて最少コストルーティングを提供するための方法において、

(a) ネットワークと、一時的に接続されたモバイルコンピュータ装置との間の通信を確立するステップと、

20

(b) 一時的に接続されたモバイルコンピュータ装置が前記複数の別個のセグメント間を移動することができるローミング 構を使用するステップと、

(c) モバイル・コンピュータリングのローミングに応じて、ネットワークとモバイルコンピュータ装置との間の通信を再確立するための選択的で有効なネットワークパスを効率的に自動選択可能にするように、少なくとも 1 つのポリシーパラメータに実行させるステップとを含むことを特徴とする方法。

【請求項 39】

請求項 38 記載の方法であって、

前記ポリシーパラメータは、帯域幅、1 データ単位当りのコスト、およびサービス品質からなるグループの中から選択された要素を含むことを特徴とする方法。

30

【請求項 40】

少なくとも 1 つのピア・コンピュータシステムと、物理的リンクを介してネットワークに接続された少なくとも一つのモバイルコンピュータ装置とを含むモバイル・コンピュータリング・ネットワークにおいて、

ネットワークに接続されたサーバを含み、前記サーバは、モバイルコンピュータ装置への物理的リンクが一時的に中断される間に、モバイルコンピュータ装置とピア・コンピュータシステムとの間の継続的な仮想データストリーム接続を維持するために、モバイルコンピュータ装置とピア・コンピュータシステムとの間の通信をプロキシすることを特徴とするモバイル・コンピュータリング・ネットワーク。

40

【請求項 41】

前記モバイルコンピュータ装置は前記ネットワーク上の位置アドレスを有し、前記ピア・コンピュータシステムは仮想アドレスを使用して前記サーバと通信し、前記サーバは前記仮想アドレスを前記位置アドレスと対応付けることを特徴とする請求項 40 記載のネットワーク。

【請求項 42】

前記サーバは、前記モバイルコンピュータ装置がその位置アドレスをいつ変更したかを検出し、前記仮想アドレスを前記変更された位置アドレスと再び対応付けることを特徴とする請求項 41 記載のネットワーク。

【請求項 43】

50

前記サーバは、前記モバイルコンピュータ装置が一時的に圏外に出たり、またはローミング中である時に、前記モバイルコンピュータ装置に代わって、キューに入れ、前記ピア・コンピュータシステムからの要求に応答することの特徴とする請求項40記載のネットワーク。

【請求項44】

前記サーバは、従来のトランスポート・プロトコルを用いて前記モバイルコンピュータ装置と通信することの特徴とする請求項40記載のネットワーク。

【請求項45】

前記サーバは、遠隔プロシージャ・コールを用いて前記モバイルコンピュータ装置と通信することの特徴とする請求項44記載のネットワーク。

10

【請求項46】

前記サーバは、インターネット・モビリティ・プロトコルを用いて前記モバイルコンピュータ装置と通信することの特徴とする請求項44記載のネットワーク。

【請求項47】

前記インターネット・モビリティ・プロトコルは、ユーザ設定可能なタイムアウトに基づいてデータグラムの自動除去を行うことの特徴とする請求項46記載のネットワーク。

【請求項48】

前記インターネット・モビリティ・プロトコルは、ユーザ設定可能な再試行に基づいてデータグラムの自動除去を行うことの特徴とする請求項46記載のネットワーク。

【請求項49】

前記サーバは、前記モバイルコンピュータ装置によるネットワーク・リソースの消費に関するユーザ毎のポリシー管理を行うことの特徴とする請求項40記載のネットワーク。

20

【請求項50】

前記サーバは、ユーザ設定可能なセッション優先順位を、前記モバイルコンピュータ装置の前記セッションに付与することの特徴とする請求項40記載のネットワーク。

【請求項51】

前記モバイルネットワークは複数のサブネットワークを含み、前記モバイルコンピュータ装置は、前記モバイルコンピュータ装置によって前記複数のサブネットワークのうちの1つから前記複数のサブネットワークの別の1つへのローミングを可能にする他の手順と共に動的ホスト構成プロトコルを用いることの特徴とする請求項40記載のネットワーク。

30

【請求項52】

前記サーバは、モビリティ管理サーバを含むことの特徴とする請求項40記載のネットワーク。

【請求項53】

前記モバイルコンピュータ装置と前記サーバとを接続する少なくとも1つのモバイル相互接続をさらに含むことの特徴とする請求項40記載のネットワーク。

【請求項54】

モバイルコンピュータ環境において少なくとも一つのモバイルコンピュータ装置との持続的な接続を維持する方法であって、前記モバイルコンピュータ装置と、少なくとも一つのさらなるコンピュータ装置との間の少なくとも1つのセッションを管理するステップと、モバイルコンピュータ装置が圏外に出たり、サスペンドしたり、あるいはネットワークアドレスを変更した時に、セッションを維持するステップとを含むことの特徴とする方法。

40

【請求項55】

請求項54記載の方法であって、前記セッションのために少なくとも1つのユーザ設定可能なセッション優先順位を付与するステップをさらに含むことの特徴とする方法。

【請求項56】

請求項54記載の方法であって、前記管理ステップは、前記モバイルコンピュータ装置によるネットワーク・リソースの消

50

費を管理するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 57】

請求項 54 記載の方法であって、

前記モバイルコンピュータ環境は複数のサブネットワークを含み、前記維持ステップでは、動的ホスト構成プロトコルを使用して前記モバイルコンピュータ装置が前記サブネットワーク間を移動する時にセッションを維持することを特徴とする方法。

【請求項 58】

請求項 54 記載の方法であって、

前記管理ステップは、前記モバイルコンピュータ装置とデータグラムのやり取りを行い、少なくとも 1 つのユーザ設定可能なパラメータに基づき前記データグラムのうち信頼性の低いデータグラムを自動的に除去することを特徴とする方法。 10

【請求項 59】

請求項 58 記載の方法であって、

前記ユーザ設定可能なパラメータは、タイムアウトを含むことを特徴とする方法。

【請求項 60】

請求項 58 記載の方法であって、

前記ユーザ設定可能なパラメータは、ユーザ設定可能な再試行番号を含むことを特徴とする方法。

【請求項 61】

請求項 54 記載の方法であって、 20

前記モバイルコンピュータ装置に可変の位置アドレスを付与するステップをさらに含み、前記管理ステップはセッションと関連付けされる仮想アドレスに前記位置アドレスを対応付けするステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 62】

請求項 54 記載の方法であって、

前記管理ステップは、遠隔プロシージャ・コール・プロトコルを用いてモバイルコンピュータ装置と通信するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 63】

請求項 54 記載の方法であって、

前記維持ステップは、前記モバイルコンピュータ装置を前記モバイルコンピュータ環境に接続する物理的リンクの中断時に前記セッションの接続状態を維持することを特徴とする方法。 30

【請求項 64】

請求項 54 記載の方法であって、

前記管理ステップは、少なくとも 1 つの標準的なトランスポート・プロトコルを用いて前記モバイルコンピュータ装置と通信するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 65】

請求項 54 記載の方法であって、

前記モバイルコンピュータ装置は複数のアプリケーションソースを含み、前記管理ステップは、前記複数のアプリケーションソースからのデータをストリームに融合するステップと、前記ストリームを送信するステップとを含むことを特徴とする方法。 40

【請求項 66】

請求項 65 記載の方法であって、

前記ストリームから融合されたデータを逆多重化して、前記逆多重化されたデータを複数の関連する目的地に送信するステップをさらに含むことを特徴とする方法。

【請求項 67】

請求項 65 記載の方法であって、

前記ストリームはフレームを含み、前記融合処理は、モバイルコンピュータ環境の最大伝送単位に適合するように、前記フレームに対して動的なサイズ変更を行う処理を含むことを特徴とする方法。 50

## 【請求項 6 8】

請求項 6 5 記載の方法であって、  
前記融合処理は、信頼性の低いデータのセマンティクスを維持する処理と、前記信頼性の低いデータを前記セマンティクスに基づき選択的に破棄する処理とを含むことを特徴とする方法。

## 【請求項 6 9】

請求項 5 4 記載の方法であって、  
前記管理ステップは、前記モバイルコンピュータ装置へのメッセージの保証配信、および／または前記モバイルコンピュータ装置からのメッセージの保証配信を行う処理を含むことを特徴とする方法。

## 【請求項 7 0】

請求項 5 4 記載の方法であって、  
前記管理ステップは、前記モバイルコンピュータ装置がどのネットワーク・リソースにアクセス可能かを制御する処理を含むことを特徴とする方法。

## 【請求項 7 1】

少なくとも一つのさらなるコンピュータ装置を含むモバイルコンピュータ環境において少なくとも一つのモバイルコンピュータ装置との持続的な接続を維持するためのサーバであって、

モバイルコンピュータ装置が圏外に出たり、サスペンドしたり、あるいはネットワークアドレスを変更した時にセッションを維持し、前記モバイルコンピュータ装置と少なくとも一つのさらなるコンピュータ装置間の少なくとも 1 つのセッションを管理するセッション・マネージャを含むサーバ。

## 【請求項 7 2】

前記セッション・マネージャは、前記セッションのためにユーザ設定可能なセッション優先順位を少なくとも 1 つ付与するセッション優先キューを含むことを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

## 【請求項 7 3】

前記セッション・マネージャは、前記モバイルコンピュータ装置によるネットワーク・リソースの消費を管理する手段を含むことを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

## 【請求項 7 4】

前記モバイルコンピュータ環境は、複数のサブネットワークを含み、前記セッション・マネージャは、動的ホスト構成プロトコルを使用して前記モバイルコンピュータ装置が前記サブネットワーク間を移動する時にセッションを維持することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

## 【請求項 7 5】

前記セッション・マネージャは、前記モバイルコンピュータ装置とデータグラムのやり取りを行い、少なくとも 1 つのユーザ設定可能なパラメータに基づき前記データグラムのうちの信頼性の低いデータグラムを自動的に除去することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

## 【請求項 7 6】

前記ユーザ設定可能なパラメータは、タイムアウトを含むことを特徴とする請求項 7 5 記載のサーバ。

## 【請求項 7 7】

前記ユーザ設定可能なパラメータは、ユーザ設定可能な再試行番号を含むことを特徴とする請求項 7 5 記載のサーバ。

## 【請求項 7 8】

前記モバイルコンピュータ環境は、前記モバイルコンピュータ装置に可変の位置アドレスを付与し、前記セッション・マネージャはセッションと関連付けられる仮想アドレスに前記位置アドレスを対応付けすることを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

## 【請求項 7 9】

10

20

30

40

50



前記セッション・マネージャは、遠隔プロシージャ・コール・プロトコルを用いてモバイルコンピュータ装置と通信することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

【請求項 8 0】

前記モバイルコンピュータ環境は、前記モバイルコンピュータ装置を前記モバイルコンピュータ環境に接続する少なくとも 1 つの物理的リンクを含み、前記セッション・マネージャは、前記物理的リンクの中断時に前記セッションの接続状態を維持することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

【請求項 8 1】

前記セッション・マネージャは、少なくとも 1 つの標準的なトランスポート・プロトコルを用いて前記モバイルコンピュータ装置と通信することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。 10

【請求項 8 2】

前記モバイルコンピュータ装置は複数のアプリケーションソースを含み、前記セッション・マネージャは、前記複数のアプリケーションソースに関連するデータをストリームに融合して、前記ストリームを送信することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

【請求項 8 3】

前記モバイルコンピュータ装置は複数のアプリケーションソースを含み、前記セッション・マネージャは、前記複数のアプリケーションソースからの融合されたデータを逆多重化して、前記逆多重化されたデータを複数の関連する目的地に送信することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。 20

【請求項 8 4】

前記セッション・マネージャは、フレームを用いて前記モバイルコンピュータ装置と通信し、モバイルコンピュータ環境の最大伝送単位に適合するように、前記フレームに対して動的なサイズ変更を行うことを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

【請求項 8 5】

前記セッション・マネージャは、信頼性の低いデータのセマンティクスを維持し、前記信頼性の低いデータを前記セマンティクスに基づき選択的に破棄することを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

【請求項 8 6】

前記セッション・マネージャは、前記モバイルコンピュータ装置へのメッセージの保証配信、および/または前記モバイルコンピュータ装置からのメッセージの保証配信を行うことを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。 30

【請求項 8 7】

前記セッション・マネージャは、前記モバイルコンピュータ装置がアクセス可能なネットワーク・リソースの制御を行うことを特徴とする請求項 7 1 記載のサーバ。

【請求項 8 8】

プロキシ・サーバを含むモバイルコンピュータ環境において、モバイルコンピュータ装置が圏外に出たり、サスペンドしたり、あるいはネットワークアドレスを変更した時に、少なくとも一つのさらなるコンピュータ装置と持続的な仮想接続を維持するモバイルコンピュータ装置であって、 40

トランスポート・ドライバ・インターフェイスと、

前記トランスポート・ドライバ・インターフェイスと接続されるモバイル・インターセプタを含み、

前記モバイル・インターセプタは、前記トランスポート・ドライバ・インターフェイスでのネットワークサービス要求を傍受し、前記ネットワークサービス要求に応じて、遠隔プロシージャ・コールを生成し、前記遠隔プロシージャ・コールを前記プロキシ・サーバに送信することを特徴とするモバイルコンピュータ装置。

【請求項 8 9】

前記モバイル・インターセプタは、ユーザ設定可能なセッション優先順位を少なくとも 1 つ付与するセッション優先キューを含むことを特徴とする請求項 8 8 記載のモバイルコン 50

ビュータ装置。

【請求項 90】

前記モバイル・インターセプタは、前記モバイルコンピュータ装置によるネットワーク・リソースの消費を管理する手段を含むことを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 91】

前記モバイルコンピュータ環境は、複数のサブネットワークを含み、前記モバイルコンピュータ装置は、前記モバイルコンピュータ装置が前記サブネットワーク間を移動する時に位置アドレスを取得するために動的ホスト構成プロトコルを使用する手段をさらに含むことを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 92】

前記モバイル・インターセプタは、前記プロキシ・サーバとデータグラムのやり取りを行い、少なくとも 1 つのユーザ設定可能なパラメータに基づき前記データグラムのうち信頼性の低いデータグラムを自動的に除去することとを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 93】

前記ユーザ設定可能なパラメータは、タイムアウトを含むことを特徴とする請求項 92 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 94】

前記ユーザ設定可能なパラメータは、ユーザ設定可能な再試行番号を含むことを特徴とする請求項 92 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 95】

前記モバイルコンピュータ装置は、前記モビリティ管理サーバを仮想アドレスと対応付け、関連付けられた可変の位置アドレスを有することとを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 96】

前記モバイル・インターセプタは、遠隔プロシージャ・コール・プロトコルを用いて前記モビリティ管理サーバと通信することとを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 97】

前記モバイルコンピュータ環境は、前記モバイルコンピュータ装置を前記モバイルコンピュータ環境に接続する少なくとも 1 つの物理的リンクを含み、前記モバイル・インターセプタは、前記物理的リンクでの中断後に前記モビリティ管理サーバから少なくとも 1 つのセッションの更新された接続状態情報を受け取ることを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 98】

前記モバイルコンピュータ装置は標準的なトランスポート・プロトコル・ハンドラを含み、前記モバイル・インターセプタは前記標準的なトランスポート・プロトコル・ハンドラを介して前記モビリティ管理サーバと通信することとを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 99】

前記モバイルコンピュータ装置は複数のアプリケーションソースを含み、前記モバイル・インターセプタは前記複数のアプリケーションソースに関連するデータをストリームに融合して、前記ストリームを前記モビリティ管理サーバに送信することとを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

【請求項 100】

前記モバイルコンピュータ装置は複数のアプリケーション目的地を含み、前記モバイル・インターセプタは、前記複数のアプリケーションソースからの融合されたデータを逆多重化して、前記逆多重化されたデータを複数のアプリケーション目的地に送信することとを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

10

20

30

40

50

## 【請求項 101】

前記モバイル・インターセプタは、フレームを用いて前記プロキシ・サーバと通信し、モバイルコンピュータ環境の最大伝送単位に適合するように、前記フレームに対して動的なサイズ変更を行うことを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

## 【請求項 102】

前記モバイル・インターセプタは、信頼性の低いデータのセマンティクスを維持し、前記信頼性の低いデータを前記セマンティクスに基づき選択的に破棄することとを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

## 【請求項 103】

前記モバイル・インターセプタは、前記プロキシ・サーバへのメッセージの保証配信、および／または前記プロキシ・サーバからのメッセージの保証配信を行うことを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

## 【請求項 104】

前記モバイル・インターセプタは、前記モバイルコンピュータ装置がアクセス可能なモバイルコンピュータ環境のリソースの制御を行うことを特徴とする請求項 88 記載のモバイルコンピュータ装置。

## 【請求項 105】

トランスポート・ドライバ・インターフェイスと、  
前記トランスポート・ドライバ・インターフェイスと接続されるモバイル・インターセプタを含む少なくとも一つのモバイルコンピュータ装置を含むモバイルコンピュータ環境であって、

前記モバイル・インターセプタは、前記トランスポート・ドライバ・インターフェイスでのネットワークサービス要求を傍受し、前記ネットワークサービス要求を受けて、遠隔プロシージャ・コールを生成し、前記遠隔プロシージャ・コールを少なくとも一つのプロキシ・サーバに送信し、

前記プロキシ・サーバは、前記モバイル・インターセプタによって送信された前記遠隔プロシージャ・コールを受信及び処理するワーク・ディスパッチャを少なくとも一つ含み、  
前記プロキシ・サーバは、前記モバイルコンピュータ装置が前記モバイルコンピュータ環境と一時的に切断された時に、前記モバイルコンピュータ装置の代わりに仮想セッションをブロキシングするプロキシ・キューを含むことを特徴とするモバイルコンピュータ環境。

## 【請求項 106】

ネットワーク接続ポイントを介してネットワークと接続されるモバイルコンピュータ装置を少なくとも一つ含むモバイル・コンピューティング・ネットワークにおいて、ネットワーク接続ポイントの識別子の少なくとも一部分に基づき、前記モバイルコンピュータ装置が異なるネットワーク・セグメントに移動したかどうかを検出するインターフェイス補助ロミングリスナを含むことを特徴とするモバイル・コンピューティング・ネットワーク。

## 【請求項 107】

前記モバイルコンピュータ装置はネットワーク・インターフェイス・アダプタを含み、前記リスナは前記ネットワーク・インターフェイス・アダプタから前記ネットワーク接続ポイントの識別子を取得することを特徴とする請求項 106 記載のネットワーク。

## 【請求項 108】

前記リスナは、前記ネットワーク接続ポイントの識別子をネットワーク接続についての詳細情報に相関させる情報を記憶するネットワーク・トポロジ・マップを保持することを特徴とする請求項 106 記載のネットワーク。

## 【請求項 109】

前記リスナは、前記ネットワークとの通信がいつ中断または再確立されるかを検出することとを特徴とする請求項 106 記載のネットワーク。

## 【請求項 110】

前記インターフェイス補助ロミングリスナは、(a) ネットワーク通信の中断及び再確立、及び (b) 前記ネットワーク接続ポイントの識別子の变化の検出を受けて、ローミン

10

20

30

40

50

グ信号を生成することを特徴とする請求項109記載のネットワーク。

【請求項111】

前記モバイルコンピュータ装置において使用されるインターフェイススペースのリスナであって、インターフェイススペースのリスナは少なくとも1つのネットワーク・インターフェイス・アダプタからの情報と、少なくとも1つのネットワークスタックから入手可能な情報を統合して、前記モバイルコンピュータ装置が新しいネットワーク接続ポイントに移動したかどうか判定することを特徴とするインターフェイススペースのリスナ。

【請求項112】

ネットワーク接続ポイント情報を含むネットワーク接続情報を提供するネットワーク・トポロジ・マップを含むことを特徴とする請求項111記載のインターフェイススペースのリスナ。 10

【請求項113】

上記リスナは学習情報に基づき前記ネットワーク・トポロジ・マップを動的に構成することを特徴とする請求項112記載のリスナ。

【請求項114】

イベント発生に基づき、ステータスをチェックするステータスチェッカーを含むことを特徴とする請求項111記載のインターフェイススペースのリスナ。

【請求項115】

前記イベントはタイマーのタイムアウト、ローレベルのローミング・ドライバ・コールバック、ネットワーク・レベル・アクティビティ・ヒントのいずれかを含むことを特徴とする請求項111記載のインターフェイススペースのリスナ。 20

【請求項116】

モバイルコンピュータ装置が既に現在のネットワーク接続ポイントを訪れたかどうかインターフェイスに照会する接続情報探索部を含むことを特徴とする請求項111記載のインターフェイススペースのリスナ。

【請求項117】

新しいネットワーク・セグメントにおいて有効となる現行のアドレスを登録または再取得する接続構成を含むことを特徴とする請求項111記載のインターフェイススペースのリスナ。

【請求項118】

インターフェイスから提供された情報の少なくとも一部分に基づいて、前記モバイルコンピュータ装置が異なるネットワーク・セグメントに移動したことの検出を受けてローミング信号を生成するローミング信号発生器を含むことを特徴とする請求項111記載のインターフェイススペースのリスナ。

【請求項119】

予め割り当てられたアドレスがまだ有効かどうかを判定するヒューリスティック・アナライザをさらに含むことを特徴とする請求項118記載のインターフェイススペースのリスナ。

【請求項120】

モバイルノードが新しいネットワーク接続ポイントに移動したかどうか判定する方法であって、 40

(a) ネットワーク・インターフェイスからネットワーク接続ポイントの識別情報を受け取るステップと、

(b) 前記ネットワーク接続ポイントの識別情報を使用して前記モバイルノードが新しいネットワーク接続ポイントに移動したかどうかを判定するステップと、

(c) 前記ステップ(b)を受けて信号を生成するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項121】

請求項120記載の方法であって、  
ネットワーク・トポロジ・マップを保持するステップ、及び前記ネットワーク・トポロジ 50

・マップを使用して前記ステップ(c)を行うステップをさらに含むことを特徴とする方法。

【請求項122】

請求項120記載の方法であって、

前記ステップ(c)はローミング信号を生成するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項123】

請求項120記載の方法であって、

前記ステップ(b)はネットワーク・アダプタから前記ネットワーク接続ポイントの識別情報を取得するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項124】

請求項120記載の方法であって、

一般的な信号をサポートするネットワーク・インターフェイスが利用不可の場合、選択的ローミング検出機構にフォールバックするステップをさらに含むことを特徴とする方法。

【請求項125】

請求項120記載の方法であって、

前記ネットワーク接続ポイント情報の少なくとも一部分を受けて、択一的なネットワーク接続パスから選択するステップをさらに含むことを特徴とする方法。

【発明の詳細な説明】

【発明の背景】

本発明は、ネットワークによって接続されたコンピュータ装置間の接続性に関する。より詳細には、ノマディック(nomadic)システムの特性を透過性(トランスペアレント)を有する状態で扱うとともに、既存のネットワーク・アプリケーションを、対応するモバイル環境で確実に動作させる方法とシステムに関する。さらに詳細には、断続的に接続される、携帯型データ端末(handheld data units)やパソコン装置などの装置間における、連続的なデータストリームのやり取りを可能にする技術およびシステムに関する。

【0001】

【発明の背景および要約】

近年、各企業は、重要な情報への迅速なアクセスこそが競争優位を保つための方策であると認識するようになってきた。このことから、特に安価なラップトップやハンドヘルドのコンピュータ装置の普及とも相まって、モバイルなどの断続的な接続が行われるコンピュータ装置が急速に企業ネットワークの重要な一要素となりつつある。しかしながら、こうしたノマディックな装置を既存のネットワーク・インフラへと統合することは、各企業の情報管理担当者にとって頭の痛い問題ともなっている。

【0002】

モバイルネットワーキングに関する問題の多くは、イーサネット(登録商標)登場以前にローカルエリア・ネットワーク(LAN)構築に伴っていた問題に近い。即ち、モバイル・プロトコルやインターフェイスには多くの種類があり、また、まだ規格が制定段階にあることから、異なるシステム間の相互運用性は無いも当然である。さらに、上記のようなネットワーク技術による通信はたいいてい低速で帯域幅も限られており、各システムの特長から、アップデートに伴う費用も高額になっている。

【0003】

こうした問題に加えて、モバイル技術は、以下のような固有の問題も有している。即ち、メインのネットワークと相互接続する際には公共のネットワーク・インフラを経由する場合があるが、この際に機密情報が傍受されてしまう危険性がある。さらに、無線装置を経由して相互接続する場合であれば、機密情報がいわば「放送」されてしまうことになり、類似のインターフェイスを所有する誰もが該情報をたいした障害もなく傍受することができてしまう。

【0004】

しかし、おそらく上記のような問題よりもさらに重要な問題としては、従来、モバイルネ

10

20

30

40

50

ットワーキングが使われるのは基本的にメッセージ指向あるいはステートレスなアプリケーションに限られていて、クライアント/サーバ、ホスト/ターミナル方式をとるウェブベースあるいはファイル共有型のシステムモデルを利用した、既存あるいは新規の業務用アプリケーションには適さなかったことである。これは、一般的な業務用アプリケーションが効果的かつ確実に動作するためには、ステートレスなバケット交換だけでなく、連続的なデータストリームを用いたステートフルなセッションが必要であるという理由からであった。

#### 【0005】

このため、主要な市販のネットワーク・アプリケーションのほとんどは、TCP/IPセッションか、専用の仮想回路を必要としている。このようなセッションは、ネットワークが中断された場合はそれ以上機能できず、また接続時には、ネットワーク間のローミング（ネットワークアドレスの変更）が不可能である。さらに、モバイルネットワークは本質的に動的であり信頼性が低い。これらの問題について、以下では、モバイルネットワークにおいてよく見られる状況をいくつか考察することにする。

#### 【0006】

（非接続あるいは圏外のユーザ）

モバイル装置が所与のネットワークから切断されるかあるいはネットワークとのコンタクトを失う（つまり、無線相互接続の圏外に出たりネットワークがカバーしていない「穴」に入った）と、携帯装置上で動作しているセッション指向のアプリケーションはピアとのステートフルな接続を失い、動作を停止する。装置が再び取り付けられるかあるいは装置とネットワークとのコンタクトが回復すると、ユーザはネットワークとの再接続を行い、セキュリティ確保のために再ログインを実行して、アプリケーションにおいてどこで作業が中断されたかを同定し、必要ならば失われたデータの再入力を行わなければならない。このような再接続処理は時間を要し、費用もかかり、またユーザを非常に苛立たせることにもなる。

#### 【0007】

（他のネットワークへの、あるいはルータ境界を越える移動（ネットワークアドレス変更））

モバイルネットワークは通常、管理容易性の見地からセグメント化されているが、一方でモバイル装置はその用途上、ローミングが可能になっている。相互接続されたネットワーク間のローミングとは、ネットワークアドレスが変更されるということを意味する。ネットワークアドレスがシステムの動作中に変更される場合、対応しているピア同士の接続を保つためにルーティング情報を変更することが必要になる。さらに、新しいネットワークアドレスを取得するために、それまでに確立されたステートフルなアプリケーションのセッション全てを終了させなければならない場合もあり、上記の再接続処理に関わる問題がここでも浮上する。

#### 【0008】

（セキュリティ）

既に述べたように、各企業は機密情報を守る必要がある。市販のアプリケーションの多くは、物理的ネットワークへのアクセスがコントロールされ（つまり、安全な施設の内部に構築されたケーブルを使って実行され）、セキュリティは、認証や場合によっては暗号化に関する付加的な層を通じて保持されることを前提として作成されている。しかしながら、ノマディック・コンピューティングではこうした前提は自明のものではない。というのも、公共の電波や有線インフラを通過する際にデータが傍受されてしまう危険性があるからである。

#### 【0009】

このため、ノマディックなシステムの特性を透過性を有するものとすることによって、既存のネットワーク・アプリケーションが種々のモバイル環境で確実に動作することを可能にした、統合的なソリューションの登場が大いに望まれる。

#### 【0010】

10

20

30

40

50

本発明は、上記の問題を解決するために、企業内ネットワークを延長して、ネットワーク管理者がモバイル装置のユーザも固定装置のユーザと同じアプリケーションに容易にアクセスできるようにすることを可能にすると同時に、信頼性やネットワーク管理の一元性も失わず、一貫したソリューションを提示する。該ソリューションは、これまでの有線ネットワーク規格の長所を、発展しつつあるモバイルネットワークに関する規格にも持たせることで、既存のネットワーク・アプリケーションにも対応したものとなっている。

【0011】

本発明の非限定的で例示的具体的な実施の形態の一側面においては、モバイル相互接続 (mobile interconnect) に接続されたモビリティ管理サーバ (Mobility Management Server; MMS) は、数量を限定されないモバイル端末システム (Mobile End Systems; MES) それぞれの状態の維持や、ネットワークへおよびピアにおけるアプリケーション処理への持続的な接続の維持に必要な、複雑なセッションの管理を行う。あるモバイル端末システムが、圏外に出てしまったり、サスペンドしたり、あるいは (あるモバイル相互接続から別の相互接続へとローミングすることなどで) ネットワークアドレスを変更したりした場合でも、モビリティ管理サーバは該システムと、該システムと対応しているピアとの接続を維持する。言い換えれば、該モバイル端末システムは、実際には物理的な接続が一時的に中断されてしまうにも関わらず、ピアとの仮想的な接続を維持し続けることになる。

【0012】

また、上記本発明の非限定的で具体的な実施の形態は、以下の (これらに限定されないが) 新規かつ有用な技術、構成を提示する。

【0013】

- ・ユーザによって設定可能なセッション特性をモバイル・クライアントに付与するモビリティ管理サーバ。

【0014】

- ・ネットワーク・リソースの消費に関し、ユーザごとにモバイル装置のポリシーを管理。

【0015】

- ・工業規格である動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol; DHCP) をモビリティ管理サーバと連携させて用いるローミング方法。

【0016】

- ・ユーザによって設定可能なタイムアウト条件に基づいて、信頼性の低いデータグラムを自動的にシステムから除去。

【0017】

- ・ユーザによって設定可能な再試行条件に基づいて、信頼性の低いデータグラムを自動的にシステムから除去。

【0018】

より詳細には、上記本発明の好ましい具体的な実施形態の一例において、モバイル相互接続ネットワークに接続されたモビリティ管理サーバが備えられている。該モビリティ管理サーバは、数量を限定されないモバイル端末システムそれぞれの状態を維持し、ネットワークへおよび他の処理 (例えば他のネットワークベースのピア・システムにて実行される処理) への持続的な接続の維持に必要な、複合的なセッションを管理する。あるモバイル端末システムが、圏外に出てしまったり、サスペンドしたり、あるいは (あるモバイル相互接続から別の相互接続へとローミングすることなどで) ネットワークアドレスを変更したりした場合、モビリティ管理サーバはデータの受信と待 要求を認識して、該システムと、該システムと対応しているピアとの接続を維持する。このようにモビリティ管理サーバがプロキシとして働くことにより、モバイル端末システム上で動作するアプリケーションは、あるネットワーク媒体との物理的な接続が一時的に中断された場合でも、持続的な接続を維持することができる。

【0019】

10

20

30

40

50

また、上記本発明の好ましい実施形態の他の一例において、モビリティ管理サーバはモバイル端末システム用のアドレスを管理する。モバイル端末システムには、それぞれにプライベートネットワーク上のプロキシ・アドレスが割り当てられている。この非常に汎用性の高いアドレスはモバイル端末システムの「仮想アドレス」と呼ばれる。モビリティ管理サーバはこの仮想アドレスを、ノマディック・システムにおける現在の「位置」アドレスと対応付ける。モバイル端末システムの位置アドレスは、該システムがネットワーク間を移動する際に変更されるが、仮想アドレスの方は、どの接続がアクティブになっているかが、接続時間が長くなっていようが、上記アドレスが静的に割り当てられている限りは一定となる。

【0020】

上記本発明の好ましい実施形態のさらに他の一例において、モビリティ管理サーバは、コンソール（制御）アプリケーションと包括的なメトリクスとによってモバイル端末システムの集中的な管理を実現する。さらに、好ましい実施形態では、ユーザによって設定可能なセッション特性を、プロキシ・サーバ上で実行されるモバイル・クライアントについて実現し、ネットワーク・リソースの消費に関し、ユーザごとにモバイル装置のポリシー設定を管理する。

【0021】

さらに、上記一側面においては、遠隔プロシージャ・コール（RPC）・プロトコル（Remote Procedure Call protocol）およびインターネット・モビリティ・プロトコル（Internet Mobility Protocol）が、プロキシ・サーバと各モバイル端末システムとの間の通信の確立に使用されている。

【0022】

遠隔プロシージャ・コールによって、ローカルなシステムから、遠隔のシステムにおけるプロシージャを呼び出す処理が可能になり、RPCプロトコルを使用することで、モバイル端末システムが接続を切ったり、圏外に行ったり、動作をサスペンドしたりということや、アクティブなネットワークセッションを中断することなくできるようになる。このように、セッションの維持は専用のアプリケーションによってなされるわけではないので、市販のアプリケーションを、何ら変更することなくノマディックな環境下で使用することができるようになる。

【0023】

RPCプロトコルは、トランザクションを、標準的なネットワークトランスポート・プロトコルおよびインフラを経由して送られるメッセージに生成する。このRPCメッセージは、モバイル端末システムにおいて実行されているアプリケーションによって開始されたネットワーク・トランザクション全体を含んでおり、これにより、モビリティ管理サーバとモバイル端末システムとの間の接続状態情報を、両者の間の物理的な接続が途切れていときをも含め、常にシンクロしておくことが可能になる。RPCを備える上記本発明の実施形態において、プロキシ・サーバとモバイル端末システムとは、全ての時間における全ての共有接続に関する統一された論理データベースを管理すべく、各トランザクションの状態について十分な情報を共有している。

【0024】

上記本発明の好ましい実施形態におけるインターネット・モビリティ・プロトコルは、有線ローカルエリア・ネットワークと、それよりも信頼性の低い、無線LANおよびWANといったネットワークとの間の相違を補償する。フレームサイズとプロトコルタイミングとが調整されることで、モバイル環境を考慮していない通信に比べるとパフォーマンスが大幅に改善され、ネットワークのトラフィックは大きく減少する。これは、帯域幅が限られているときやバッテリーの寿命を考慮に入れなければならないときに、特に重要になる。さらに、上記本発明の好ましい実施形態におけるインターネット・モビリティ・プロトコルによって、公共のネットワークもしくは無線を通じて、モバイル端末システムモビリティ管理サーバ間で伝送が行われる際の、機密データの安全性が確保される。インターネット・モビリティ・プロトコルは、認証された装置からのみプライベートなネットワ

10

20

30

40

50



ークにアクセスできるようにすることで、基本的なファイアウォールとしての機能も果たす。また、インターネット・モビリティ・プロトコルにより、モバイル端末システムーモビリティ管理サーバ間の全ての通信を認証、暗号化することも可能である。

#### 【0025】

上記本発明の好ましい実施形態のさらに他の一例において、モバイル相互接続は、標準的なネットワーク・アプリケーションのインターフェイスが適用できる範囲を広げるべく、標準的なトランスポート・プロトコル（例としてTCP/IP、UDP/IP、DHCP）を使用して構築される。上記本発明の好ましい実施形態によって、データ転送、セキュリティ、アドレス管理、装置管理、ユーザ管理が効果的に統合され、ノマディック環境を効果的に透過性を有する状態とすることができる。インターネット・モビリティ・プロトコルは、複数のデータストリーム（信頼度の高いものも低いものも）を、標準的なネットワーク・インフラ上で標準的なトランスポート・プロトコルによって与えられる、単一の仮想チャネルを通じて多重化するための効果的な方法を提供する。

#### 【0026】

RPC層を用いて、インターネット・モビリティ・プロトコルは、違うソースから供給され、違うまたは同じ目的地へと向かうデータを融合させて単一のデータストリームとし、これをモバイルリンクを介して送る。該モバイルリンクの反対側の端において、該データストリームは逆多重化されて複数の異なったデータストリームとなり、それぞれの最終的な目的地に伝送される。この多重化／逆多重化により、利用可能な帯域幅を（最大限のサイズのネットワークフレームを生成すること）最大限に使うことができ、複数のチャネルを確立することができる（よって、優先順位付けが可能になり、基礎をなしているネットワークがデータ通信サービスを供給している場合であれば、その品質を保証することができる可能性もある）。

#### 【0027】

上記本発明の実施の形態に関するインターネット・モビリティ・プロトコルは、さらに以下のような特徴や利点を実現する。なお、本発明は以下の点に限定されるものではない。

#### 【0028】

- ・トランスポート・プロトコルの独立性
- ・ネットワーク上における位置（point of presence；POP）あるいはネットワーク・インフラを、データの流れに影響を与えることなく変更可能（物理的境界、ポリシー、あるいは帯域幅による制約が無い場合のみ）
- ・付加的な経費が最小限
- ・伝送媒体に適した自動的なフラグメントのサイズ変更（あるフレームのプロトコル・データ・ユニットがネットワーク媒体の利用可能な上限の伝送ユニットよりも多いとき、インターネット・モビリティ・プロトコルは該フレームをフラグメント化し、再構築する。このことにより、該フレームのネットワーク伝送を保障することが可能となる。再伝送の際、該フレームは再度検査される。ネットワーク・インフラもしくは環境が変化していた場合、該フレームは再度フラグメント化されるか、あるいは伝送ユニットの上限が実際に上昇しているときには単一のフレームとして伝送される。）
- ・再伝送の際に、フレームに信頼性の低いデータを破棄させることで、信頼性の低いデータのセマンティクスを保持
- ・信頼性の高いデータグラムサービスにおける新しいセマンティクスを提供（これにより、インターネット・モビリティ・プロトコルによるピアの端末へのデータグラムの伝達が保証され、要求しているエンティティに伝達の通知がなされる）
- ・上りと下りの伝送パスをそれぞれ別に扱って、自動的に操作パラメータを調整し最適なスループットを実現（ヒステリシスに基づいて、フレームサイズ／フラグメント化の閾値、待機中のフレーム数（ウィンドウ）、再伝送時間、およびネットワークを通じて送られる複製データの量を減少させるための遅延承認時間などのパラメータを調整）。

#### 【0029】

- ・ネットワーク障害に対する耐性（モバイル環境での使用が想定されているため、一時的

10

20

30

40

50

にネットワーク媒体間の接続が切断されても、仮想チャネルが切断されたりアプリケーションベースの接続が切断されたりしてしまうことがない)

・操作パラメータを調整するための帯域内信号方式をピアに対して提供(接続された端末のそれぞれから、そのピアに対してネットワーク・トポロジや環境の変化に関する警告を出すことが可能)

・輻輳回避アルゴリズムを採用し、必要なときにはスループットを効果的に減衰  
・選択的な確認応答と高速での再伝送とによって無駄な再伝送の回数を制限し、ノマディック環境におけるハンドオフ回復のスピードアップを実現(これにより、プロトコルはロスの多いネットワーク環境においても最適なスループットを維持)

・複数のフレームを待機状態にする、スライディング・ウィンドウ技術を採用(このパラメータは各方向に調整可能で、ピアからの確認応答を要することなくフレームを所定の上

限までストリーミングするために与えられる)

・シーケンス番号が非バイト指向であることにより、単一のシーケンス番号で最大のペイロード・サイズまでを表現可能

・セキュリティ対策(インターネット・モビリティ・プロトコル層に認証層と暗号化層を追加可能)

・圧縮によって、帯域幅の限られた接続における効率性を確保

・どちらのピアも新たな位置に移動することが可能な平衡型設計

・どちらの側からでもピアへの接続が確立可能

・休止している接続を迅速に破棄して消費されていたリソースを回復する、休止タイムアウトを発動可能

・接続に対して任意の最大持続時間を設定可能(例えば、所定の期間経過後あるいは所定の日の後に、接続の終了および/または拒否が可能)。

#### [0030]

本発明の好ましい具体的な実施形態においては、システム管理者によるネットワーク・リソースの消費の管理が可能である。例えば、システム管理者は、モバイル端末システム、モビリティ管理サーバの少なくとも一方をコントロールすることができる。この場合のコントロールとは、例えばネットワーク帯域幅や他のリソースの配分の管理や、セキュリティ関連の事項を指す。管理はクライアント側で多数のリソースを持っているクライアントについて実行するのが効果的である。しかしながら、リソースを多く持たないシン・クライアントにポリシー管理のための付加的なコードや処理を負わせるのは望ましくない。よって、シン・クライアントの管理についてはモビリティ管理サーバ等によって集中的に行う、あるいはその一部を分担するのが最も現実的な解決策であると考えられる。モビリティ管理サーバがモバイル端末システムの各データストリームをプロキシすることによって、ポリシー管理が集中的に行われる。さらに、モビリティ管理サーバがユーザごとにプロキシを行うので、ユーザごと、装置ごとに、ネットワーク・リソースへのアクセスを管理し制限することができる。

#### [0031]

簡単な例を挙げると、モビリティ管理サーバは、特定のユーザによるあるネットワーク・リソースへのアクセスを「締め出す」(lock out)ことができる。この点は、インターネットフェーズのネットワークが、モバイル相互接続によって組織の管理下にある施設の境界よりも外に「延長」(extend)されてしまっていることを考えると非常に重要である(例えば、以前動いていた職場のネットワークに、元従業員が外部からアクセスを試みるといった場合を考えよ)。これにとどまらず、モビリティ管理サーバによるポリシー管理はさらに多くの利点を提供しうる。例えば、モビリティ管理サーバによって、あるURLに特定のユーザのみがアクセスできるようにしたり、ネットワークサービスによる要求によって戻されるデータをフィルタリングしたり、ネットワークの帯域幅保全のためにデータを圧縮したりということが可能になるといった点である。このように、既存もしくは新規のアプリケーションレベルのサービスを、シームレスかつ透過的な形で強化することができる。

10

20

30

40

50

## 【0032】

また、モバイル端末システムは「信頼性の低い」(untrusted)ネットワーク(つまり組織の管理が及ぶ範囲外のネットワーク)とも接続されるため、リモート接続中に悪質なサイバー攻撃に遭う可能性がある。モバイル端末システムとの間でポリシーやフィルタを共有することで、悪質な接続からのモバイル端末システムの保全、リモート・ノードにおける進入(ingress)フィルタリング、そして企業インフラの集中管理のさなるセキュリティ向上が可能になる。

## 【0033】

本発明の実施形態の他の一例では、インターフェイスによって補助されたローミングのリスナ(listener)によって、モバイル端末システムが一般的な信号伝達をサポートしたインターフェイスを利用し、インターフェイスによって補助されたローミングを行うことが可能になる。本発明の上記実施形態の一例の側面において、モバイル端末システムの、インターフェイスベースのリスナは、所定の事象(例えばコールバックや、タイマーによるタイムアウト、データの損失を示唆するネットワーク活動など)に際して、モバイル端末システムの媒体の接続状態が変化したか否かを判定する。これは例えば、リスナが、モバイル端末システムが切り離されてネットワークと通信できる状態でなくなったことを検知して、インターフェイスにこれを示唆するといったことを意味する。再接続の際、リスナは予め記録された接続識別情報(attachment identification information)におけるネットワークポイントを参照して、モバイル端末システムが同じネットワークポイントに再接続されたか否かを判定する。再接続が同じネットワークポイントになされていた場合、リスナはモバイル・クライアントに、トランスポート・レベルでの通信の再確立を進めることを警告する。再接続が別のネットワークポイントになされていた場合、リスナはモバイル端末システムが「ローミング」(roam)状態であることを示し、現状におけるネットワーク・セグメントで使用可能なアドレスをシステムに取得させるようにする(これは例えば、現行のアドレスを新規のサブネットにおいて有効であるように登録することを含んでもよい)。リスナは(操作を介して学習した)ネットワーク・トポロジのマップを保持して、そのクライアントに対して生成される信号(「同一サブネット上のローミング」、「ローミング」等)の適否を判定する一助としてもよい。

## 【0034】

上記本発明の非限定的な好ましい具体的実施形態の他の一例においては、モビリティ管理サーバ(MMS)に「非接続ネットワーク」(disjoint networking)モードでアクセスすることが可能である。この新しいアルゴリズムによって、あるネットワーク・インフラからは別のネットワーク・インフラにおけるネットワークアドレスが分からないような非接続ネットワーク・トポロジにおいても、MMSとの通信を確立する/持続するのに使われる、代替のネットワークアドレスを動的/静的に見つけ出すことができるようになる。この構成により、MMSが利用可能な代替アドレスのリストが予め設定され、通信中にMES(モバイル端末システム)に送られるかあるいはMESによって動的に学習される。実施の一形態において、MMSはMESに、一つ以上のMMSネットワークアドレスもしくは他のネットワークに対応した他のMMSのアイデンティティを、単一のネットワークによる通信によって送ることができる。該リストは、回路構築の際やその他接続が確立されている間のいかなる時にも、送付/更新が可能である。

## 【0035】

MESが別のネットワークへと移動するとき、MESは該ネットワークにおける新規のネットワーク接続を通じてMMSとコンタクトをとるために、MMSの「エイリアス」(alias)アドレス/アイデンティティのリストを用いる。これにより、移動前のネットワークと移動後のネットワークとがアドレス、ルートその他の情報を共有してなくても、MESは新規のネットワーク接続を通じてMMSとのコンタクトを再確立することができる。

## 【0036】

10

20

30

40

50

上記本発明の実施の形態のさらに他の例において、ポリシー管理に関する意思決定は分散型モバイルネットワークプロジの内部にて行われ、例えば、ルールベースのポリシー管理プロシージャが、様々なメトリクスに基づいて要求の遂行を許可、拒絶、または制限する。このような管理形態は、例えば、マルチホーム/パス環境における最少コストルーティングといったコストメトリクスに基づいて意思決定をする際に用いられる。

#### [0037]

このようなポリシー管理技術では、意思決定の際にモビリティあるいは位置取得（つまりローミング）に関する事項が考慮に入れられてもよい。例えば、管理ルールが装置の位置（ネットワークのどの接続ポイント、例えばアクセスポイント/基地局、ハブ、ルータ、GPS座標等に近いかなど）に基づいて決定されてもよく、これにより、特定の操作が、あるビル内では許可されるが別のビルでは許可されないといったことが可能になる。例えば複数の違った無線ネットワークを利用している企業の場合にこの構成が有用であると考えられる。このような企業において、例えば積込ドックとオフィスとが無線ネットワークで接続されている場合がある。システム管理者は、積込ドックにいる従業員（例えばユーザや装置）がオフィス環境の無線ネットワークにアクセスできないようにすることができる。さらに、ポリシー管理によって、許可、拒否、遅延という3つの状態のいずれかをもたらすようにすることも可能である（例えば、決定が帯幅やコストに基づいてなされる場合、操作の実行はより適切な時期がくるまで遅延される）。

#### [0038]

上記実施例におけるポリシー管理においては、決定に基づいて動作を変更することが可能となっている。ひとつのアクションの例としては、全てのアクティブなアプリケーションによる帯幅の消費を抑えるというものがある。また、例えば、著しく帯幅を消費する特定のアプリケーションが存在する場合に、ポリシーエンジン（policy engine）によって該アプリケーションによる操作/トランザクションの完了までの速度を管理することが可能となる。この動作は、該アプリケーションの動作を抑制させることを動的に学習するようになっている。もうひとつのアクションの例として、データの復元（例えば、利用可能な/許可された帯幅やコスト、ユーザによる制限に基づいたグラフィックイメージのディザリング）がある。

#### [0039]

さらに、ルールエンジン（rules engine）は、ルール評価に基づいて他のアクションを発動させる。イベントをロギングする、警告を発する、ユーザにアクションが拒否、遅延、あるいは条件付けされたことを通知するといった外部プロシージャが実行されてもよい。これらのような通知は、既存のルールへのオーバーライドがオペレータから求められるというような、インタラクティブなものであってもよい。

#### [0040]

上記実施例におけるポリシー管理エンジン（policy management engine）において、その意思決定は、装置、装置のグループ、ユーザ・グループ、ユーザ、あるいはネットワーク接続ポイントに関連した、任意の数のメトリクスもしくはその組み合わせに基づいてなされていてもよい。

#### [0041]

ポリシー管理機能の一部として、他にもローカルベースの情報やサービスが、ポリシー管理、ネットワーク・モデリング、および/またはアセット・トラッキングのために取得され/備えられていてもよい。このようなサービスには、モバイル端末システムの現在位置に関連した情報がユーザやモバイル端末システムに自動的に提供される機能が含まれる。該情報は、メッセージ、ファイルその他の電子的フォーマットにて供給されてもよい。

#### [0042]

この機能の非限定的な利用例としては、ショッピングモール運営者、各種業界団体、大規模小売業者などがショッピングセンターに、ブルートゥース PAN、IEEE 802.11 LAN、802.15 PAN、その他の無線ネットワーク規格に準拠した、無線アクセスポイントを戦略的に設けるというものがある。この場合、顧客がセンター内を

10

20

30

40

50

歩き回るのにあわせて、モバイル端末システムの現在位置周辺の店舗は顧客に情報を提示することができる。この情報としては、セールやディスカウント、特典などについてのものが含まれる。これに加え、モバイル端末システムに販促用の電子クーポン券が供給されるのもよい。店舗側は上記のようなサービスを、モール運営者、業界団体、小売業者、あるいはその他のサービス提供者による集中的な管理機構に登録することになる。

#### 【0043】

上記技術が利用される他の非限定的な例として、現場サービス、訪問販売、宅配などのバーティカル産業において、位置を基準にして情報を収集する、地域サービス、地図、方角、顧客、事故など公共の情報を、位置を基準にモバイル端末システムに送る、などがある

10

#### 【0044】

さらに他の非限定的な例として、モバイル端末システムをモニタリング、トラッキングするウェブベースのサービスがある。例えば、顧客は該トラッキングサービスに登録し、信頼の置ける第三者機関が、ホスティングされているウェブサービスにログオンして顧客のモバイル端末システムの精確な位置を同定する。この場合、モバイル端末システムは車両に備え付けられてもよいし、歩行者に所持されていてもよい。モバイル端末システムのさらなる小型軽量化に伴い、このようなサービスはますます現実味を帯びてきている。該サービスを利用することで、危険度の高い人々、例えば高齢者、障害者、病人などを追跡、位置確認することができる。該サービスは、自動車その他の高価な動産や荷物をトラッキングすることにも利用できる。3G WANネットワーク、ブルートゥースネットワーク、802.11ネットワークその他の無線技術を利用し、ネットワーク媒体や接続ポイントを切り替えてもシームレスな接続性を保つことができるといいう特性を生かして、上記のサービスを非常に低いコストで実施することが可能である。

20

#### 【0045】

このように、本発明は企業ネットワークを延長して、ネットワーク管理者が、信頼性や集約的な管理形態を犠牲にすることなく、モバイル端末のユーザに、アプリケーションへの簡便なアクセスを固定端末のユーザの場合と同様に提供することを可能にする。本ソリューションは、既存の有線ネットワーク規格の長所を制段階にあるモビリティ規格にも持たせて、既存のネットワーク・アプリケーション上で動作可能なソリューションを生み出すものである。

30

#### 【0046】

本発明の他の目的、特徴、および優れた点は、以下に示す記載によって十分分かるであろう。また、本発明の利点は、図面を参照した以下の説明で明白になるであろう。

#### 【0047】

【好ましい実施の形態の詳細な説明】

図1は、本発明の、モバイル強化ネットワークコンピュータシステム100を例示している。該ネットワークコンピュータシステム100は、モビリティ管理サーバ102と、一つ以上のモバイル端末システム104とを含んでいる。モバイル端末システム104は、ローカルエリア・ネットワーク（LAN）108を通じてモビリティ管理サーバ102と通信することができる。モビリティ管理サーバ102は、モバイル端末システム104のネットワーク・レベルでのプロキシとして機能する。モビリティ管理サーバ102はこれを、それぞれのモバイル端末システムの状態を管理することと、ネットワーク・アプリケーションをホスティングしているどのピア・システム110とも、モビリティ管理サーバ102とモバイル端末システム104との間の相互接続が断続的で信頼性の低いものであっても常時接続を維持してゆくために必要な、複雑なセッション管理を行うことによつて成し遂げている。本好ましい実施形態では、モビリティ管理サーバ102は、本発明の遠隔プロシージャ・コール・プロトコルおよびインターネット・モビリティ・プロトコルを用いて、モバイル端末システム104と通信する。

40

#### 【0048】

この場合、モバイル端末システム104はモビリティ管理サーバ102とアクティブに接

50

続されるが、該接続は常時アクティブに行われるものではない。例えば、  
・複数のモバイル端末システム104a-104kが、モビリティ管理サーバ102と、  
モバイル相互接続によって（この場合無線で）通信する。例として、ローカル・エリアも  
しくはワイドエリア・ネットワーク108と無線（あるいは有線）でつながった、従来型  
の電磁（電波）トランシーバ106が考えられる。上記のようなモバイル相互接続により  
、モバイル端末システム104a-104kが、一つのカバーエリア（cover ar  
ea）107aから別のカバーエリア107kへとローミングすることが可能になる。一  
般的に、モバイル端末システム104が、あるカバーエリア107から別のエリアにロー  
ミングしたり、最も近いトランシーバ106から届く範囲を外れたり、あるいは信号を一  
時的に遮断（例えばビルの柱の裏側を通るなどで）されたりした場合、一時的に通信が切  
断される。 10

【0049】

・別のモバイル端末システム104l、104m…が、モビリティ管理サーバ102と、  
ドッキングポートやネットワークケーブルコネクタなどの着脱式（non-perman  
ent）有線相互接続109を介して通信する。モバイル端末システム104は、接続1  
09が外れたり、モバイル端末システム104の電源が切られたりした場合、一時的にL  
AN108から切断される。

【0050】

・さらに別のモバイル端末システム（例えば104n）が、モビリティ管理サーバ102  
と、ワイドエリア・ネットワーク、ダイヤルアップ・ネットワーク、衛星ネットワーク、  
インターネット等のネットワーク・トポグラフィ111を介してノマディック接続される  
。一例として、ネットワーク111のサービスは断続的なものであってもよく、他の例と  
して、モバイル端末システム104がある種類の接続形態から別の種類のものへと移行（  
例えば、モビリティ管理サーバ102と有線相互接続109を通じて接続される状態から  
ネットワーク111を通じて接続される状態へ移行、もしくはその逆）し、移行時に一時  
的に接続が切断されるという構成であってもよい。

【0051】

モバイル端末システム104は、標準的なモバイル装置や市販のコンピュータであってよく  
、例えば、モバイル端末システム104は、市販のトランシーバおよび／またはネット  
ワークカードを実装したラップトップコンピュータによって構成される。モバイル端末シ  
ステム104は、標準的なネットワーク・アプリケーションや標準的なOS（オペレーテ  
ィングシステム）を実行し、標準的なトランスポート・レベル・プロトコル（例えばTC  
P/IP）を利用して、トランスポート層で通信を行うものであってよい。本発明におい  
て、さらに、モバイル端末システム104がクライアントソフトウェアを実行することで  
、遠隔プロシージャ・コール・プロトコルおよびインターネット・モビリティ・プロトコ  
ルを用いたモビリティ管理サーバ102との通信が可能になる。上記両プロトコルは、そ  
れらと同様のトランスポート・レベルのプロトコルを利用して伝送される。 30

【0052】

モビリティ管理サーバ102は、ウィンドウズ（登録商標）NTサーバなどの標準的なサ  
ーバによってホスティングされるソフトウェアを含んでいてよい。本好ましい実施形態で  
は、モビリティ管理サーバ102は、規格に準拠したクライアント／サーバ型のインテリ  
ジェントサーバであって、企業ネットワーク108を透過性を有した状態でノマディック  
環境にまで延長するものである。モビリティ管理サーバ102は、数量を限定されないモ  
バイル端末システム104それぞれのネットワーク・レベルでのプロキシとして機能する  
が、モビリティ管理サーバ102はこれを、それぞれのモバイル端末システムの状態を管  
理することと、ネットワーク・アプリケーションをホスティングしているどのピア・シ  
ステム110とも、モバイル端末システム104とトランシーバ106との間のモバイル相互  
接続が断続的で信頼性が低いものであっても常時接続を維持してゆくために必要な、複  
雑なセッション管理を行うこととによって成し遂げている。

【0053】

10

20

30

40

50

例えば、サーバ 102 はどのような標準的（例えば TCP/IP ベースの）ネットワーク・アプリケーションであっても、変更を行うことなしに、モバイル接続を通じて実行させることができる。接続が切断されたり、圏外に出たり、あるいは動作をサスペンドしたりしたモバイル端末システム 104 のセッションは、サーバ 102 によって維持され、該システムが復帰した際にはサーバ 102 が上記セッションをレジュームする。モバイル端末システム 104 が圏外に出てしまったり、シャットダウンしたり、あるいは位置アドレスを変更した場合、モビリティ管理サーバ 102 は、データの受信に関して確認応答し、モバイル端末システムが再度通信可能となるまで要求を待機させることで、モバイル端末システムとピア・システム 110 との接続を維持する。

【0054】

サーバ 102 はまた、有線ネットワークにおける管理能力をモバイル接続にまで延長する。ネットワークソフトウェア層はそれぞれが互いに独立して動作するので、ソリューションをそれが展開されるそれぞれの環境に合わせてカスタマイズすることが可能である。

【0055】

一例として、モビリティ管理サーバ 102 が、ローカルエリア・ネットワークやワイドエリア・ネットワークのような標準的な企業ネットワーク 108 と接続され、該ネットワーク 108 は、様々な固定端末システム（例えば一つ以上のホストコンピュータ 110）110 と接続される状況が考えられる。モビリティ管理サーバ 102 によって、モバイル端末システム 104 と固定端末システム 110 との間の、連続セッション型データストリームを利用した通信が可能となるが、この通信は、モバイル端末システム 104 が、接続しているネットワーク相互接続とのコンタクトを失ったり、あるネットワーク相互接続 106、109、111 から別のネットワーク相互接続へと移動したりしても（例えば、無線相互接続の場合、ある無線トランシーバ 106 のカバーエリア 107 から別のカバーエリアにローミングしても）、利用可能となっている。

【0056】

モバイル端末システム 104 は、モビリティ管理サーバ 102 との結合を、スタートアップ時か、あるいはモバイル端末システムがネットワークサービスを要求した時に確立する。結合が確立されると、モバイル端末システム 104 は、一つ以上のネットワーク・アプリケーションのセッションを、連続的あるいは共時的に始めることができる。モバイル端末システム 104 - モビリティ管理サーバ 102 間の結合確立によって、モバイル端末システムが切断されたり、圏外に出たり、あるいはサスペンドしたりしても、モバイル端末システムにおけるアプリケーションのセッションを維持し、モバイル端末システムの復帰時には該セッションをレジュームすることが可能になる。本好ましい実施形態では上記の処理は完全に自動で行われ、ユーザによる介入は全く必要とされない。

【0057】

本発明の一例において、モバイル端末システム 104 は、UDP/IP のような標準的なトランスポート・プロトコルを用いてモビリティ管理サーバ 102 と通信を行う。標準的なトランスポート・プロトコルを使用することで、モバイル端末システム 104 が、標準的なルータ 112 など企業ネットワーク 108 に既存のインフラを用いて、モビリティ管理サーバ 102 と通信することが可能になる。本発明では、高レベルの遠隔プロシージャ・コール・プロトコルが、トランザクションを、モバイル強化ネットワーク 108 を介して、標準的なトランスポート・プロトコルを使用して送られるメッセージへと生成する。本好ましい実施形態において、上記のようなモバイル RPC メッセージは、モバイル端末システム 104 にて実行されるアプリケーションによって開始された、全てのネットワーク・トランザクションを含んでいるため、モビリティ管理サーバ 102 によって全てを完了させることができる。このことにより、モビリティ管理サーバ 102 とモバイル端末システム 104 とは、ネットワーク媒体の接続性が阻害されているときでも、接続状態情報を常に互いにシンクロさせておくことができる。

【0058】

モバイル端末システム 104 のそれぞれは、全てのネットワーク活動を傍受し、該ネット

10

20

30

40

50

ワーク活動をモバイルR P Cプロトコルを通じてモビリティ管理サーバ102にリレーするための情報をモバイル端末システム自体に提供するモビリティ管理ソフトウェアクライアントを実行する。本好ましい実施形態では、該モビリティ管理クライアントは、モバイル端末システム104に実装されているOS（ウィンドウズ（登録商標）NT、ウィンドウズ（登録商標）98、ウィンドウズ（登録商標）95、ウィンドウズ（登録商標）CEなど）と透過性を有する状態で協働して、クライアント側でのアプリケーションのセッションを、ネットワークとのコンタクトが失われても維持し続ける。

【0059】

モビリティ管理サーバ102は、それぞれのモバイル端末システム104の状態を管理し、例えば接続の反対側の端に接続されたホストコンピュータ110のような通信相手のピア108との連続的な接続を維持するために必要とされる複合的なセッション管理を行う。モバイル端末システム104との通信ができなくなったり、モバイル端末システム104がサスペンドしたり、あるいはネットワークアドレスを変更したり（例えばあるネットワーク相互接続から別のものにローミングしたり）した場合、モビリティ管理サーバ102は、モバイル端末システム104とホストシステム110などの接続端との間の接続を、データ受信に関して確認応答したり、要求を待機させたりすることによって維持する。このプロキシ機能によって、ピアのアプリケーションは、モバイル端末システム104との物理的な接続が絶たれたことを検知することがなくなる。よって、もしモバイル端末システムが一時的に接続を失ったり、あるカバーエリア107K内において、あるネットワーク相互接続106Aから別のネットワーク相互接続106Kへとローミングしたりした場合でも、（物理的接続が再確立された際に単純に作業をレジュームすること）モバイル端末システム104のアプリケーションと、その結合しているセッションを実行する端との間の連続的な接続を効果的に維持することができる。

【0060】

モビリティ管理サーバ102はまた、モバイル端末システム104がセグメント化されたネットワークの様々な部分をローミングする際、異なったネットワークアドレスを受信するという問題を解決するべく、アドレスを管理することが可能となっている。モバイル端末システム104はそれぞれ、プライマリネットワーク上での仮想アドレスを有している。該仮想アドレスは、標準的なプロトコルによって、あるいは静的割り当てによって決定されている。モバイル端末システム104のそれぞれについて、モビリティ管理サーバ102は該システムの現状における実際の（位置）アドレスに対応して仮想アドレスを割り当てる。モバイル端末システム104の、あるネットワーク・セグメントから他のセグメントへの移動に伴って、該システム104の現在位置アドレスが変更されても、仮想アドレスは、どの接続がアクティブになっているかが、接続時間が長くなっているが、上記アドレスが静的に割り当てられている限りは一定となる。

【0061】

よって、モバイル端末システム104の位置アドレスの変更は、モビリティ管理サーバ102を介して、結合しているホストシステム110（および他のピア）におけるセッションを実行する端からは完全に透過性を有する状態となっている。ピア110から見えるのは、サーバ102によってプロキシされた（不変の）仮想アドレスのみということになる。

【0062】

本好ましい実施形態では、モビリティ管理サーバ102はさらに、コンソール（制御）アプリケーションと包括的なメトリクス（exhaustive metrics）とによる、集中的なシステム管理が可能である。システム管理者は、上記のツールを利用して、遠隔接続を設定、管理し、遠隔接続およびシステムにおける問題を解決することができる。

【0063】

モビリティ管理サーバ102によるプロキシ・サーバ機能によって、ネットワーク・アプリケーション、ユーザ、そして装置にそれぞれ異なった優先レベルを設定することができ

10

20

30

40

50



るようになる。これは、モビリティ管理サーバ102が有する処理用のリソースが有限であることを鑑みれば、有用なものである。システム管理者が上記のようにモビリティ管理サーバ102の設定を変更できることで、システムおよびネットワークのパフォーマンスが全体として向上する。一例として、システム管理者がモビリティ管理サーバ102の設定を変更できることにより、音声や映像のストリーミングのようなリアルタイムのアプリケーションに対して、モビリティ管理サーバ102のリソースを、あまりリソースを使用しないメールソフトのようなアプリケーションよりも多く割り当てることができる。

#### 【0064】

詳しく説明すると、モビリティ管理サーバ102は、アプリケーション、もしくはSNMPのような標準的なネットワーク管理プロトコル、ウェブベースの設定インターフェイス、ローカルなユーザインターフェイスなどのアプリケーション・インターフェイスを介して設定される。結合 (association) そのものの優先度、および/または、ある結合における複数のアプリケーションの優先度を設定することも可能である。例えば、モビリティ管理サーバ102を介して動作する他の結合と関連している結合それぞれの優先度は、ユーザあるいは装置ごとに設定可能である (本実施形態では、ユーザおよびユーザがログインした装置の両方を優先するように設定された場合に、ユーザに関する設定のほうがより優先されるように設定されてもよい)。あるいは結合それぞれについて、アプリケーションの優先度に関し、ネットワーク・アプリケーションごとのいくつかのレベルが設定されていてもよい。本システムでは、優先レベルはいくつでも設定することが可能である。一例として、低、中、高の3つの優先レベルが設定される例が考えられる。

#### 【0065】

(サーバ/クライアント型ソフトウェア・アーキテクチャの例)

図2に、モバイル端末システム104とモビリティ管理サーバ102とのソフトウェア・アーキテクチャの一例を示す。本発明の一例において、モバイル端末システム104とモビリティ管理サーバ102は標準的なOSおよびアプリケーション・ソフトウェアを実行するが、このときに、ほんの少数のコンポーネントを新しく追加するだけで、断続的に接続されるモバイルネットワーク108を介した、信頼性が高かつ効果的、持続的なセッションが実行可能となっている。図2に示すように、モバイル端末システム104は、ネットワーク・インターフェイス・ドライバ200、TCP/UDPトランスポートサポート202、トランスポート・ドライバ・インターフェイス(TDI)204、および一つ以上の従来型のネットワーク・アプリケーション208に対するインターフェイスとして使われるソケットAPI206を含む、従来型のOSソフトウェアを実行する。従来型のネットワーク・ファイル/プリント・サーバ210が、従来型のTDI204との通信用にさらに設けられていてもよい。サーバ102は、上記と類似した、従来型のネットワーク・インターフェイス・ドライバ200'、TCP/UDPトランスポートサポート202'、トランスポート・ドライバ・インターフェイス(TDI)204'、および一つ以上の従来型のネットワーク・アプリケーション208'に対するインターフェイスとして使われるソケットAPI206'を有している。モバイル端末システム104とモビリティ管理サーバ102はそれぞれ、さらにネットワーク/セキュリティ・プロバイダ236 (モバイル端末システム)、ユーザ/セキュリティ・データベース238 (サーバ)を備えていてもよい。

#### 【0066】

本発明では、新規のモバイル・インターセプタ・コンポーネント212が、モバイル端末システム104のソフトウェア・アーキテクチャにおける、TCP/UDPトランスポートモジュール202とトランスポート・ドライバ・インターフェイス(TDI)204との間に挿入されている。該モバイル・インターセプタ・コンポーネント212は、トランスポート・ドライバ・インターフェイス(TDI)204における特定のコールを傍受して、該コールを、ネットワーク108を介し、RPCおよびインターネット・モビリティ・プロトコル、標準的なTCP/IPトランスポート・プロトコルを通じてモビリティ管理サーバ102へと転送する。こうして、モバイル・インターセプタ212は、全てのネ

10

20

30

40

50

ットワーク活動を傍受して、サーバ102へと転送することができる。該インターセプタ212はOSと透過性を有する状態で協働するので、モバイル端末システム104がネットワーク108とのコンタクトを失っても、クライアント側のアプリケーションのセッションはアクティブであり続けることができる。

【0067】

モバイル・インターセプタ212は、トランスポート・ドライバ・インターフェイス204とは違うレベルで（例えばソケットAPI206のレベルで）動作することもできるが、TDIのレベルでモバイル・インターセプタ212が動作する、より詳細にはいずれかのトランスポート・プロトコル・インターフェイスにおいて動作することにより、下記のような利点が生まれる。なお、便宜的に、トランスポート・ドライバ・インターフェイスを示す全てのものをTDIという略語で表わすこととする。多くの標準的なOS（例えば、マイクロソフト社のウィンドウズ（登録商標）95、ウィンドウズ（登録商標）98、ウィンドウズ（登録商標）NT、ウィンドウズ（登録商標）CEなど）はTDIインターフェイス204を実装しているため、OSのコンポーネントを変更することなく互換性が保証される。さらに、トランスポート・ドライバ・インターフェイス204は通常カーネル・レベルのインターフェイスであることから、ユーザモードへの切り替えが必要でなく、これにより性能を向上させることができる。

【0068】

さらに、TDIインターフェイス204のレベルで作動するモバイル・インターセプタ212は、様々な別のネットワーク・アプリケーション208（例えば複数の同時に動作しているアプリケーション）に加えて、ネットワークにおけるファイル、プリント、および他のカーネル・モードなどのサービス210（インターセプタが例えばソケットAPI206のレベルで動作している場合はそれぞれ別に扱う必要がある）を傍受することができる。

【0069】

図2Aに、どのようにインターセプタ212が動作するかを示す高レベルのフローチャートの一例を示す。モバイル端末システム104のTDIインターフェイス204へのコール（ブロック250）は、モバイル・インターセプタ212によって傍受される（ブロック252）。モバイル・インターセプタ212によって傍受されたRPCコールはインターネット・モビリティ・プロトコルに準拠してフラグメントにパッケージ化され、該フラグメントはデータグラムとして、UDPやTCPといった標準的なトランスポート・プロトコルにより、LAN、WAN等のトランスポート108を介してモビリティ管理サーバ102へと送られる（ブロック252）。モビリティ管理サーバ102は受信したRPCデータグラムをアンパックして（ブロック254）、要求されたサービスを実行する（例えば、データや応答を、固定端末システム110で動作するアプリケーションサーバ処理へと転送することで、モバイル端末システムのアプリケーション208のプロキシとして振舞う）。

【0070】

再び図2に戻って、モビリティ管理サーバ102は、従来型のネットワーク・インターフェイス・ドライバ222を介して送られる、モバイル端末システム104からの、あるいはモバイル端末システム104へ向かうメッセージを傍受する、アドレス変換部220を有している。例えば、アドレス変換部220は、セッションの相手のピア（固定端末システム110）からのモバイル端末システム104の仮想アドレス宛のメッセージを認識する。モバイル端末システムへの該メッセージはプロキシ・サーバ224へと送られる。プロキシ・サーバ224は仮想アドレスとメッセージとを待機していたトランザクションに割り当て、該応答を、上記モバイル端末システム104の現在位置アドレスへと転送する。

【0071】

さらに、図2によると、モビリティ管理サーバ102は、アドレス変換部（中間ドライバ）220とプロキシ・サーバ224に加えて、設定マネージャ228、操作/ユーザイン

10

20

30

40

50

ターフェイス 230、およびモニタ 232 を有している。設定マネージャ 228 は設定情報とパラメータとを提供して、プロキシ・サーバ 224 が接続の管理を行えるようにする。操作/ユーザインターフェイス 230 とモニタ 232 により、ユーザとプロキシ・サーバ 224 との間のやりとりが可能になる。

【0072】

(モバイル・インターセプタ)

図 3 は、本発明の RPC プロトコルとインターネット・モビリティ・プロトコルとをサポートしたモバイル・インターセプタ 212 のソフトウェア・アーキテクチャの一例を示す。本例では、モバイル・インターセプタ 212 は、遠隔プロシージャ・コール・プロトコル・エンジン 240 と、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 244 の、二つの機能コンポーネントを有している。モビリティ管理サーバ 102 において動作するプロキシ・サーバ 224 によって、対応するエンジン 240'、244' が用意される。

【0073】

このように、本好ましい実施形態におけるモバイル・インターセプタ 212 は、モビリティ管理サーバ 102 をそれぞれのモバイル端末システム 104 と接続するための、遠隔プロシージャ・コール・プロトコルと、インターネット・モビリティ・プロトコルとをサポートしている。遠隔プロシージャ・コールは、あるローカルシステムから、離れた別のシステムにおけるプロシージャを発動する処理を可能とするものである。一般的に、ローカルシステムは遠隔のシステムにおいてプロシージャ・コールが実行されたことを感知しない。RPC プロトコルの利用によって、モバイル端末システム 104 が、アクティブなネットワークセッションを失うことなく、圏外に出たり、操作をサスペンドしたりすることが可能になる。セッションの維持に特別なアプリケーションは必要とされないで、モバイル環境にあるネットワーク 108 において、市販のアプリケーションが何の変更も必要とせずに動作することになる。

【0074】

ネットワーク・アプリケーションは、一般的に、ウィンドウズソケット (Windows sockets) のようなアプリケーションレベルのインターフェイスを利用している。アプリケーションレベルの API への単一のコールによって、トランスポート層もしくはメディア・アクセス層における複数の送信および受信データパケットが生成される。優先されるモバイルネットワークで、もし上記のパケットのうちの一つが失われた場合、接続全体の状態が不安定になってセッションは中止されるが、本発明の好ましい実施形態は RPC を備えており、モビリティ管理サーバ 102 とモバイル端末システム 104 とは、物理的な接続が絶たれたときであっても、常に統一された論理リンクを維持するために、接続状態に関する情報を共有している。

【0075】

本発明のインターネット・モビリティ・プロトコルは、有線のネットワークと無線など他の信頼性の劣るネットワークとの相違点を補償する。フレームサイズとプロトコルのタイミングとが修正されることで、モバイル環境を考慮しないトランスポートと比較して性能が著しく向上し、ネットワークのトラフィックを大幅に減少することができる。このことは、帯域幅に制限がある場合やバッテリーの寿命が問題となる場合に重要となる。

【0076】

また、本発明のインターネット・モビリティ・プロトコルは、公共の有線ネットワークを通じて、もしくは無線によってモビリティ管理サーバ 102 とモバイル端末システム 104 との間の通信がなされる際の、機密情報のセキュリティを保証する。インターネット・モビリティ・プロトコルは、認証された装置のみが企業ネットワークにアクセスすることを許可することで、基本的なファイアウォールとしての機能を果たす。本発明のインターネット・モビリティ・プロトコルはさらに、モビリティ管理サーバ 102 とモバイル端末システム 104 との間での全ての通信を認証、暗号化することを可能にする。

【0077】

図 3 のモバイル端末システム 104 における遠隔プロシージャ・コール・プロトコル・エ

10

20

30

40

50

ンジン240は、TDIコールドパラメータをマージングし、データをフォーマットし、要求を、TDI遠隔プロシージャ・コール・プロトコル・エンジン240'がコールを実行するモビリティ管理サーバ102まで転送するべく、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244に送る。モバイル端末システム104は、遠隔プロシージャ・コール・プロトコルに基づいてTDIコールドパラメータをマージングする。モビリティ管理サーバ102のTDI遠隔プロシージャ・コール・プロトコル・エンジン240'が上記のRPCを受信すると、モビリティ管理サーバ102はモバイル端末システム104に代わってコールを実行する。モビリティ管理サーバ102のTDI遠隔プロシージャ・コール・プロトコル・エンジン240'は、接続されたモバイル端末システムそれぞれにおける完全なネットワークの状態を、ピアであるモバイル端末システム104のRPCエンジン240と共有する。モバイル端末システム104の代理としての遠隔プロシージャ・コール実行に加え、サーバのRPCエンジン240'は、システムフローの管理、遠隔プロシージャ・コールの解析、仮想アドレスの（アドレス変換機構220が行うサーバに対応した）多重化、遠隔プロシージャ・コールのトランザクションの優先順位付け、スケジューリング、ポリシー実行、および融合処理（coalescing）を行う。

[0078]

インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244は、信頼性の高いデータグラムサービス、順位付け、フラグメント化、およびメッセージの再組立を行う。また、設定すれば、認証、データ暗号化、プライバシー保護強化、セキュリティ、そしてスループットのための圧縮も行うことができる。インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244は、電力消費を考慮に入れる必要のある環境において、複数の異なるトランスポートを利用して機能するようになっているので、消費電力管理を意図したものであるとともに、各トランスポートに対して独立となっている。

[0079]

図3Aは、モバイル・インターセプタ212がモビリティ管理サーバ102と通信してTDIコールドのやり取りを行う処理を例示する。一般的に、モバイル・インターセプタ212のRPCプロトコル・エンジン240は、マージングされたTDIコールドを、モビリティ管理サーバ102へと送るべく、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244へと転送する。RPCプロトコル・エンジン240は、この作業を、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244によって管理されるキューにRPCコールを加えることで達成する（ブロック302）。帯域幅管理を円滑に行うために、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244は受信したRPCコールの転送を所定の期間（RPC融合タイムアウト期間）遅延させる（ブロック304）。一般的に、RPC融合タイムアウトは5ミリ秒から15ミリ秒の間に設定されるが、この数値はユーザによって変更可能である。この遅延によって、RPCエンジン240はTDIコールドをインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244のキューに加えて、一つ以上のRPCコールが同一のデータグラム（フラグメント）によって転送されるようにすることができる。

[0080]

融合タイムアウトが終了するか、RPCエンジン240がそれ以上のRPCコールの受信を拒否する（判定ブロック306）ことを決定すると、RPCエンジン240は、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244に、キューをフラッシュ（flush）し、RPCコールを単一のフレームに融合し、該フレームをピアに転送するよう要求する（ブロック308）。この融合により伝送回数が減少し、プロトコルのパフォーマンスが高められる。しかし、インターネット・モビリティ・プロトコルは、パフォーマンス最適化のために他の外部基準に基づいてキュー244をフラッシュすることもしなければならず、本好ましい実施形態において、単一のRPC要求でフレーム全体が占められてしまう場合、IMP層は自動的に要求をピアに送るよう試みる。

[0081]

上記のように、モビリティ管理サーバ102のプロキシ・サーバはRPCプロトコル・エ

10

20

30

40

50

ンジン 240' とインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 244' とを有している。図 3B は、モバイル端末システム 104 からインターネット・モビリティ・プロトコル・メッセージ・フレームを受信した際に、モビリティ管理サーバ 102 で実行される処理を例示している。該フレームをモビリティ管理サーバ 102 が受信すると、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 244' は、フレームが（基礎となるトランスポートの最大伝送量の制約で）フラグメント化されていれば再構築し、メッセージの内容を逆多重化して、どのモバイル端末システム 104 からの受信かを決定する。この逆多重化により、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 244' は、遠隔プロセス・コール・プロトコル・エンジン 240' に、的確な結合関連文脈情報 (association-specific context information) を伝えることができる。

[0082]

続いて、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 244' は、受信したメッセージを、RPC 受信示唆システム作業要求 (RPC receive indication system work request) 354 にして、該作業要求と結合関連文脈情報を、モビリティ管理サーバ 102 の RPC プロトコル・エンジン 240' に与える。RPC プロトコル・エンジン 240' が作業要求 352 を受信すると、該エンジン 240' は作業要求 352 を結合関連作業キュー 356 に加え、次に予定済みの要求をグローバルキュー 358 に送ることによって、結合処理のスケジューリングが行われる。続いて、RPC エンジン 240' のメイン作業スレッドに、作業が実行可能となったことが伝えられる。該メインスレッドが作業を始めると、グローバルキュー 358 がポーリングされて、待機状態となっているスケジューリングされた結合処理が確認される。その後、メインスレッドは該イベントを待機状態から外し、結合関連作業キュー 356 が処理される。

[0083]

結合関連作業キュー 356 から、上記メインスレッドはそれまで待機していた RPC 受信示唆作業要求を見つけ出す。次に、メインスレッドは RPC 受信示唆作業要求 356 をキューから外し、該要求を解析する。図 3A を参照して説明した上記融合処理により、モビリティ管理サーバ 102 は、それぞれのデータグラムに内包された複数の RPC トランザクションを頻繁に受信することになる。モビリティ管理サーバ 102 は次に、該 RPC トランザクションをそれぞれ逆多重化して別個の遠隔プロセス・コールに戻し、そして要求された機能をモバイル端末システム 104 に代わって実行する。パフォーマンス向上のため、RPC エンジン 240' に、RPC メッセージ解析処理中の先読みメカニズムを備えさせて、RPC エンジン 240' が、要求されたトランザクションのうちのいくつかを同時に実行できるか否か（パイプライン処理できるか否か）を確認してもよい。

[0084]

(RPC エンジン 240' による RPC 結合の実行手法)

図 4 は、結合作業キュー 356 に加えられた RPC 結合を実行する処理を例示したフローチャートである。RPC 結合の実行が予定されている時、RPC プロトコル・エンジン 240' (状態機械として設けられていてもよい) のメインスレッドは、グローバルネットワークキュー 358 からの作業要求を待機状態から外し、作業要求の種類を決定する。

[0085]

本実施形態の RPC 作業要求は、以下のような 6 つの基本的な種類に分けられる。

[0086]

- ・スケジューリング要求 (schedule request)
- ・接続示唆
- ・切断示唆
- ・ローカル結合中止 (local terminate association)
- ・「リソース使用可」要求 ("resource available" request)

10

20

30

40

50

・ping 休止タイムアウト (ping inactivity timeout)  
RPC プロトコル・エンジン 240' は、上記の様々な種類の要求をそれぞれ別の方法で取り扱う。RPC プロトコル・エンジン 240' は要求の種類 (グローバルキュー 358 に記憶された、要求に関する情報によって識別される) をテストして、該要求をどう処理するかを決定する。

【0087】

作業要求の種類が「スケジューリング要求」である場合 (判定ブロック 360)、RPC プロトコル・エンジン 240' はどの結合が予定されているかを判別する (ブロック 362)。RPC プロトコル・エンジン 240' はこの判別を、グローバルキュー 358 に記憶されている情報に基づいて実行することができる。上記判別がなされると、RPC プロトコル・エンジン 240' が、それぞれが対応する要求を記憶している結合作業キュー 356 (1) ~ 356 (n) のうちの一つを特定することが可能となる。RPC エンジン 240' によって、対応する結合制御ブロックが取得され (ブロック 362)、結合作業処理タスク (Process Association Work task) 364 が呼び出されて、上記の特定された作業キュー 356 における作業の処理が始められる。

【0088】

図 5 は、図 4 の「結合作業処理」タスク 364 によって実行されるステップを例示している。結合が特定されると、「結合作業処理」タスク 364 が呼び出され、対応する結合作業キュー 356 内の作業が処理される。待機状態から外された作業要求 (ブロック 390) が RPC 受信要求 (判定ブロック 392) である場合、該 RPC 受信要求は RPC 構文解析部 (parser) に送られ、処理される (ブロック 394)。あるいは、待機状態から外された作業要求 (ブロック 390) が、保留中の (pending) 受信要求である場合 (判定ブロック 396)、RPC エンジン 240' は TDI 204' に、アプリケーションによる接続の代わりにデータを受信し始めるよう要求する (ブロック 398)。上記待機状態から外された作業要求が、保留中の接続要求である場合 (判定ブロック 400)、RPC エンジン 240' は TDI 204' に、アプリケーション用途 TCP (あるいは他のトランスポート・プロトコル) 接続要求を発するよう要求し (ブロック 402)、TDI 層 204' からの応答を待つ。TDI 204' による要求が完了すると、該要求の状態が決定されて、元の要求エンティティへと報告が戻される。パフォーマンス向上のため、RPC エンジン 240' は、実際に要求を発しているピアヘアラーを通知する前に、要求を結合関連作業キュー (356) へと戻すことで、接続要求処理を複数回行うようになっているのもよい。この処理も、ネットワーク帯域幅およびリソースの消費を減らすためのものである。

【0089】

上記の処理は、「スケジューリング重み付け」(scheduling weight complete) テスト (ブロック 404) にパスするまで繰り返される。本例では、スケジューリング重みは、どれだけ作業要求が待機状態から外されて、上記の特定の結合がどれだけ処理されるかを決定するのに使われる。該スケジューリング重みは設定マネージャ 228 によって設定されるパラメータであり、結合接続示唆が検出されたときに取得される (図 4、ブロック 372)。この数値はユーザごとに、あるいは物理的な意味での装置ごとに設定可能である。

【0090】

RPC エンジンが結合作業キュー 356 の作業を (少なくとも一時的に) 終了した後、デイスパッチ・キューの処理に移ってもよい (ブロック 406)。(詳細は以下)。結合の作業キュー 356 における作業の処理後、RPC エンジン 240' は、グローバル作業キュー 358 に新たなスケジューリング要求を発信して、後で実行される結合のスケジューリングを再び行う (図 4 の判定ブロック 366、ブロック 368、図 5 の判定ブロック 408、ブロック 410)。

【0091】

再度図 4 を参照すれば、RPC 作業要求が「接続示唆」の場合 (判定ブロック 370)、

10

20

30

40

50

R P C エンジン 2 4 0 ' に、モバイル・ピア（通常はモバイル端末システム 1 0 4 だがこれに限らない）との新たな接続のインスタンスを作成せよという要求が入る。一例として、上記接続示唆により、接続を開始しようとしているピアの装置に関する以下のような情報が R P C エンジン 2 4 0 ' に与えられる。

【 0 0 9 2 】

- ・装置の物理的識別子
- ・該装置にログインしているユーザ名
- ・ピアの装置のアドレス
- ・ピアの R P C エンジン 2 4 0 からの、付加的な接続データ

接続示唆（判定ブロック 3 7 0）を受け、R P C エンジン 2 4 0 は上記のパラメータをもつて設定マネージャ 2 2 8 をコールする。設定マネージャ 2 2 8 は該パラメータを用いて、上記新規接続の設定を確定する。この設定（例えば結合スケジューリング重みや、上記に加えてデフォルトでないスケジューリング特性を要するアプリケーション全てのリストなど）は、R P C エンジン 2 4 0 ' に戻されて記憶、実行される。そして R P C エンジン 2 4 0 ' は新規の結合を開始し、新規の結合制御ブロックを形成する（ブロック 3 7 2）。図 5 A が示すように、以下のような動作が実行されてよい。

【 0 0 9 3 】

- ・結合制御ブロックを割り当てる（ブロック 3 7 2 A）
- ・システム全体のリソースをデフォルトにまで初期化する（ブロック 3 7 2 B）
- ・現在の設定をオーバーライドする（ブロック 3 7 2 C）
- ・フラグを初期化する（ブロック 3 7 2 D）
- ・結合特有作業キューを初期化する（ブロック 3 7 2 E）
- ・結合オブジェクト・ハッシュ・テーブルを初期化する（ブロック 3 7 2 F）
- ・融合タイマーを初期化する（ブロック 3 7 2 G）
- ・結合制御ブロックをセッションテーブルに挿入する（ブロック 3 7 2 H）

インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 2 4 4 ' が結合を終了しなければならぬと判断すると、「切断示唆」が該インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 2 4 4 ' から R P C エンジン 2 4 0 ' に出される。R P C エンジン 2 4 0 ' はこの切断示唆をテストし（ブロック 3 7 4）、示唆に応じて結合を停止し、結合制御ブロックを破棄する（ブロック 3 7 6）。図 5 B に示されるように、以下のステップが実行されてよい。

【 0 0 9 4 】

- ・待機中の作業がこれ以上処理されないように、停止される結合をマークする（ブロック 3 7 6 A）
- ・処理を含む、結合されている全ての結合オブジェクトをクローズする（ブロック 3 7 6 B）
- ・作業キューにある全てのエレメントを開放する（ブロック 3 7 6 C）
- ・融合タイマーが動作中ならば停止する（ブロック 3 7 6 D）
- ・結合制御ブロックの参照カウントを減少させる（ブロック 3 7 6 E）
- ・参照カウントが 0 の場合、（ブロック 3 7 6 F にてテストされる）
- ・結合関連作業キューを破棄し、
- ・オブジェクト・ハッシュ・テーブルを破棄し、
- ・融合タイマーを破棄し、
- ・結合テーブルから結合制御ブロックを取り除き、
- ・制御ブロックを開放する（3 7 6 G）

システム 1 0 2 が結合終了の必要性を認識すると、「セッション中止」要求が出される。この要求はシステム管理者、OS、あるいはアプリケーションから発される。R P C エンジン 2 4 0 ' は、セッション中止要求を上記切断示唆と同様に扱う（判定ブロック 3 7 8、ブロック 3 7 6）。

【 0 0 9 5 】

10

20

30

40

50

本好ましい実施形態では、RPCエンジン240'とインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244'との間のインターフェイスが、クレジット(credits)を基にフロー制御メカニズムを特定する。ある単一のスレッドが別のスレッドに作業要求を通知するたびに、コールされたスレッドは作業キューに残っているクレジットの数に戻る。キューが満杯であればクレジットのカウントは0になるが、慣例として、コールする側のスレッドは、クレジットのカウントが0ならばそれ以上作業通知をしない。よって、ユーザによって設定可能あるいは所定の最低点(low water mark)をキューに付けて、待機中であった作業が処理されてリソースに余裕ができたことを、上記コールする側のスレッドに伝えるような構成が必要となる。これが、「リソース使用可」作業示唆が設けられている理由である(判定ブロック380にてテストされる)。図5Cが示すように、クレジットのカウントが0になったとき、以下のようなステップが実行されてもよい。

[0096]

・RPC\_LMPQ\_SEND\_FLAGと設定して、結合に「ロー・マーク保留」(low mark pending)とマークを付ける(ブロック379A)。この状態になつたら、

・受信された全てのデータグラムを破棄する(ブロック379B)

・データ受信を拒否して全ての受信されたストリーム・イベントを抑える(ブロック379C)(これにより、TCP他のトランスポート受信ウィンドウが結果的に閉じられ、固定端末システム110とモビリティ管理サーバ102との間のフロー制御がなされる。復帰の前に、本好ましい実施形態では「保留受信要求」(pending receive request)を結合関連作業キュー356の前に押し込むので、保留中のストリーム受信イベントの処理(outstanding stream receive event processing)が、リソースが利用可能になると直ちに継続される)。

[0097]

・全ての受信された接続イベントが、受動接続のために拒否される(ブロック379D)「リソース使用可」示唆をRPCエンジン240'が受け取ると(図4、判定ブロック380)、該RPCエンジンは、結合された結合作業キュー356に待機中の作業があるか否かを判定する。もしあれば、RPCエンジンは該結合についてグローバル作業キュー358に通知して、上記結合作業キュー356が動作の優先権を持つことをマークしておく(ブロック382)。保留中の受信要求が、結合が保留受信要求状態にある期間に通知された場合、この期間中に処理される(本好ましい実施形態では、RPCエンジン240'は、この処理中も全ての受信された接続要求を受け入れる)。

[0098]

再度図4を参照すると、RPCエンジン240'が、モビリティ管理サーバ102の「ping」に使われるチャネルが所定の期間にわたって休止していると判定した場合(判定ブロック384)、該チャネルは閉じられ、リソースは開放されてシステムに復帰し、他の処理に使用される(ブロック386)。

[0099]

(RPC構文解析と優先キュー)

再度図5を参照すると、RPCエンジンがRPC受信要求をその受信に際して構文解析することは前述した(ブロック392、394参照)。本好ましい実施形態において、構文解析は以下の点で必要とされる。即ち、受信された単一のデータグラムが複数のRPCコールを含む可能性があるからであり、また、RPCコールがインターネット・モビリティ・プロトコルのデータグラムにおける複数のフラグメントにまで広がっている可能性があるからである。RPC受信作業要求500のフォーマットの例が図6に示される。RPC受信作業要求のそれぞれは、少なくともメイン・フラグメント502(1)を有し、加えて任意の数の付加的フラグメント502(2)～502(N)を有していることもある。メイン・フラグメント502(1)は、作業要求構造ヘッダ(work request structure header)503と、受信オーバーレイ504とを有してい

10

20

30

40

50



る。受信オーバーレイ 504 は、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 244 によってメイン・フラグメント 502 (1) の先頭に設けられた受信オーバーレイである。この受信オーバーレイ 504 には、ユーザデータと呼ばれる、作業要求 500 内で最初の RPC コール 506 (1) を指し示す構造メンバがある。

【0100】

図 6 の例に、複数の RPC コール 506 (1)、506 (2) … 506 (8) を含む、作業要求 500 が図示されている。図 6 の例が示すように、RPC 作業要求 500 は、メモリの隣接するブロックや単一のフラグメント 502 に含まれていなくてもよい。同例において、第二フラグメント 502 (2) と第三フラグメント 502 (3) とは、リンクしたリスト中でメイン・フラグメント 502 (1) に連鎖されている。

【0101】

よって、上記例の RPC パーサ 394 は以下の境界条件を取り扱う。

【0102】

- ・RPC 受信要求 500 それぞれが一つ以上の RPC コールを含んでもよい
- ・一つ以上の RPC コール 506 が、単一のフラグメント 502 中に存在してもよい
- ・RPC コール 506 それぞれが、フラグメント 502 中に完全に含まれていてもよい
- ・RPC コール 506 それぞれは、一つ以上のフラグメント 502 にまたがっていてもよい

図 7 は、RPC 受信作業要求 500 を解析する RPC 構文解析部 394 を例示している。本例において、RPC 構文解析部 394 は作業要求中の第一フラグメント 502 (1) を取得し、該フラグメント中の第一 RPC コール 506 (1) を取得し、そして RPC コールを解析する。構文解析部 394 は RPC 受信作業要求 500 中を進んで、RPC コール 506 それぞれを処理していく。RPC 受信作業要求 500 のフラグメント 502 (1) の残りのフラグメント・バイト数が、RPC ヘッド 503 のサイズよりも多い場合、構文解析部 394 は、RPC コールが完全に RPC フラグメント 502 に含まれていて、処理を実行してもよいかどうかを判定する（該判定は、RPC コールの長さが残りのフラグメント・バイト数より大きいかどうかをテストすることでもなされてもよい）。RPC コールの種類が連鎖例外である場合、RPC コールは RPC 構文解析部 394 のアップデートを行うことになる。プロキシ・サーバ 224 において、連鎖例外である RPC コールは「データグラム送信」と「ストリーム送信」だけである。この連鎖例外プロシーダによって、RPC エンジンは、RPC 送信コールのためにメモリ記述子リストを共に連鎖することによるフラグメントコピーを避けることができる。

【0103】

構文解析部 394 が RPC コールの種類を判別すると、RPC 情報の始めへのポインタは、実行のために RPC エンジン 240 へと転送される。RPC エンジンは、実行のために全ての TDI プロシーダ・コールにそれぞれ別の優先順位をつける。最も優先度の高いコールは、RPC ディスパッチャ 395 へ転送され、直ちに処理される。これより下の優先順位のコールは、後に処理されるために全てディスパッチ・キュー 510 にディスパッチされる。ディスパッチ・キュー 510 はそれぞれ離散的な優先度を表わしている。

【0104】

本実施形態では、モバイル・アプリケーションは、「オープンアドレス」オブジェクトおよび「オープン接続」オブジェクト機能を、他の TDI ネットワーキング機能を実行する前に呼び出す。よってシステムは、「オープンアドレス」オブジェクトおよび「オープン接続」オブジェクトの呼び出し中に、アプリケーションレベルの優先順位を割り当てることになる。例示の実施形態では、アドレスまたは接続オブジェクトに優先順位が付けられると、該オブジェクトに関連する全てのコールが、その割り当てられた優先順位中に実行される。

【0105】

例えば、RPC コールが TDI オープンアドレスオブジェクト要求あるいは TDI オープン接続オブジェクト要求である場合、該コールは直ちに実行されるべく RPC ディスパ

10

20

30

40

50

チャ 395 に送られる。オープンアドレスおよびオープン接続オブジェクトRPCコールにより、上記の接続示唆中に行われる設定要求の間に設定マネージャ228からもたらされる情報との対応に用いられる、処理IDあるいは処理名へのアクセスが可能になる。該処理IDあるいは処理名は、アドレスあるいは接続オブジェクトの設定を得るために用いられる。

#### 【0106】

本好ましい実施形態では、全てのRPCコールは、パラメータとして少なくともアドレスオブジェクトまたは接続オブジェクトを有している。コールが実行されると、そのオブジェクトに割り当てられた優先度が、RPCコールの優先度とされる。アドレスあるいは接続オブジェクトに割り当てられた設定により、実行される、対応するRPCコール全ての優先度が決定される。例えば、割り当てられた優先度が「高」の場合、ディスパッチ・キュー510にディスパッチされることなく、全てのRPCコールが直ちに実行される。割り当てられた優先度が「1」の場合、全てのRPCコールが、ディスパッチ・キュー510(1)に加えられる。

#### 【0107】

再度図5を参照すると、「結合作業処理」(process association work)タスク364の処理が、予定された結合作業量の実行を完了すると(判定ブロック404)、ディスパッチ・キューがサービスを要求しているか否かが確認される(ブロック406)。図8は、図7に示されるディスパッチ・キュー510の処理のための「ディスパッチ・キュー処理」(ブロック406、図6)によって実行されるステップを例示したフローチャートである。

#### 【0108】

この例では、ディスパッチ・キュー510は優先度が最高のキュー(本例では510(1))から処理される(ブロック408)。ディスパッチ・キュー510にはそれぞれ重み係数が設定されている。この重み係数は、モバイル端末システム104とモビリティ管理サーバ102との結合が確立された際に、設定マネージャ228によって返される設定パラメータである。例を挙げれば、優先度の低いディスパッチ・キュー510の重み係数は4であり、優先度が中程度のディスパッチ・キュー510重み係数は8である。本例では、優先度の高いRPCコールは解析後直ちに処理されるため、重み係数を有していない。

#### 【0109】

RPCエンジン240は、現在のキューより始めて、RPCコールをキューから外していき、キューが空になるか、RPCコールのキュー重み番号(queue weight number)が処理されるまでループする(ブロック412-416)。キューから外されたRPCコールそれぞれに対して、その実行のためにRPCディスパッチチャ395が呼び出される。RPCディスパッチチャ395はモバイル端末システム104の代理としてプロシージャ・コール(procedural call)を実行し、応答を要求している上記RPCコールに対するモバイル端末システムからの応答を生成する。

#### 【0110】

上記ループを出た後、キューに残っている作業がまだある場合(判定ブロック418)、該キューが再実行を要することがマークされる(ブロック420)。ループを出ることで、上記システムはプロセッサを次に低い優先度のキューに移らせる(ブロック424、410)。これにより、ある特定のキューにどれだけの作業が割り振られていても、どの優先レベルにも実行される可能性が与えられることになる。システムは次のキューのサービスに移り、全てのキューが処理されるまで処理を繰り返す。全てのキューの処理が終了すると、システムは実行を要するマークがついたキューがあるか否かを判定して、もしあれば、スケジュール要求がグローバル作業キューに送られて、結合の再実行が予定されることになる。結合の再実行は、図4の「グローバル作業処理」ルーチンにおいて予定される。上記のアプローチにより、プロセッサが、処理すべき作業を有する他の結合にも実行の機会を与えることになる。キューそれぞれに重み係数を割り振ることで、システムは、モビリティ管理サーバ102のCPUへのアクセスが優先レベルに応じて許可されるように

調整されてもよい。これにより、優先度の高いキューは、先に実行されるだけでなく、さらに容易にCPUにアクセスできるようになる。

#### 【0111】

(モビリティ管理サーバのRPC応答)

上記では、どのように遠隔プロシージャ・コールがモバイル端末システム104からモビリティ管理サーバ102に送られて実行されるかを説明した。この型のRPCコールに加え、モビリティ管理サーバ102のRPCエンジン240'はRPCイベントとRPC受信応答とをサポートしている。結合関連接続ピア(通常は固定端末システム110)の活動の結果として、RPCメッセージが非同期的に生成される。モビリティ管理サーバ102のRPCエンジン240'は、RPCディスパッチャ395によって実行されるRPC10  
 トランザクションを完了する。完了が成功したからといって、全てのRPCコールが応答を要求するわけではないが、応答を要求する一部のRPCコールにより、RPCディスパッチャ395は適切な応答を作成し、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244'に知らせ、そして該応答はピアのモバイル端末システム104に返される。RPCコールが失敗したときは、全てのRPCコールが応答を生成する(上記においてRPC受信応答は例外)。

#### 【0112】

RPCイベントは、結合関連接続(通常は固定端末システム110)によるネットワーク108の活動の結果として発信される。本好ましい実施形態では、こうしたRPCイベントメッセージはモビリティ管理サーバ102によってプロキシされ、モバイル端末システム104へ送られる。本好ましい実施形態のモビリティ管理サーバ102は、以下のRPCイベントコールをサポートする。

#### 【0113】

・切断イベント(結合特定接続ピア(通常は固定端末システム110)がトランスポート・レベルで切断要求を出した場合に生起する。該要求はモバイル端末システム104に代わってプロキシ・サーバ224に受信され、プロキシ・サーバ224は切断イベントをモバイル端末システムに送る)

・ストリーム受信イベント(結合特定接続ピア(通常は固定端末システム110)がストリームデータをモバイル端末システム104へ送る際に生起。プロキシ・サーバ224はモバイル端末システム104に代わって該データを受け取り、受信応答(Receive  
 Response)として該データをモバイル端末システムに送る)

・データグラム受信イベント(結合特定ポータル(association-specific portal)のいずれかが、ネットワーク・ピア(通常は固定端末システム110)から送られ、モビリティ管理サーバ102を経由してモバイル端末システム104へ送られることになっている。データグラムを受け取る際に生起する。プロキシ・サーバ224はモバイル端末システム104に代わって該データグラムを受け入れ、データグラム受信イベントという形で該データグラムをモバイル端末システム104へ転送する)

・接続イベント(結合特定リスニングポータル(association-specific listening portal)が、トランスポート層とモバイル端末システム104との終端間接続を確立しようとする際、該結合特定リスニングポータルがトランスポート層接続要求(通常は固定端末システム110から)を受信するときに生起する。プロキシ・サーバ224はモバイル端末システムに代わって接続要求を受け入れ、接続イベントRPCコールを生成してモバイル端末システムに送る)

図9は、RPCエンジン240'が、いかにしてプロキシ・サーバによって生成されたRPCコールを扱うかということを示している。優先度の高いアドレスと接続オブジェクトに対し、RPCエンジン240'は、直ちに送信要求をインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244'に向けてディスパッチする。該送信要求によって、RPCメッセージがピアのモバイル端末システム104に転送される。優先度の低いオブジェクトに対しては、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244'の送信要求が適切な優先キュー510'に通知される。結合の実行が予定されていない場合、スケジュー  
 50

ル要求もグローバルキュー358'に通知される。インターネット・モビリティ・プロトコルの送信要求は、最終的に、図5および8を参照して既に説明したディスパッチ・キューの処理の際に実行される。

#### 【0114】

(インターネット・モビリティ・プロトコルの例)

本発明のインターネット・モビリティ・プロトコルは、メッセージ指向で接続ベースのプロトコルであり、配信保証、(再)オーダー検出(re order detection)、ロス回復が可能である。さらに、他の従来型接続指向プロトコル(即ちTCP)とは違い、複数の別のデータストリームを単一のチャネルにまとめることが可能になっており、保証されたデータ、信頼性の低いデータ、そして新規のメッセージ指向で信頼性の高いデータを、単一の仮想チャネルによって同時にネットワークをトラバースさせることができる。この新たなメッセージ指向のサービスのレベルによって、インターネット・モビリティ・プロトコルのピアが所定のプログラムデータユニットを確認したときに、リクエスト部に通知が行われることになる。

#### 【0115】

本発明のインターネット・モビリティ・プロトコルは、既存のネットワーク・トポロジや技術にオーバーレイできるように設計されている。下層のネットワークアーキテクチャに左右されないで、該インターネット・モビリティ・プロトコルは汎用性を有する。パケット化されたデータが二つのピアの間を行き来できさえすれば、インターネット・モビリティ・プロトコルの使用が可能である。ノードそれぞれにおけるネットワークの現在地点(POP)あるいはネットワーク・インフラは、物理的境界、特定のポリシー、あるいは帯域幅の制限がある場合を除き、データの流れに影響を与えずに柔軟に変更可能である。

#### 【0116】

インターネット・モビリティ・プロトコルは上層の助けを借りて様々なソースからのデータを融合し、下層のデータグラム機能を利用して該データを行き来させる。独立したデータユニットがそれぞれ上層から来ると、インターネット・モビリティ・プロトコルは該データユニットを単一のストリームとして、その後伝送する。該データユニットは次に既存のネットワークを通じてピアに送られ、受信時に、上層の助力によって上記ストリームが非多重化されて、元の独立した複数のデータユニットに戻る。これにより、伝送時にはその都度最大限のネットワークフレームが生成されて、帯域幅の利用を最適化することができる。さらに、上記により、帯域幅を最大限利用できるようにチャネルを調整することができるという効果を奏するとともに、全てのセッションレベルの接続に適用可能なパラメータを持たせることが可能となる。

#### 【0117】

あるチャネルが不十分であるといった稀なケースでも、インターネット・モビリティ・プロトコルはピア間に複数のチャネルを確立することができる。これにより、データの優先順位付けや、(下層のネットワークがサポートしていれば)サービス品質の保証も可能になる。

#### 【0118】

さらに、インターネット・モビリティ・プロトコルは、動的に選択可能で保証されたレベルのサービス、あるいは信頼性の低いレベルのサービスに対しても考慮されている。例えば、伝送されるプロトコル・データ・ユニットをそれぞれ、有効期間(validity time period)か再伝送試行回数、もしくはその両方で制限して待機させることができる。インターネット・モビリティ・プロトコルは、どちらかの閾値に達するとデータユニットを有効期限切れとし、その後の伝送の試行から排除する。

#### 【0119】

インターネット・モビリティ・プロトコルの、付加プロトコルとしてのオーバーヘッドは、可変長ヘッダの採用により最小限に抑えられている。該ヘッダのサイズはフレームの種類や任意フィールド(optional field)によって決定される。該任意フィールドは、ある特定のオーダーにおいて追加されて、受信側による解析を容易にし、その存

在はヘッダ・フラグ・フィールド(header flag field)のビットによって示される。ピアによる通信に必要な他の制御および設定情報は、全てバンド内制御チャンネルを通過することができる。送信されるべき制御情報は全て、任意のアプリケーションレベルのプロトコル・データ・ユニットの前のフレームに加えられる。受信側では制御情報を処理して、次にペイロードの残りを上層に送る。

#### 【0120】

エラー発生率の確率が比較的高い、信頼性の低いネットワークにおける稼働が想定されているため、インターネット・モビリティ・プロトコルでは、データの完全性を保証し、ネットワークのパフォーマンスを最高まで引き出すべく、数々の技術が使われている。データの完全性を保証するため、フレッチャー・チェックサム・アルゴリズム(Fletcher checksum algorithm)が、誤ったフレームの検出に使われている。このアルゴリズムは効率性と高い検出能力を買われて採用され、ビットエラーのみならずビットの並び替えも検出できる。ただし、上記アルゴリズムの代わりに他のチェックサム・アルゴリズムを採用してもよい。

#### 【0121】

シーケンス番号は、オーダされたデータの配信を保証するために使われるが、インターネット・モビリティ・プロトコルにおけるシーケンス番号は、TCPの場合のようにデータのそれぞれのバイトを表わしているわけではない。一例としては、上記シーケンス番号は、最大65535バイト(インターネット・モビリティ・プロトコル・ヘッダを含む)までの、データのフレームを表現している。該シーケンス番号は32ビットなど適当な長さのものであって、制限された期間内での高い帯域幅のリンクにおいてラップアラウンドを生じさせないようにしている。

#### 【0122】

上記の能力にデータの有効期限切れ機能を組み合わせたととき、再伝送(再試行)されたフレームが含んでいるデータ量が、送信側で生成された前バージョンよりも少ないことがある。フレームIDを設定して最新のバージョンのフレームが検知することも可能だが、本好ましい実施形態ではデータが追加されることは絶対に無く、削除されたそれぞれの要素がプロトコル・データ・ユニット全体であるため、上記の手法はシーケンス保証には必ずしも必要でない。一例として、インターネット・モビリティ・プロトコルは受信したある特定のフレームを、該フレームの異なったバージョンのものがいくらか伝送されてきても、最初の一回目のみ処理する。新規のユーザ・ペイロードを連携する、生成されたフレームそれぞれには、固有のシーケンス番号が割り振られる。

#### 【0123】

スライディング・ウィンドウ技術の採用によってパフォーマンスが向上し、ピアにデータ受信の確認応答を要求する前に、複数のフレームを保留にできる(伝送できる)。適切なタイミングでのデータ配信を保証するため、肯定応答とタイマーベースの再伝送スキームとが採用されている。さらにチャンネルの利用を最適化すべく、選択的な確認応答メカニズムが採用され、ネットワーク接続のロスが多い時間帯もしくは混雑した時間帯における、失われたフレームの迅速な再伝送と、素早い回復とが達成される。一例において、この選択的な確認応答メカニズムは、ヘッダに含まれる付加的なビットフィールドとして表わされる。

#### 【0124】

輻輳回避アルゴリズムは、プロトコルをフレームの迅速な再伝送からバックオフさせるためにも用いられている。例えば、ラウンドトリップタイムは、再伝送無しで成功裏にピア間を伝送されたフレームそれぞれに対して計測することが可能である。この時間値は平均されて、再伝送タイムアウト値(retransmission timeout value)の基準となる。フレームが送られるごとに、それぞれのフレームに対してタイムアウトが設定される。あるフレームが実際に伝送されたにもかかわらず、該フレームに関する確認応答が受信されない場合、該フレームは再伝送される。このときタイムアウト値は上昇し、次の再伝送時間の基準となる。この再伝送タイムアウトには上限値および下限

値が設定されているので、その値は適切な範囲に収まるようになっている。

#### 【0125】

また、インターネット・モビリティ・プロトコルでは、送信路と受信路とが別に扱われている。この手法は、本質的に非対称のチャネルにおいて特に有用である。ヒステリシスに基づいて、インターネット・モビリティ・プロトコルは自動的に、フレームサイズ（フラグメント化閾値）、保留中のフレーム数、再伝送回数、遅延承認時間などのパラメータを調整して、ネットワークを通じて送られる複製データの量を減少させる。

#### 【0126】

インターネット・モビリティ・プロトコルによって、ノードが様々なネットワークの違った接続ポイントに移動することが可能になるため、下層のネットワークの特性（例えばフレームサイズ）が途中で変わってしまうことがあるが、この移動の結果、あるネットワークで伝送待ちだったフレームが、モバイル装置が現在接続している新しい媒体にはフィットしないこともありうる。このことに、フラグメント化が全てのネットワーク・インフラでサポートされているわけではないことを合わせて考慮して、フラグメント化はインターネット・モビリティ・プロトコルのレベルにおいて扱われる。それぞれのフレームが伝送される前に、インターネット・モビリティ・プロトコルにより、フレームが現時点でのフラグメント化閾値を越えているか否かが判断される。ちなみに、パフォーマンス向上の見地から、この値は現時点での最大伝送ユニットよりも少なくてもよい（大きいフレームよりも小さいフレームの方が最終目的地まで到達する可能性が高いため）。プロトコルのオーバーヘッドを増加させることと、再伝送回数の増加とのトレードオフは、インターネット・モビリティ・プロトコルによって味付けされ、全体的に再伝送を減少させるため、フレームサイズが減少させられることもある。あるフレームがフィットしていれば、該フレームは分割されずに伝送される。していなければ、該フレームはその接続で許容される最大のサイズにまで分割される。フレームが再伝送される場合、該フレームは再評価を受け、最大伝送ユニットが減少していれば、再度フラグメント化される（あるいは、もし最大伝送ユニットが増加していれば、該フレームはフラグメント化されない一個のフレームとして再送信されることもありうる）。

#### 【0127】

プロトコルそのものは直交に設計されており、どちらの側からでもピアとの接続を確立、切断することができるようになっている。しかし、ある場合においては、実行される場所によってプロトコル・エンジンにおける些少な動作上の差異がいくつか存在し、特定の休止検出や接続寿命タイムアウトは片方の側からしか実行できないこともある。運営上必要と可能にするため、モビリティ管理サーバ102上で動作するインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジンは、休止期間の状況を把握している。モバイル端末システム104からの作業が何もないうまま一定の期間が経過した場合、モビリティ管理サーバ102はセッションを終了させることができる。また、管理者が、ある特定の接続を確立するのに要する総所要時間を制限する、あるいは日時によってアクセスを拒否することが必要なときがあるが、この場合も、一例としてこうしたポリシータイマーはモビリティ管理サーバ102側からのみ操作できるようにしてもよい。

#### 【0128】

一例として、インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するソフトウェアは、ウィンドウズ（登録商標）NT、9x、CE環境で、プラットフォームに合わせた修正を必要とすることなくコンパイルされ、動作できるものである。これを実現するために、インターネット・モビリティ・プロトコルでは、インターネット・モビリティ・プロトコル・フレームの送受信に、ネットワーク抽象層（network abstraction layer；NAL）のサービスが採用されている。メモリ管理、キューおよびリスト管理、イベントロギング、警報システム、電力管理、セキュリティなどの他の標準的なユーティリティ機能も使われる。いくつかのランタイム・パラメータについては、エンジンがモバイル端末システム104に備えられているか、あるいはモビリティ管理サーバ102側に備えられているかによって変更される。これについて、数例を以下に示す。

## 【0129】

・特定のタイムアウトは、モビリティ管理サーバ102からの呼び出し可能  
 ・フレームの方向は、エコー検出用のフレームヘッダそれぞれにて示される  
 ・モバイル端末システム104の設定により、着信接続(inbound connection)の拒否が可能  
 ・警報はモビリティ管理サーバ102にのみ通知される  
 ・電力管理はモバイル端末システム104ではイネーブルにされるが、モビリティ管理サーバ102では必ずしも必要でない  
 インターネット・モビリティ・プロトコルのインターフェイスは、Cコーラブルでプラットフォームに依存しない標準的なAPI機能をほんの少数有し、作業(上記の標準的なユーティリティ機能以外)を予定する、OS特化型の単一の機能を必要とする構成でもよい。ローカルクライアントとの通信は、定義された作業オブジェクト(作業要求)の利用によって可能になる。作業要素それぞれの完了通知は、作業オブジェクトの一部として特定されたオプションの完了コールバックルーチンを通じて、要求エンティティに通知を行うことによって、効果的に達成することができる。

## 【0130】

インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン自体はキューベースのものである。ローカルクライアントからの作業要素は、FIFOオーダに従ってグローバル作業キューに追加されるが、これは、ローカルクライアントが、「ProtocolRequest work()」などの標準的なインターネット・モビリティ・プロトコル機能呼び出すことによってなされる。続いて、インターネット・モビリティ・プロトコル内のスケジューリング機能が該作業を除き、適切な機能に対してディスパッチする。待機機能とスケジューリング機能を組み合わせることでOSのアーキテクチャ間の差を感じさせなくするので、プロトコル・エンジンが、スレッドベースのシステム(例えばウィンドウズ(登録商標)NT)や同期型のシステム(例えばマイクロソフト・ウィンドウズ(登録商標)9xやウィンドウズ(登録商標)CE)で動作することが可能になる。優先度に関するスキームを待機機能の上にオーバーレイすることができるので、(下の層がサポートしていれば)サービス品質を保証することができる。

## 【0131】

ネットワークの視点から見ると、インターネット・モビリティ・プロトコルは、データのコピーや移動を減らすべく、分散-集結技術(scatter-gather techniques)を利用している。伝送はそれぞれフラグメントのリストとしてNALに送られ、ネットワーク層のトランスポートによって融合される。トランスポート・プロトコル自体が分散-集結技術をサポートしている場合、フラグメントリストは上記トランスポートを通じて転送され、媒体アクセス層ドライバあるいはハードウェアによってアセンブルされる。さらに、上記技術を拡張して、プロトコルスタックのどのレベルにおいても、いかなるプロトコルラッパーの挿入や消去を行うことも可能である。フレームの受信は、NAL層により、NAL登録処理(NAL registration process)時に指定された特定の入口点においてインターネット・モビリティ・プロトコルをコールバックすることで通知される。

## 【0132】

(インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジンのエントリポイントの例)  
 例示の実施形態におけるインターネット・モビリティ・プロトコルは、該プロトコルのスタートアップおよびシャットダウン行動を管理する、4つの共通エントリポイントを持している。以下に示されるのがこれらのプロシージャである。

## 【0133】

```
1. Internet Mobility ProtocolCreate()
2. Internet Mobility ProtocolRun()
3. Internet Mobility ProtocolHalt()
4. Internet Mobility ProtocolUnload()
```

(Internet Mobility Protocol Create ()) の例)  
 Internet Mobility Protocol Create () 機能は、ブートサブシステムによって呼び出され、インターネット・モビリティ・プロトコルを初期化する。この第一フェイズ中に、作業の処理を開始するのに必要なリソース全てが所得され、初期化されなければならない。該フェイズの終了時、エンジンは、システムの他の層からの作業をすぐに受け入れ可能な状態である必要がある。このとき、インターネット・モビリティ・プロトコルはグローバル設定テーブルを初期化するが、このために、インターネット・モビリティ・プロトコルは、設定マネージャ 228 のサービスを利用して該テーブルを設定 (populate) する。

【0134】

次に、インターネット・モビリティ・プロトコルは、サスペンドおよびレジューム通知機能を APM ハンドラに登録する。一例ではこれらの機能はモバイル端末システム 104 の側からのみ呼び出し可能であるが、他の例として、動作中にモビリティ管理サーバ 102 がサスペンドできるようにするのが望ましいこともある。続いて、グローバル作業キュー、グローバル NAL ポータルリストなど他の作業用記憶域がメモリプールから割り当てられる。

【0135】

必要なランタイムメモリの最大量を制限し、インターネット・モビリティ・プロトコルのハンドルの固有性を保証するため、インターネット・モビリティ・プロトコルは、ハンドル生成用の 2 段配列構成 (2-tier array scheme) を採用している。グローバル接続配列テーブルのサイズは、システムが設定する同時接続の最大数によって決まり、この時点で割り当てられる。全てのグローバル記憶域が割り当てられ、初期化されると、グローバル・インターネット・モビリティ・プロトコルの状態が、\_STATE\_INITIALIZE\_ となる。

【0136】

(Internet Mobility Protocol Run ()) の例)  
 Internet Mobility Protocol Run () 機能は、全てのサブシステムが初期化された後で呼び出され、インターネット・モビリティ・プロトコルのサブシステムに、待機中の作業をどれでも処理し始めてよいことを通知する。これが、一般的な動作状況におけるインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジンの通常の状態である。該エンジンを動作状態にする前に、いくつかの第二パス初期化ステップがこの時点で実行される。

【0137】

インターネット・モビリティ・プロトコルは、ネットワーク通信が、任意のインターフェイスのどれを通じてでも実行されるようにする。初期化ステップの間に、インターネット・モビリティ・プロトコル・NAL 間のインターフェイス用の記憶域が割り当てられるので、インターネット・モビリティ・プロトコルはグローバルポータルリスト中を横断して、NAL の全てのリスナをスタートさせることができる。一例として、この動作は 2 つのステップを含んだ以下の処理ようになる。

【0138】

・インターネット・モビリティ・プロトコルは、NAL 層に、初期化中に供給される設定に基づいたポータルを結びつけて (bind) オープンし、  
 ・インターネット・モビリティ・プロトコルは、次に、Internet Mobility Protocol RCVFROMCB コールバックを登録して、受信したフレームの処理を始める準備ができたことを、NAL 層に通知する。

【0139】

・引き続き、ローカル持続識別子 (local persistent identifier; PID) が初期化される。グローバル・インターネット・モビリティ・プロトコルの状態は、\_STATE\_RUN\_ に変わる。

【0140】

10

20

30

40

50



(Internet Mobility Protocol Halt ()) の例)

Internet Mobility Protocol Halt () 機能は、システムがシャットダウンしたことをエンジンに警告するために呼びだされる。動作中に得られたリソースは、この機能から戻る前に全て開放される。インターネット・モビリティ・プロトコルの全てのセッションは、管理用に設定された理由コードによって異常終了する。エンジンが STATE\_HALT\_ED 状態になると、それ以降、他の層からの作業は受け付けられず、他の層に通知されることも無い。

[0141]

(Internet Mobility Protocol Unload ()) の例)

Internet Mobility Protocol Unload () 機能は、シャットダウン処理の第二フェイズである。これが、復帰以前に、割り当てられたシステムリソースをエンジンが解放する最後の機会となる。エンジンがこの機能から戻ると、システム自体が停止するので、これ以上の作業は実行されない。

[0142]

(インターネット・モビリティ・プロトコル・ハンドルの例)

少なくともいくつかの例においては、メモリ (インターネット・モビリティ・プロトコル状態情報を記憶) のアドレスを、インターネット・モビリティ・プロトコルの接続を記述するトークンとして用いるだけでは不十分である。これは主に、短い期間のうちに、ある接続が終了して別の新しい接続が開始される可能性のためである。メモリアロケータが、別の接続に前のものと同じアドレスを再配分してしまう可能性が高く、この値が前の接続と新しい接続との両方を示すことになってしまう。元々のピアが、(電源が切られていたり、サスペンドしていたり、圏外にあったりなどで) セッションの終了を認識しなかった場合、前のセッションのフレームを新しいセッションの方に送ってしまうこともあり得る。TCP の場合はこれが起こり、ピアの IP アドレスが同じ場合、新しいセッションを生成するためにリセットが行われる。これを避けるため、インターネット・モビリティ・プロトコルは製造ハンドル (manufactured handle) を採用している。該ハンドルは 2 列のインデックスによって形成され、独自性を保つため一回限りのものである。テーブルは以下のようなレイアウトとなっている。

[0143]

テーブル 1: 接続オブジェクトの配列を指すポインタの配列

テーブル 2: インターネット・モビリティ・プロトコル制御ブロックを指す、実ポインタを含む接続オブジェクトの配列

この技術により、初期化期間に割り当てられるメモリの量が最小化される。テーブル 1 は、スタートアップの際にサイズが決められ、割り当てがなされる。これにより、モバイル端末システム 104 の側では、少量のメモリの割り当てが可能になる (モビリティ管理サーバ 102 側でテーブル 1 が割り当てを要求するメモリは、サーバが多くの接続を有しているため少し大きなものになる)。

[0144]

テーブル 1 は必要時に設定 (populate) される。接続要求が出されると、インターネット・モビリティ・プロトコルは、テーブル 1 内でテーブル 2 への有効なポインタを探す。エントリポイントが見つからない場合、インターネット・モビリティ・プロトコルは、新規のテーブル 2 に 256 個の接続オブジェクトを割り当て、テーブル 2 へのポインタを、テーブル 1 の適切なスロットに記録する。次に、プロトコル・エンジンはテーブル 2 を初期化し、新しく生成されたテーブルからの接続オブジェクトを割り当てて、製造ハンドルへ戻す。他のセッションが要求された場合、インターネット・モビリティ・プロトコルは再度テーブル 1 中をサーチして、テーブル 2 への有効なポインタを見つけ、該セッション用の次の接続オブジェクトを割り当てる。この作業は、以下の二つの状態のうちのどちらかになるまで続けられる。

[0145]

・テーブル 2 から全ての接続オブジェクトが無くなった場合、新たにテーブル 2 が割り当

てられ、初期化されて、該テーブル 2 を示すポインタが、テーブル 1 の次に利用可能なスロットに設定される。

【0146】

・全ての接続オブジェクトが特定のテーブル 2 のインスタンスに開放され、全ての要素がある特定の期間使用されなかった場合、テーブル 2 の上記インスタンスにおける記憶域が開放されてメモリアルに戻され、テーブル 1 の関連しているポインタはゼロにされて、次の接続要求が開始された際、該入口が使用可能であることを示すようになる（テーブル 2 の他のインスタンスで、利用可能な接続オブジェクトがない場合に限る）。

【0147】

二つのグローバルカウンタは、割り当てられる接続の総数を制限できるようにするために維持されている。片方のグローバルカウンタは現時点でアクティブな接続を数え、もう片方のカウンタは、割り当てられていない接続オブジェクトの数を把握する。さらに、第二のカウンタは、任意に設定された制限まで生成可能な接続オブジェクトの総数の管理も行う。新規のテーブル 2 が割り当てられると、該カウンタは、該新規のテーブルが表現するオブジェクトの数を把握するため、下方に調整される。反対側では、インターネット・モビリティ・プロトコルがテーブル 2 のインスタンスをメモリアルに開放するときに、カウンタは、開放された接続オブジェクトの数を合わせて上方修正される。

【0148】

（ワークフローの例）

Internet Mobility Protocol Request Work () 機能によって、作業はローカルクライアントから要求される。該作業が検査 (validate) され、グローバル作業キューに加えられると、Internet Mobility Protocol Queue Eligible () 機能が呼び出される。スレッド化された環境であれば、インターネット・モビリティ・プロトコルのワーカースレッドに信号が送られ（適合マークがつけられ）、制御は直ちに呼び出しエンティティへと戻る。同期的な環境であれば、グローバル作業キューが直ちに実行されて、要求された作業はいかなるものであっても処理される。どちらの場合でも、Internet Mobility Protocol Process Work () 機能が実行されることになる。これが作業処理のためのメインディスパッチ機能である。

【0149】

例示の実施形態では、グローバルキューからの作業をディスパッチできるのが一回に一つのスレッドのみの場合があり、再入を防ぐべくグローバルセマフォが用いられてもよい。クライアントインターネット・モビリティ・プロトコルの作業では、Internet Mobility Protocol Request Work () 機能を使用せず、直接グローバル作業キューに作業を送ることができる。

【0150】

SEND タイプの作業オブジェクトでは、特殊な場合が想定される。信頼性の低いデータグラムのセマンティクスが保たれていることを保証するため、SEND タイプの作業オブジェクトをそれぞれ、有効期限あるいは再試行カウントを伴って待機させることができる。作業は該有効期限に基づいて寿命を算定される。このような所定のタイムアウトが生じた場合、作業オブジェクトは接続特定キューから除かれ、エラー状態で完了する。SEND オブジェクトが既にデータバスに融合されている場合、プロトコルは、再試行カウントが設定されたどの SEND オブジェクトでも、除去を許可する。再試行カウントを超過した場合、該オブジェクトは、特定のフレームを形成する要素のリストから外され、適当なエラー状態を示しつつリクエストへ展される。

【0151】

（接続スタートアップの例）

インターネット・モビリティ・プロトコルは、ピア間の接続を確立する非常に効率的なメカニズムを有している。接続の確認は、ピア間で最低 3 フレームをやり取りすることで行われる。開始側は、そのピアに IMP SYNC フレームを送って接続確立が要求されて

いることを警告する。受け入れ側は、IMP ESTABLISH フレームを送って接続受け入れを確認するか、あるいはIMP ABORT フレームを送ることで、接続要求が拒否されたことをピアに警告する。ユーザに接続拒否の理由を理解しやすくするため、理由および状態コードが、IMP ABORT フレームに含まれる形で送られる。接続が許可されると、確認応答フレーム（プロトコル・データ・ユニットおよび制御データがふくまれていることもある）が送られて、受け入れ側に転送され、確立フレームの受信が確認される。

#### 【0152】

ネットワークのトラフィックを最小化するため、プロトコルは、ユーザおよび制御データを、接続スタートアップ時の最初のハンドシェイク機構に含まれるようにすることができる。この構成は、セキュリティが保障されていない環境や、同じデータベースでセキュリティ用の認証が二重に行われたり、暗号化処理が同じデータベースで行われたりすることによるパフォーマンスの低下を避けるよう、インターネット・モビリティ・プロトコルが調整されているというような、セキュリティが下層で扱われている環境において使用される。

#### 【0153】

（データ転送の例）

インターネット・モビリティ・プロトコルは、フレームがネットワークに配信されたことを、NAL からの通知によって検知する。インターネット・モビリティ・プロトコルは、当該ネットワークリンクが絶えずフロー制御されているか否かを上記メトリクスによって判定するので、当初の要求が完了されるまで同じフレームを再伝送することはない。しかし、ネットワークドライバによっては、フレームの伝送について、誤って、該フレームをネットワークに送る前に配信を示唆してしまうものもある。セマフォの利用により、インターネット・モビリティ・プロトコル層はこれを検知し、当初の要求について NAL が返答するまでは、他のデータグラムを送信しない。

#### 【0154】

フレームがインターネット・モビリティ・プロトコルに受信されると、該フレームは迅速に検査されて、適切な接続キューに加えられる。該フレームが、インターネット・モビリティ・プロトコルがその最終目的地を識別するのに足る情報を有していない場合、該フレームは、それを受信したインターネット・モビリティ・プロトコル・ソケット・キューに加えられ、該ソケット・キューは、続く処理のためにグローバル作業キューに加えられる。この最初の逆多重化により、受信した作業は、処理オーバーヘッドが限定された状態で、迅速に拡散させられる。

#### 【0155】

（黙認 (acquiescing) の例)

再伝送時のネットワーク帯域幅およびモビリティ管理サーバ 102 の処理に要する電力の最小化のため、プロトコルは、モビリティ管理サーバ 102 が接続を「黙認」できるようにする。ユーザによる設定が可能な期間の後、モビリティ管理サーバ 102 は、対応するモバイル端末システム 104 から通知が無ければ、特定の接続へのフレームの再伝送を停止する。この時、モビリティ管理サーバ 102 は、モバイル端末システム 104 が通信できない状態（圏外、サスペンドなど）であると仮定し、接続を休止状態にする。該接続へのこの後の作業は全て、後の配信のために記憶される。該接続は、以下の状況のいずれかが満たされない限り、同じ状態にとどまり続ける。

#### 【0156】

- ・モビリティ管理サーバ 102 がモバイル端末システム 104 からフレームを受信し、接続を本来の状態に戻す、
- ・接続寿命タイムアウトの期限が切れる、
- ・休止タイムアウトの期限が切れる、または
- ・システム管理者によって接続が中止される

モビリティ管理サーバ 102 が、モバイル端末システム 104 からフレームを受信し、中断された所から接続が再開された場合、該接続で待機していた作業は全て転送され、状態

10

20

30

40

50

が再同期化される。これ以外の場合、再接続がなされると、モバイル端末システム 104 には以前の接続の終了が通知され、モバイル端末システム 104 に送られることを待機していた作業は破棄される。

【0157】

(接続および送信要求の例)

図10A～10Cは、インターネット・モビリティ・エンジン244によって生成される接続および送信要求ロジックを例示する、フローチャートを形成している。R P Cエンジン244からの命令を受信すると、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244は、該命令が「接続」要求かどうかを判定する(判定ブロック602)。該命令が「接続」要求であれば、エンジン244は、接続リソースの割り当てが可能かどうかを判断する(判定ブロック603)。十分な接続リソースが割り当てられない場合(判定ブロック603で「ノー」である場合)、エンジン244はエラーを宣言して(ブロック603a)応答する。接続リソースの割り当てが可能であれば、エンジン244は状態設定処理を行って、接続要求の処理に備える(ブロック603b)。

【0158】

接続その他の要求に対し、エンジン244は該接続あるいは送信要求を待機させ、呼び出しを実行しているアプリケーションに応答する前に、グローバルイベントに通知する(ブロック604)。

【0159】

インターネット・モビリティ・プロトコルのグローバル要求キューからの接続あるいは送信要求をディスパッチするために、エンジン244はまず、保留されている作業の有無を判定する(判定ブロック605)。保留されている作業が無ければ(判定ブロック605で「ノー」である場合)、エンジン244は、図10Cのブロック625に移って、接続用の作業を待機させるため、アプリケーションからの応答を待つ(ブロック605A)。保留されている作業があれば(判定ブロック605で「イエス」の場合)、エンジン244は現在の状態が確立されているかどうかを判定する(ブロック606)。状態が確立されている場合(判定ブロック606で「イエス」の場合)、エンジン244は状態確立への移行のためのステップを飛ばして、図10Bの判定ブロック615に移る(ブロック606a)。状態が確立されていない場合、エンジン244は状態確立のための一連のステップを実行する必要がある(判定ブロック606で「ノー」である場合)。

【0160】

状態確立に移行するために、エンジン244はまず、そのピアのアドレスが既知かどうかを判定する(判定ブロック607)。既知でなければ、エンジン244は作業をさらに待機させ、図10Cのブロック625に移って、ピアのアドレスが来るのを待つ(ブロック607a)。ピアのアドレスが既知の場合(判定ブロック607で「イエス」の場合)、エンジン244は次に、必要なセキュリティコンテキストが取得されているかどうかを判定する(判定ブロック608)。取得されていない場合、エンジン244は作業をさらに待機させ、図10Cのブロック625に移って、セキュリティコンテキストが来るのを待つ必要がある(ブロック607a)。セキュリティコンテキストが既に取得されている場合(判定ブロック608で「イエス」の場合)、エンジン244は「状態保留」状態を宣言して(ブロック608b)、インターネット・モビリティ・プロトコルの同期フレームを送信し(ブロック609)、再伝送タイマーをスタートさせる(ブロック610)。エンジン244は、対応する確立フレームが受信されたかどうかを判定する(ブロック611)。受信されていない場合(判定ブロック611で「ノー」の場合)、エンジン244は、再伝送時間の期限が来たかどうかを判定する(判定ブロック612)。再伝送時間の期限が来ていない場合(判定ブロック612で「ノー」の場合)、エンジン244は待機し、続いてステップ625に移ってもよい(ブロック613)。最終的に、確立フレームが受信されず(ブロック611で判定)、再伝送時間の期限が全て切れた(判定ブロック614)場合、接続は中止されてよい(ブロック614a)。結局確立フレームが受信された場合(判定ブロック611で「イエス」の場合)、エンジン244は「状態確立」

状態を宣言する（ブロック 611a）。

【0161】

状態確立がなされると、エンジン 244 は新規の接続の認証がなされているかどうかを判定する（判定ブロック 615）。なされていない場合、エンジン 244 は待機し、ステップ 625 へと移つてよい（ブロック 616）。接続の認証がなされている場合（判定ブロック 615 で「イエス」の場合）、エンジン 244 は認証が成功したかどうかを判定する（判定ブロック 617）。成功していない場合（判定ブロック 617 で「ノー」の場合）、接続は中止される（ブロック 614a）。成功している場合、エンジン 244 は、ピア伝送ウィンドウがフルになっているかどうかを判定する（判定ブロック 618）。フルになっていなければ（判定ブロック 618 で「イエス」の場合）、エンジン 244 は確認応答を待ち、ステップ 625 に進む（判定ブロック 619）。ウィンドウがフルになっていなければ（判定ブロック 618 で「ノー」の場合）、エンジン 244 はインターネット・モビリティ・プロトコル・データフレームを生成し（ブロック 620）、送信する（ブロック 621）。次に、エンジン 244 は再伝送タイマーがスタートしているかどうかを判定する（判定ブロック 622）。していない場合、エンジン 244 は再伝送タイマーをスタートさせる（ブロック 623）。エンジン 244 は、それ以上送信するデータが無くなるまで（判定ブロック 624 で判断される）、ブロック 618～623 を繰り返す。そして、エンジン 244 はスリープモードに入ってから作業が来るのを待ち、グローバルディスパッチに戻る（ブロック 625）。

【0162】

（中止の例）

図 11 は、接続を中止するためにインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン 244 が実行するステップを例示したフローチャートである。「接続中止」要求を受けて（ブロック 626）、該エンジンは該要求をグローバル作業キューに加え、呼び出しを行っているアプリケーションに返答する（ブロック 626a）。中止要求は最終的に、実行のため、インターネット・モビリティ・プロトコルの処理グローバル作業キューからディスパッチされて（ブロック 627）、エンジン 244 は中止要求を調べて、該要求が緊急のものであるか、あるいは余裕のあるものであるかを判定する（判定ブロック 628）。緊急のものの場合（判定ブロック 628 で「中止」の場合）、エンジン 244 は直ちに接続を中止する（ブロック 629）。余裕があるものであれば（判定ブロック 628 で「余裕」の場合）、エンジン 244 は「状態クローズ（state close）」状態を宣言し（ブロック 628a）、インターネット・モビリティ・プロトコルの「モーティス（Mortis）」フレームを送信し（ブロック 630）、ピアに接続がクローズされることを示唆する。次に、エンジン 244 は「モーティス」状態を宣言し（ブロック 630a）、再伝送タイマーをスタートさせる（ブロック 631）。エンジン 244 は、ピアから「ポスト・モーテム（post mortem）」フレームが応答されたかどうかを判定する（判定ブロック 632）。応答されていない場合（判定ブロック 632 で「ノー」の場合）、エンジン 244 は、再伝送タイマーが時間切れになっているか否かを判定する（判定ブロック 633）。まだ時間切れになっていない場合（判定ブロック 633 で「ノー」の場合）、エンジン 244 は待機し、ステップ 637 へ進む（ブロック 634）。再伝送タイマーが時間切れになっている場合（判定ブロック 633 で「イエス」の場合）、エンジン 244 は総再伝送時間の期限が切れているかどうかを判定する（判定ブロック 635）。まだ切れていない場合（判定ブロック 635 で「ノー」の場合）、ブロック 630 に戻り、モーティスフレームを再送する。すでに総再伝送時間の期限が切れている場合（判定ブロック 635 で「イエス」の場合）、エンジン 244 は直ちに接続を中止する（ブロック 635a）。

【0163】

「ポスト・モーテム」応答フレームがピアから受信されると（判定ブロック 632 で「イエス」）、エンジン 244 は「ポスト・モーテム」状態を宣言して（ブロック 632a）、接続リソースを開放し（ブロック 636）、スリープ状態に戻ってから作業を待つ（

ブロック 637)。

【0164】

(再伝送の例)

図12は、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244が実行する「再伝送」イベントロジックの例を示している。再伝送タイマーが時間切れを迎える(ブロック650)と、エンジン244は、保留中のフレームがあるかどうかを判定する(判定ブロック651)。保留中のフレームがなければ(判定ブロック651で「ノー」の場合)、エンジン244はタイマーを破棄して(ブロック652)スリープ状態に戻る(ブロック660)。逆に保留中のフレームがあれば(判定ブロック651で「イエス」の場合)、エンジン244は、再伝送期間全体(entire)が終了したかどうかを判定する(判定ブロック653)。まだ終了していなければ(判定ブロック653で「ノー」の場合)、処理は時間差のためにスリープ状態に戻る(ブロック654)。既に終了していれば(判定ブロック653で「イエス」の場合)、エンジン244は、総ての(total)再伝送期間が終了したかどうかを判定する(判定ブロック655)。既に終了しており(判定ブロック655で「イエス」)、このイベントがモビリティ管理サーバのエンジン244'(モバイル端末システムのエンジン244に対応)で実行されている場合、休眠状態が宣言される(判定ブロック656、ブロック656a)。同じ状態で、モバイル端末システム104において実行されるインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244は、接続を中止する(ブロック656b)。

【0165】

総ての再伝送期間がまだ終了していない場合(判定ブロック655で「ノー」の場合)、エンジン244はフレームを再処理して時間切れのデータを除去し(ブロック657)、それを再転送し(ブロック658)、再転送タイマーをそのまま再始動させる(ブロック659)。そして処理は休眠状態に入り(ブロック660)、次のイベントを待つ。

【0166】

(インターネット・モビリティ・プロトコルのPDUの期限切れの例)

図12のブロック657において、要求を出している上層のインターフェイスが、結合しているピアに送られるプロトコル・データ・ユニット(つまりSEND作業要求)506の期限切れに関するタイムアウトあるいは再試行カウントを特定することが可能になる。この機能により、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244は、信頼性の低いデータのセマンティクス維持、再伝送されたデータからの信頼性の低いデータの除去など、他の機能も果たせるようになる。上層からのPDU(プロトコル・データ・ユニット)それぞれは、最終的にインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244によってコーリングされる、それぞれの要素に対する有効期限タイムアウト(validity timeout)および/または再試行カウントを、特定することができる。有効期限タイムアウトおよび/または再試行カウント(アプリケーションによってはユーザによって特定可能)は、エンジン244による再伝送の前に、どのPDU506が、転送されずにフレームから除去されるべきかを決定するために使われる。

【0167】

PDU506に関わる有効期限タイムアウトは、PDUそれぞれが伝送に際して考慮すべき、相対期間(relative time period)を特定する。実行依頼の間、Internet Mobility Protocol Request Work機能によって有効期限の値(expiry timeout value)がチェックされる。該値が0で無い場合、時期タイマー(age timer)は初期化される。次に、要求されたデータは、結合しているピアに送られる他のデータと同じキューに加えられる。あるPDU506が、有効期限パラメータ(validity period parameter)が特定する期間よりも長くキューにある場合、該キューを処理する次のイベントの間に、有効期限の切れた該(全ての)PDUは除去され、フレームの再伝送時に再伝送されるのではなく、ローカルに「タイムアウトによる失敗(timeout failure)」のステータスコードをもって完了する。このアルゴリズムにより、ピアへの伝

送のために待機している信頼性の低いデータが古くなる (grow stale) こと、および/または無限なくシステムリソースを消費することを防ぐ。

【0168】

図12Aの例において、少なくとも3つの独立したPDU506が、続く処理のためにインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244でキューに加わっている。PDU506(1)は有効期限を持たず、要求に対するタイムアウトが無い。PDU506(2)は、2秒の有効期限を持ち、時系列的にPDU506(1)の後に並んでいる。PDU506(n)は、2.5秒の有効期限を持ち、時系列的にPDU506(2)の後に並んでいる。PDU506(n)の待機が、キューの処理をさせ、PDU506(2)の有効期限を経過させる最初のイベントであるため、PDU506(2)は作業キューから外され、ローカルに完了されて、PDU506(n)がリストに加えられる。有効期間がPDU506(n)に設定されている場合、ここまでの一連のイベントが繰り返される。作業キューを操作するいかなるイベント(キューに加える、キューから外す等)によっても、古くなったPDUが除去され、完了される。

【0169】

上記のように、PDU506はインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244の伝送ロジックによって融合され、単一のデータストリームにフォーマットされる。独立した作業要素それぞれは、有効期限タイムアウトによって期限切れになっていなければ、集められてインターネット・モビリティ・プロトコル・データフレームを形成する。インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244は、最終的にこれらのPDU506をピアに送り、関係するフレームをフレーム保留リスト(Frame-Outstanding list)に加える。ピアが一定期間内に該フレームを認識しなかった場合(図12の再伝送アルゴリズムを参照)、フレームは再伝送され、失われたかあるいは破損したパケットを回復する。再伝送の直前、フレームを形成するPDUリストは、再試行カウントを伴った要求が待機しているかどうかを判定すべく反復される。該再試行カウントが0ではなく、0に向かって減少してゆく場合、PDU506はリストから外され、フレームヘッダはデータの消去を示すように修正される。このように、古くなったデータ、低信頼のデータ、あるいは独自の再伝送ポリシーを持つアプリケーションは、エンジン244'の再伝送アルゴリズムによって負担をかけられることがない。

【0170】

図12Bの例においても、少なくとも3つの独立したPDU506が、続く処理のためにインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244でキューに加わっている。PDU506(1)は再試行カウント無しでキューに加わっているが、これは、継続的な再伝送の試行と、保証された配送レベルのサービスとを示している。PDU502(2)は再試行カウントが1でキューに加わり、時系列的にPDU506(1)の後に並ぶ。PDU506(n)は、ある程度の時間が経過してからPDU502(2)より後ろに加わる。この時点で、いくつかの外部イベント(例えば上層融合・タイマー)が、エンジン244'に、インターネット・モビリティ・プロトコル・データフレーム500を生成するための作業キューから十分なPDU506を集めて新しいフレームを生成するための論理を送信させる。フレームヘッダ503が求められ、これに、フレームの最初の伝送であることを示すための、再試行1Dとして0が付けられる。続いてフレームは、ネットワークへの後の伝送用に、NAL層へと送られる。このときに再伝送タイマーがスタートするが、これは、当該フレームがベイロードを含んでいるためである。説明を容易にするため、再伝送タイマーが期限を迎える前に、様々な理由でピアからの確認応答が受け取られなかったと仮定すると、エンジン244の再伝送ロジックにより、当該するフレーム500が、ネットワークへ再伝送されるのに的確であるか否かが判断される。フレームをNAL層に再送する前に、エンジン244'の再伝送ロジックは、関連しているPDU506のリストを反復する。PDU506(2)それぞれの再試行カウントが調べられ、0でなければ、該カウントは減少させられる。PDU506(2)の再試行カウントを減少させる処理により、該カウントは0になる。PDU506(2)の再試行カウントが0になったこ

とにより、PDU506(2)はリストから外され、「再試行失敗(retry failure)」のステータスをもってローカルに完了する。続いて、PDU506(2)のデータが無いことを示すため、フレームヘッダ503のサイズが調整される。この処理は、残っている全てのPDUについて繰り返される。フレーム500全体が、「編集後」フレーム500'の作成のために再処理されると、ヘッダの再試行IDが増加させられて、生成されたデータグラムが、続く(再)伝送に向けてNAL層に送られる。

#### 【0171】

(受信の例)

図13A~13Dは、「受信」イベント受信に伴ってインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244が実行するステップを例示する、フローチャートを形成している。このような受信イベントは、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン・フレームがネットワーク108から送られた際に生成される。この受信イベントを受けて、エンジン244は該イベントを事前検査(pre-validate)し(ブロック670)、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン・フレームである可能性があるかを判定する(判定ブロック671)。エンジンが可能性無しと判断した場合(判定ブロック671で「ノー」の場合)、該フレームは破棄される(ブロック672)。可能性ありという判断の場合(判定ブロック671で「イエス」の場合)、エンジン244は、受信したフレームと関連する接続があるかどうかを判定する(判定フレーム673)。受信したフレームと関連する接続がある場合(判定ブロック673で「イエス」の場合)、エンジン244は作業を接続受信キューに加え(ブロック674)、該接続に受信に  
10  
適格であるとマークを付け(ブロック675)、該接続をグローバル作業キューに加える(ブロック676)。まだどの接続も受信したフレームと関連していない場合(判定ブロック673で「ノー」の場合)、エンジン244は、受信したフレームをソケット受信キューに加え(ブロック677)、該ソケット受信キューをグローバル作業キューに加える(ブロック678)。どちらの場合でも、エンジン244はグローバル作業イベントを送る(ブロック679)。「受信適格」イベントをグローバル作業キューからディスパッチする際(図13B参照)、エンジン244はフレームをそれぞれの受信キューから外す(ブロック680)。インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244がメッセージをキューから外し始められるようになる前に、複数のIMPフレームを受信し、キューに加えることが可能である。エンジン244は、全てのフレームがキューから外れるまで作業を繰り返す(ブロック681、682)。あるフレームがキューから外れると(判定ブロック681で「イエス」)、エンジン244は受信したフレームを検査し(ブロック683)、該フレームが有効かどうかを判定する(判定ブロック684)。該受信したフレームが無効である場合、エンジン244は該フレームを破棄し(ブロック685)、受信キューから次のフレームを外す(ブロック680)。上記フレームが有効である場合(判定ブロック684で「イエス」の場合)、エンジン244は、該フレームが既存の接続と関連しているかを判定する(ブロック686)。していなければ(判定ブロック686で「ノー」の場合)、エンジン244は同期フレームがあるかどうかを判定する(判定ブロック687)。同期フレームがなければ(判定ブロック687で「ノー」の場合)、該フレームは破棄される(ブロック685)。反対に、同期フレームが受信されてい  
40  
れば(判定ブロック687で「イエス」の場合)、エンジン244は、図14Aおよび14Bを参照して説明される受動接続要求により、該フレームを処理する(ブロック688)。

#### 【0172】

上記フレームが接続と関係していれば(判定ブロック686で「イエス」の場合)、エンジン244は接続状態が依然アクティブで、まだ「ポスト・モータム」になっていないかどうかを判定する(判定ブロック689)。接続が既に「ポスト・モータム」である場合、フレームは破棄される(ブロック685)。そうでない場合、エンジン244はフレームを解析し(ブロック690)、該フレームが中止フレームであるかどうかを判定する(判定ブロック691)。該フレームが中止フレームであれば、エンジン244は直ちに接  
50



続を中止する（ブロック691a）。該フレームが中止フレームでなければ（判定ブロック691で「イエス」の場合）、エンジン244は確認応答情報を処理し、全ての保留中の送信フレームを開放する（ブロック692）。次に、エンジン244は、解読の必要がある場合、セキュリティ用のサブシステムへと送る（ブロック693）。フレームがセキュリティ用のサブシステムから戻ると、エンジン244は全ての制御データを処理する（ブロック694）。続いて、エンジン244はフレームがアプリケーションデータを含んでいるかどうかを判定する（判定ブロック695）。含んでいる場合、該データはアプリケーション層においてキューに加えられる（ブロック696）。エンジン244はまた、接続が休止状態であるかどうかを判定し（ブロック697および697a：これは、好ましい実施形態におけるモビリティ管理サーバのエンジン244'にもあてはまる）、確立状態に戻す。

#### 【0173】

フレームが「モータリス」フレームである可能性があれば（判定ブロック698で「イエス」の場合）、エンジン244は、アプリケーション層に「切断」を示唆し（ブロック699）、「モータリス」状態に入る（ブロック699a）。エンジン244は「ポスト・モータリス」フレームをピアに送り（ブロック700）、「ポスト・モータリス」状態に入る（ブロック700a）。続いて、エンジン244は接続リソースを解放し（ブロック701）、スリープ状態に戻って作業を待つ（ブロック702）。解析されたフレームが「ポスト・モータリス」フレームだった場合（判定ブロック703で「イエス」の場合）、ブロック700a、701、702が実行される。これ以外の場合、制御はブロック680に戻って、次のフレームを受信キューから外す（ブロック704）。

#### 【0174】

（受動接続の例）

図14A～14Bは、「受動接続」要求に対してインターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244が実行するステップを例示する、フローチャートを形成している。まず、エンジン244は、当該装置に他の接続が存在するかどうかを判定する（ブロック720）。存在すれば（判定ブロック720で「イエス」の場合）、該エンジンは、それが最初の接続であるか否かを判定する（判定ブロック721）。ピアが、新規の接続が最初の接続であると認識している場合（判定ブロック721で「イエス」の場合）、エンジン244はそれ以前の接続を中止する（ブロック722）。最初の接続ではない場合（判定ブロック721で「ノー」の場合）、エンジン244は、シーケンスと接続IDとが対応しているかどうかを判定する（判定ブロック723）。対応していなければ（判定ブロック723で「ノー」の場合）、制御は判定ブロック720へ戻る。シーケンスと接続IDが対応していれば（判定ブロック723で「イエス」の場合）、エンジン244は複製フレームを破棄し（ブロック724）、図13Bのステップ680に戻る（ブロック725）。

#### 【0175】

他の接続が無ければ（判定ブロック720で「ノー」の場合）、エンジン244は、接続に接続リソースを割り当て可能か否かを判定する（判定ブロック726）。割り当て可能でない場合、エラーが宣言され（判定ブロック726で「ノー」の場合、ブロック727）、接続が中止される（ブロック728）。接続リソースを割り当て可能な場合（判定ブロック726で「イエス」の場合）、エンジン244は「設定」状態を宣言し（ブロック726a）、接続についてのセキュリティコンテキストを取得する（ブロック730）。十分なセキュリティコンテキストの取得ができなかった場合（判定ブロック731で「ノー」の場合）、接続は中止される（ブロック728）。取得できた場合、エンジン244は確立フレームを送り（ブロック732）、接続が「確立」状態になったことを宣言する（ブロック732a）。続いて、エンジン244は再送部（retransmitter）を起動させ（ブロック733）、完了に向けて認証処理を待つ（ブロック734）。最後に、エンジン244は装置とユーザとが両方認証済みか否かを判定する（ブロック735）。装置とユーザのどちらかが認証されていない場合、接続は中止される（ブロック7

36)。それ以外の場合、エンジン244は監視中の(listening)アプリケーションへの接続を示唆し(ブロック737)、設定を取得する(ブロック738)。この2ステップのどちらかが成功しなかった場合、接続は中止される(判定ブロック739、ブロック740)。成功した場合、処理はスリープ状態に戻って作業を待つ(ブロック741)。

[0176]

(異常終了の例)

図15Aおよび15Bは、接続「中止」要求を受けて、インターネット・モビリティ・プロトコル・エンジン244が実行するステップを例示する、フローチャートを形成している。キューを介してディスパッチされた、上記のような要求を他の処理(ブロック999)から受信すると(ブロック1000)、エンジン244は、接続が該要求と関係しているかどうかを判断する(判定ブロック1001)。関係していれば(判定ブロック1001で「イエス」の場合)、エンジン244は元の状態をセーブして(ブロック1002)、「中止」状態を宣言する(ブロック1002a)。次に、エンジン244は、接続がRPCエンジンに示唆されていたか否かを判定する(判定ブロック1003)。されていれば、エンジン244は切断イベントを示唆し(ブロック1004)、「ポスト・モートム」状態を宣言して(ブロック1003a)、該接続に割り当てられていたリソースを解放し(ブロック1005)、元の状態が保留中の状態より大きいのか否かを判定する(判定ブロック1006)。元の状態が保留中の状態より大きくなければ、(判定ブロック1006で「ノー」の場合)、処理は、呼び出しルーチンに戻るべく、ブロック1012に移る(ブロック1007)。元の状態が保留中の状態より大きい場合には、エンジン244は、上記要求が受信フレームと関係しているかどうかを判定する(判定ブロック1008)。中止要求が受信フレームと関係していて、受信フレームが中止フレームである場合(判定ブロック1009)、受信フレームは呼び出しルーチンに戻る(ブロック1012)前に破棄される(ブロック1011)。

[0177]

(ローミング制御の例)

再度図1を参照すると、モバイルネットワーク108は、それぞれ別のネットワーク相互接続(107a~107k、無線トランシーバ106a~106kにそれぞれ対応)を提供する、複数のセグメントを含んでいてもよい。本発明の別の側面において、モビリティ管理サーバ102を含むネットワーク108は、モバイル端末システム104があるネットワーク相互接続から別のネットワーク相互接続へと移る「ローミング」状況を、余裕を持って(gracefully)扱うことができる。一般に、ネットワーク108のトポロジは、管理等の理由により、いくつかのセグメント(サブネット)に分けられ、一般的には、あるセグメントにおいて、別個のネットワーク(伝送)アドレスが複数のモバイル端末システム104それぞれに割り当てられている。

[0178]

上記のようなサブネットが新規に起動したネットワーク装置は、動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を使用して、自動的に設定されるのが一般的である。例えば、サブネット上のDHCPサーバは、一般的に、そのクライアントに(他のものの提供に加えて)有効なネットワークアドレスを「リース」する。DHCPクライアントは、永続的に割り当てられた、「固定符号化された(hard-coded)」ネットワークアドレスを有していなくてもよい。その代わり、ブート時に、DHCPクライアントはDHCPサーバにネットワークアドレスを要求する。DHCPサーバは、割り当てに使用可能なネットワークアドレスをブールしている。DHCPクライアントがネットワークアドレスを要求すると、DHCPサーバはブールしていたアドレスを、該クライアントに割り当てあるいはリースする。割り当てられたネットワークアドレスは、特定の期間(リース期間)だけ、クライアントに所有される。リース期間が終わると、ネットワークアドレスはブールに戻され、他のクライアントへの割り当てに使用できるようになる。ネットワークアドレスの自動割り当てに加え、DHCPはネットマスク等の設定情報を、DHCPクライアントソフト

ウェアを動作させているクライアントに提供する。標準的なDHCPプロトコルについての詳しい情報は、RFC 2131に記載されている。

【0179】

よって、DHCPを使用するモバイル端末システム104が、サブネットからサブネットへとローミングすると、該システムは新規のネットワークアドレスを持つことになる。本発明の一側面において、モバイル端末システム104とモビリティ管理サーバ102とがDHCPの自動設定機能を利用し協調することで、モビリティ管理サーバによるモバイル端末システム104の「新しい」ネットワークアドレスの認識や、該アドレスと、モビリティ管理サーバがプロキシする、以前に確立されていた接続との結合が保証される。

【0180】

ある実施例では、モバイル端末システム104が別のサブネットにローミングしたり圏外に出たりしたか否かを判定するために利用される、他の標準的な方法と並んで、エコー要求-応答 (echo request-response) として、標準的なクライアント/サーバ型同報通信用のDHCP Discover/Offerメッセージのシーケンスが使用される。標準的なDHCPプロトコルに従って、ネットワークアドレスを要求するモバイル端末システム104が、DHCP Discoverメッセージの一部として、クライアント識別子とハードウェアのアドレスとを定期的に同報通信すると、これに対し、DHCPサーバはOffer応答を同報通信する (要求しているモバイル端末システムがまだネットワークアドレスを持っていないため、該システムを特定して該応答を送るというよりも、同報通信によって該応答が伝えられるという形になる)。よって、当該サブネット上の全てのモバイル端末システム104は、DHCP Offerサーバからの、同サブネット上のどのモバイル端末システムに同報通信された応答であっても受信することになる。

【0181】

本実施例では、DHCP同報通信メッセージをモニターするDHCPリスナが設けられており、モバイル端末システム104が、あるサブネットから別のサブネットへローミングしているか、およびDHCPによって新規のネットワークアドレスが取得できるようになっているかが確認される。図16は、DHCPリスナのデータ構造の例を示している。例えば、モバイル端末システムのリスナのデータ構造902は、以下の要素を有していてもよい。

【0182】

- ・サーバデータ構造の連結リスト、
- ・整数トランザクションID番号 (xid)、
- ・カウンタ (「ping」)、および
- ・タイムアウト値

サーバデータ構造904は、それぞれ別のDHCPサーバを定義するデータブロックの連結リストを有していてもよい。該データブロックそれぞれは、以下の要素を有していてもよい。

【0183】

- ・次のサーバへのポインタ、
- ・サーバID (DHCPサーバのネットワークアドレス)、
- ・最近該DHCPサーバと結合したBOOTPリレーエージェントのアドレス (giaddr)、
- ・「ping」値 (socket->ping)、および
- ・フラグ

これらのデータ構造は、ネットワーク108上のDHCP同報通信トラフィックに基づいて、持続的にアップデートされる。以下に例示の諸機能は、該データ構造の維持に使用される。

【0184】

- ・roamCreate () (変数を初期化)

10

20

30

40

50

- ・ `roamDeinitialize()` (全てのリスナを消去)
  - ・ `roamStartIndications()` (モバイル端末システムがローミングするかインターフェイスを変更した際に、登録主体ローミング示唆 (`registrant roaming indications`) のために、供給されたコールバックルーチン呼び出す)
  - ・ `roamStopIndications()` (適当なコールバックをリストから除却して登録ローミング示唆を停止)
  - ・ インターフェイス変更 (インターフェイスがネットワークアドレスを変更したことを示す、OSからのコールバック通知)
  - ・ リスナ信号 (ローミング、圏外、圏内復帰のいずれかの状態を示す、リスナからのインターフェイスごとのコールバック)
- これに加え、リフレッシュ処理が、インターフェイス変更後にリスナをアップデートするために利用されてよい。

#### [0185]

本好ましい実施形態では、全てのモバイル端末システム104が、DHCP Discover 要求によって同じクライアント識別子とハードウェアアドレスとを伝送する。これにより、リスナのデータ構造とこれに関連する処理とが、モバイル端末システムからのDiscover 要求と、他のネットワーク装置からのDiscover 要求とを、区別することができるようになる。DHCPサーバも同様に応答を同報通信するので、どのモバイル端末システム104および/またはモビリティ管理サーバ102も、DHCPサーバからのモバイル端末システムに出されたOffer 応答でも受け取ることができる。複数のDHCPサーバが単一のDHCP Discover 要求に応答できるため、図16のリスナのデータ構造は、サーバからの応答それぞれを、メインハンドルに連結リスト経由で結びつけられた、個別のデータブロックに記憶する。

#### [0186]

所定のクライアントハードウェアアドレスおよびクライアント識別子を有するDiscover 要求の受信に際し、本好ましい実施形態では、該要求がモバイル端末システム104から送られてきたものとして認識される。該メッセージが0に設定されたBOOTPリレーアドレスをさらに有している場合、該メッセージはリスナと同じサブネットからのものであることが示唆されている。リスナは、最近モバイル端末システム104から送られたDiscover メッセージのトランザクションID (xid) と対応したトランザクションID (xid) が含まれていない限り、DHCP Offer 応答を無視してもよい。該リスナは、新規のBOOTPリレーエージェントIDおよび/または提供されたサブネットマスクでマスクされた、提供されたネットワークアドレスを持つ、既知のサーバから応答があれば、モバイル端末システム104がローミングしたと判定する。リスナは、旧サーバから肯定応答を受け取って初めて、新サーバを図16のデータ構造に加える。リスナが新サーバからの応答は受け取ったが旧サーバからは受け取っていない場合、ローミング状態が示唆される (これについては設定によって変更可能である)。リスナが新旧両サーバのどちらからも応答を受け取っていない場合、リスナは圏外であると判定する (この判定は、アプリケーションなど上層に警告を出して、停止や、バッファ・オーバーフロー回避のためのデータ送信量の減少に利用できる)。

#### [0187]

リスナがどのサーバからも応答を受信しない場合、参照点が無いため、ローミングが行われているかどうか判定できない。この状況は、タイムアウト後にエラー警告して、呼び出し側に処理を再試行させることによって解消される。本好ましい実施形態では、新規のBOOTPリレーエージェントID (または提供されたサブネットマスクでマスクされた、提供されたネットワークアドレス) を持つ、既知のサーバから応答があれば、モバイル端末システム104がローミングしたと判定する。リスナのデータ構造に、新サーバからの応答はあったが旧サーバからのものは無い場合、ローミングが行われた可能性はあるが、旧サーバからの応答がその後あるかもしれないので、待機して通知を遅らせる。新旧ど

これらのサーバからも応答が無い場合、モバイル端末システム104は圏外にある可能性があるので、モビリティ管理サーバ102は該システムが圏内に戻るのを待つ。

【0188】

図17は、本好ましい実施形態のリсна処理のステップを例示したフローチャートである。同図によると、DHCPリсна処理は、適切なメモリをハンドルに割り当て、NALソケットをDHCPクライアントおよびサーバUDPポートに解放し、その両者に対して受信コールバックを設定することによってなされる。次にタイマーが設定され(ブロック802)、上記処理は「待機」状態に入ってローミング関連のイベントを待つ(ブロック804)。イベントは、以下の3種の外部入力によって引き起こされる。

【0189】

- ・DHCPサーバパケットを受信する
- ・他のモバイル端末システムからのDHCPクライアントパケットを受信する
- ・タイマーの期限が切れる

DHCPサーバパケットを受信した場合、該パケットは、そのクライアント識別子が所定のクライアントIDと一致するか否かを判定するために調べられる(判定ブロック806)。一致しなければ、該パケットは破棄される。しかし、該パケットが所定のクライアントIDを含んでいる場合、該パケットがDHCP Offerパケットであるか否かが判定される(判定ブロック808)。該Offerパケットは、最近送られたDHCP Discoverシーケンスに対応したトランザクションIDを含んでいない限り、拒絶される。

【0190】

パケットトランザクションIDが対応していれば(ブロック810)、DHCP Offerパケットを送信したサーバが既知であるか否か(つまり、サーバIDが図16のリснаのデータ構造に含まれているか否か)が判定される(ブロック812)。サーバIDがリストに無い場合(判定ブロック812で「ノー」の場合)、サーバIDがリストに加えられ、「新規」とマークされる(あるいは、リストの最初のサーバであれば、「最初」とマークされる)(ブロック822)。サーバが既にリストにある場合(判定ブロック812で「イエス」の場合)、さらに、パケットBOOTPリレーアドレス(「GIADDR」)がサーバアドレス(「GIADDR」)に対応しているか否かが判定される(判定ブロック814)。対応していなければ、Offerパケットは他のサブネットからのものということになるので、「ハードローミング(hard roam)」が実行されたと判定される(ブロック816)。呼び出し側のアプリケーションには、ローミングが行われたことが通知される。判定ブロック814でBOOTPリレーアドレスが対応していると判定されると、ローミングは行われていないということになり、サーバ受信時間を記録し、リストの他のサーバ全てについて「新規」フラグをリセットし、現在のping番号をサーバに記憶するというリсна処理が行われる(ブロック818、820)。続いて、処理は「待機」期間に戻る。

【0191】

イベントがクライアントパケットを受信されると、リсна処理では、該パケットが所定のクライアントIDを有しているか、DHCP Discoverパケットか、および0のパケットBOOTPリレーアドレス(GIADDR)を有しているかどうか判定される(ブロック824、826、828)。これらのステップにより、上記受信パケットが、リснаと同じサブネット上にある、他のモバイル端末システムから送信されたDHCP Discoverメッセージであるか否かが判定される。そうであれば、リсна処理により、上記トランザクションIDが、後に受信されるDHCP Offerパケットの比較に用いられる、ピアのトランザクションIDに設定され(ブロック830)、「ping確認」が呼び出され(ブロック834)、タイマーがリセットされる(ブロック836)。

【0192】

タイマーの期限切れにより、処理は「ping確認」を呼び出す(ブロック838)。本

10

20

30

40

50

好ましい実施形態における「ping」は、ランダムな新規のxidを有するDHCP Discoverパケットである。このping確認838のステップが、図17Aに例示されている。ping確認ルーチンの目的は、「ソフトローミング(soft roaming)」状態(つまり、モバイル端末システムが、一時的にサブネットとのコンタクトを失ったもののその後回復したが、まだ他のサブネットにローミングはしていない状態)が発生しているか否かの判定である。処理によって、サブネット・ローミング状態、圏外状態、あるいは「サーバ無し」状態が発生しているか否かが判定される。これらを言い換えると以下ようになる。

[0193]

- ・モバイル端末システムが、あるサブネットから別のものにローミングしたか？
- ・モバイル端末システムは圏外にあるか？
- ・DHCPサーバは不在か？

10

これらの状態は、モバイル端末システムの、前「ping」応答と現「ping」応答とを比較することによって判定される(判定ブロック846、850)。例えば、現ping数から旧サーバの前ping応答を引いた数が、サブネットのサーバのpingよりも大きく、少なくとも一つのサーバが「新規」とマークされている場合、別のサーバへのサブネット・ローミングがあったことになる。この論理により、ローミング処理に対し、サブネット・ローミング状態、圏外状態、あるいはサーバ無し状態が示唆される(あるいはいずれも示唆されない)。

[0194]

20

図18は、モバイル端末システム104のローミング制御センター(roaming control center)が実行するステップを例示したフローチャートである。モバイル端末システム104でのローミングを可能にするため、既知のアドレスのリストが0に初期化され(ブロック850)、OSインターフェイス変更通知がイーサネットになり(ブロック852)、次に、OSを呼び出して、DHCPを利用する現在のアドレスのリストを所得する(ブロック854)。現在のリストから無くなった全ての既知のアドレスに対応するリスナが閉じられ(ブロック856)、一方、現在のリストにある未知のインターフェイスにあるリスナが開放される(ブロック858)。次に、登録主体に「ローミング」を示唆する(ブロック860)。

[0195]

30

図17のリスナ処理から信号が送られると(ブロック862)、該信号が、「ローミング」、「圏外」、「圏内復帰」のいずれの状態を示しているかが判定される(判定ブロック864、870、874)。ローミング信号(判定ブロック864で「イエス」)により、対応するリスナ866が閉じられ、OSがコールされて、ネットワークアドレスのDHCPリスナが解放、更新される(ブロック868)。リスナ信号が「圏外」の場合(判定ブロック870)、該状態が登録主体に示唆される(ブロック872)。該信号が「圏内復帰」の場合(判定ブロック874)、該状態は全ての登録主体に示唆される(ブロック876)。無効のローミング命令を受信すると(ブロック878)、全てのリスナが閉じられ(ブロック880)、OSインターフェイス変更通知が無効になる(ブロック882)。

40

[0196]

(インターフェイスによって補助されたローミングのリスナの例)  
さらに、インターフェイススペースのリスナによって、同じネットワークおよび別のネットワーク媒体のネットワーク接続ポイントを横断したローミングが可能になる。該インターフェイススペースのリスナが上述のビーコン技術を要することなく動作する一方、下層の(複数の)インターフェイスが適切な信号をサポートしていない場合には、システムをビーコン状態にフォールバックさせることもできる。

[0197]

本実施形態において、インターフェイススペースのリスナは、ネットワーク・インターフェイス・アダプタからの(例えば低レベルのインターフェイス・ローミング・ドライバを経

50

由した) 情報を、ネットワークスタックからの情報と統合して、モバイルノードが新規のネットワーク接続ポイントに移動したか否かを判定する。図19Aと19Bは、モバイルノードの移動パス (migration path) を効率的に決定するのに利用される、リсна・アルゴリズムを例示する。該処理では、単一のネットワーク媒体に接続された単一のネットワーク・インターフェイスが使用されているが、単独で、もしくは他のローミング・アルゴリズムと協働して、(例えば、冗長パスを使った自己回復インフラ構築のために) 様々なネットワーク媒体やインターフェイスを横断するようにもできる。

[0198]

図19Aを参照すると、システム初期化時や、ネットワークアダプタドライバがロードする際に(図19A、ブロック2000)、低レベルのインターフェイス・ローミング・ドライバは、図18のローミング制御センターモジュールに登録を実行する(ブロック2010)。このような登録(例示の実施形態では、crRegisterCardHandler() 機能を通じて実現される)により、下記のエントリポイントが与えられる。

[0199]

- ・開
- ・開
- ・状態(status)取得
- ・ドライバが登録主体に状態の変化を通知可能であれば、プール演算を真とし、ローミング制御センターモジュールが、状態確認にタイマーベース(等)のポーリングを使わなければならない場合は、プール演算を偽とする

実施例のcrRegisterCardHandler() 機能により、インターフェイス記述ストリング、あるいはローミング制御センターモジュールを正しいローミングドライバと予備的に組み合わせるために使用できるトークンが与えられる。また、デフォルトのローミングドライバが、示唆/問合せ(signaling/querying) 媒体接続性およびネットワーク接続ポイントの変更に関するOS包括メカニズム(OS generic mechanism)を使用するインターフェイスに、インストールされてもよい。

[0200]

本実施例では、インターフェイスの状態がイネーブルになると(つまりネットワークへのアクセスが可能になると)(ブロック2020)、ローミング制御センターは、インターフェイス補助ローミング(interface assisted roaming; IAR)を、以下のステップに基づいて試みる(ただし、以下のステップは、OSの設計および/または特定のアプリケーションに使われるホスティング装置によって、入れ替えられたり省略されたりすることがある)。

[0201]

1. 包括ハンドラ(generic handler)がインストールされている場合、包括crOpenInstance() ハンドラへのコールがなされる。包括ハンドラは低レベルアダプタドライバに問合せをして、該ドライバが、媒体接続性の状態およびネットワーク接続ポイントの変更に関する信号を包括的にサポートしているか否かを判定する(ブロック2030)。インターフェイスドライバが該機能を包括的にサポートできない場合(判定ブロック2030で「ノー」の場合)、エラー状態が、コール実行側に返され、信号情報の取得に他のメカニズムを使用することが示唆される。

[0202]

2. 包括ハンドラがエラー(判定ブロック2030で「ノー」)を返した場合、アクティブなインターフェイスに関する検査が、現在登録されているローミングドライバにおいて実行される(ブロック2040)。該インターフェイスが、crRegisterCardHandler() フェイズ中に登録されたトークンのうちのひとつと一致する場合(ブロック2050)、ローミング制御センターは、アダプタのインスタンスへの特定のcrOpenInstance() をコールする。この機能は、低レベルドライバを開き、状態(媒体接続性、ネットワーク接続ポイントID)を再度ポーリングし、定期ポーリング

10

20

30

40

50

タイマーを（可能ならば）設定することを試みるものである。低レベルドライバが、なんらかの理由で該要求をサポートしていない場合、ローミング制御センターにエラーが返されて、信号情報の取得に他のメカニズムを使用することが示唆される。

### 【0203】

3. ここまでのステップのいずれかが、要求された機能を達成できない場合、エラーがローミング制御センターに返されて、IAR機能を使用せずに、図17および17Aのビーコンリスナ（beaconing listener）、モバイルIP、あるいは場合により、ローミングを扱っている、現在接続されているネットワークなど、他のローミング・アルゴリズムにフォールバックすることが示唆される（判定ブロック2050で「ノー」の場合、ブロック2060）。これ以外の場合、インターフェイス補助ローミングがイーネールになり（ブロック2060）、ローミング制御センターは下記のアルゴリズムに従う。

### 【0204】

まず、インターフェイスによって補助されたリスナは、現在の媒体接続性の状態と、ネットワーク接続ポイントの識別情報とを、ローカルデータストアに記録する（ブロック2060）。インターフェイスによって補助されたサブシステムがローミングフィードバックの供給に成功したと仮定して、該サブシステムは状態イベントを待つ（ブロック2100）。該イベントは、例えば以下のものを有している。

### 【0205】

- ・低レベルローミングドライバからのコールバック、

- ・ポーリング間隔（timed poll interval）（ブロック2070、2090）、あるいは

- ・ネットワーク・レベルの活動（つまり、伝送／受信にかかわる問題）からの示唆

インターフェイスの状態が、媒体接続性に変化が生じたか、あるいはネットワーク接続ポイントが変更されたかを示す（図19Bの判定ブロック2110もしくは2120で「イエス」の場合）、ローミング制御センターの全てのクライアントに、以下のルールに基づいて、状態の変化が知らされる。

### 【0206】

1. 状態が、下層のネットワーク媒体への接続から切断へと変化したことを示し（ブロック2120で「イエス」）、ピアへのパスが他に無い場合、リスナは、モバイル端末システムが接続を失ったと結論付け、ローミング制御センターはそのクライアントに、ROAM\_SIGNAL\_OUT\_OF\_CONTACT状態を示唆する（ブロック2140）。

### 【0207】

2. 上記状態が、インターフェイスが媒体に再接続され、ネットワーク接続ポイントが変わっていないことを示し（ブロック2120で「ノー」の後、ブロック2150で「ノー」の場合）、ROAM\_SIGNAL\_OUT\_OF\_CONTACTが既に示唆されている場合、モバイル端末システムが、特定のネットワーク接続ポイントとのコンタクトを失ったがその後取り戻したことが示唆される。この場合、ローミング制御センターは、適切なアクセスのために登録または取得された全てのネットワークアドレスを再確認し（ブロック2170）、ROAM\_SIGNAL\_ROAM\_SAME\_SUBNETを出して（ブロック2180）、ローミング制御センターのクライアントに、再接続が行われたので、トランスポート・レベルでの通信の再確立に必要な措置を全て実行するように警告する。例えば、サービス中断中にいくつかのデータが失われることがあれば、クライアントは該データを回復するために措置を講じるといったことである。

### 【0208】

3. 上記状態が、インターフェイスが媒体に取り付けられているが、ネットワーク接続ポイントが変更されたことを示している場合（ブロック2150で「イエス」の場合）、ローミング制御センターはクライアントに、ローミング状態になったことを示唆する。ネットワーク接続ポイント間のハンドオフをさらに効率的にサポートするために、本例のロー

10

20

30

40

50



ミング制御センターは、ローカルデータストアと並行して学習アルゴリズムを使用している。該データストアは、通常動的にボビュレートされている（学習している）が、パフォーマンス向上のため、該データストアに静的な情報（既に学習された情報）が準備されている。データストア自体は、ネットワーク接続ポイント識別子のリストを、ネットワークや媒体へのアクセスのアドレスやネットワークマスクなどの情報とともに維持している。この「ネットワーク・トポロジ・マップ」は、ローミング制御センターがクライアントに対して正しい信号の生成を決定できるように補助するものである。

【0209】

正しい信号の決定は、本実施例では以下のようにしてなされる。

【0210】

a) データストアのネットワーク・トポロジ・マップを検索して、インターフェイスが特定のネットワーク接続ポイントを訪れたか否かが判定される（ブロック2190）。対応が見つければ（ブロック2200で「イエス」）、該ネットワーク接続ポイントが、以前にインターフェイスが結合していたのと同じネットワーク・セグメントにあるか否かがさらにチェックされる。ネットワーク・セグメントが同じであれば、ローミング制御センターは、`ROAM_SIGNAL_ROAM_SAME_SUBNET`を生成する。これにより、ローミング制御センターのクライアントに、ハンドオフが実行され、ハンドオフ中にデータのいくつかが失われた可能性があるため、直ちにトランスポート・レベルでの通信の再確立をするための可能な限りの措置を講じなければならないことが示唆される。

【0211】

b) 検索中に対応は見つかったが、新しいネットワーク接続ポイントは前と同じネットワーク・セグメントにない場合、リスナは、モバイル端末システムが別のサブネットワークにローミングしたと結論付ける。この場合、ローミング制御センターは、新規のネットワーク・セグメントで使用可能なアドレスを取得する（ブロック2220）。この動作は、現在のアドレスを新規のセグメントで有効なように登録すること、ローカルサーバからアドレスを（再）取得すること、あるいは以前に割り当てられたアドレスがまだ有効かどうか判定するヒューリスティックな手法を用いてもよい。最後のケースでは、ローミング制御センターにより、インターフェイスが所与のネットワーク接続ポイント間をローミングして、パフォーマンス維持の観点から、直ちにネットワークアドレスを破棄したり、その登録を抹消したりできないような状態にあるかどうか判断される。この例では、（例えばDHCPを通じて）ネットワークでアドレスを取得することは、（モバイルIPの外部エージェントを通じて）ローカルネットワークでアドレスを登録することとは相違している。ローミングエンティティは、アドレスを（再）取得（例えばDHCPサーバからのリースを確立／アップデートして）するか、あるいは現アドレスを外部エージェント（モバイルIP）に登録する。

【0212】

・別のサブネットへのローミングを示唆する、`ROAM_SIGNAL_`ローミング信号を、該ローミング制御センターのクライアント向けに生成する（ブロック2230）。

【0213】

c) 検索の結果対応が見つからなければ（ブロック2200で「ノー」）、ネットワーク接続ポイントの識別子、媒体アクセスアドレス、ネットワークマスクや他の補助的な情報によってボビュレートされた、新規の記録を生成する（ブロック2210）。次に、ローミング制御センターはブロック2220および2230を、ネットワークアドレスを取得、登録し、「ローミング」信号を生成するために実行する。

【0214】

上記のインターフェイスによって補助されたローミング技術により、下層のインターフェイス情報へのアクセスができるようになり、自動的かつ効率的に別の有効なネットワークパスを選択することを可能にする。（ユーザおよび／またはシステムによって定義された）付加的なポリシーパラメータが採用できるようになる。一つ以上のネットワークが同時に使用可能な場合、サブシステムは、最も負担がかからないパス（ワイドエリア・ネット

10

20

30

40

50

ワークかローカル・エリア・ネットワークかという選択)を選ぶことができる。これは、帯域幅、(1バイトあたりの)コスト、および/またはサービス品質といった様々なメトリクスによって決定可能である。この「最低負担ルーティング」技術により、ネットワーク接続の品質、効率、フレーム損失の減少などの点で効果を得ることができる。例えば、他の利用可能なヒューリスティクス(媒体接続性、信号強度、再伝送率等)による、「メークビフォアブレーク (make before break)」ハンドオフ構造が提供可能で、よってローミングノードからの/に向かう継続的なパケットフローの損失を最小化できる。下記のポリシー管理についての記述を参照のこと。

[0215]

図20は、インターフェイス補助ローミングトポロジのノードのデータ構造を例示している。図20のこのデータ構造は連結リストとして実施されているが、前後のフィールドを省略した配列として表現されることもある。無線ネットワーク・インフラにおいて、「NPOA」は、例えば、アクセスポイントのMACアドレスあるいはモバイルノードが結合している基地局でもよい。他のネットワークにおいては、「NPOA」は、介入的なネットワーク相互接続(ゲートウェイ、IWF等)の固有の識別子であってもよい。データ構造には静的な情報が予め与えられていてもよいし、動的に情報が学習されてもよい。また、ノードそれぞれと、他の情報(例えばMTUのサイズ、待ち時間、コスト、利用可能かどうかなど)とが結合していてもよい。

[0216]

(特定の競合状態を扱う他の実施例)

さらに行われた実験から、ネットワーク・アダプタの中には、ネットワーク・セグメントに完全登録される前に、媒体と(再)接続されていると誤って信号を出すものがあることが明らかとなった。例えば、ローミングの間、ネットワーク識別子を保持する記憶領域はまだ更新されず、従って、システムがこれらのネットワーク・アダプタが同じサブネットにロームバックしたと誤解することが考えられる。最終的には、デバイスが登録を終了すると、記憶領域は新しいネットワーク識別子と共に更新され、さらに別のローミング信号が生成される。両方の情報が一緒にゲートされ、インターフェイスがネットワークでの登録を終了した時に1度だけ信号が送られると、このシナリオ通りに進む。しかし、ポーリングの際、「ネットワークと接続中」を示す信号が以前に生成された場合に、ネットワークIDがいつ有効になるかを判定するのは困難である。

[0217]

基本的に、ローミング中のノードはネットワークと媒体アクセスレベルで通信できるため、事実上媒体と接続状態にあるが、登録プロセスが完了していないので、事実上、リンクを通じていずれのアプリケーションデータを送ることはまだできない。従って、この状態を補償するのが望ましい。このような補償を行う方法の一つとして、一般にはエコー要求/応答パケットとして知られているリンク確認フレームを送ることによってピア接続を判定する方法がある。これらのエコーやpingフレームは1つのピア(ローミング中のノードである可能性が高い)によって生成され、双方向のピア・トゥ・ピア接続が達成可能か判定する。要求を出しているピアがその要求に対する応答フレームを受け取る場合、二重通信が実現し終了する。この時点で、次に切断状態になるまでNPOA情報が有効であると見なされる。また、該当インターフェイス上のピアからのフレーム受領等、他の情報によって、ローミング中のノードが登録プロセスが終了し、双方向通信が達成可能であることが想定可能となる。

[0218]

ネットワーク・インターフェイスと内在するプロトコルスタック状況間における別の競合状態は、問題を生じることがある。デバイスは、新しいネットワーク・セグメントに移動し、以下のインターフェイスから正確に信号が送られるようにすることは可能であるが、トラフィック・ポート・スタック自体はフローするアプリケーションデータのルーティング・テーブルに必要な調整を行わないことがある。この状態を補償するために、内在するトラフィック・ポートのルーティング・テーブルに変更が生じる度に、付加的信号であるROOM\_\_S

10

20

30

40

50

SIGNAL\_ROUTE\_CHANGE が追加されて生成される。この信号が示されど、ローミング中のサブシステムクライアントはピア・システムとの接続が達成可能かどうか判定するために必要なアクションは何でも行う。これによりローミング中のクライアントは、ルーティング修正がピアへの通信経路に影響を及ぼしたかどうか判定するために、内在于トランスポートのルーティング・テーブルを介して列挙する必要がある。また、上記記載のアルゴリズム等のように、よりインテリゲンシーな他のアルゴリズムが、ピア間に双方向通信経路が存在することを確認するために行われてもよい。

【0219】

(非接続ネットワークを通じたローミング例)

本発明の非限定的な好ましい実施形態の他の一側面として、いわゆる「非接続ネットワーク」(disjoint networking) モードでMMS (モビリティ管理サーバ) にアクセスするためのアルゴリズム及び構成がある。新しいアルゴリズムによって、あるネットワークからは別のネットワークにおけるネットワークアドレスが分からないような非接続ネットワーク・トポロジにおいても、MMSとの通信を確立する／持続するのに使われる、代替のネットワークアドレスを動的／静的に見つけ出すことができるようになる。

【0220】

一般に、アルゴリズムによって、通信中にMES (モバイル端末システム) に送るための、MMS が利用可能な代替アドレスのリストが可能となる。このように、MMS はMES に、一つ以上のMMS ネットワークアドレスもしくは他のネットワークに対応した他のMMS のアイデンティティを、単一のネットワークによる通信によって送る。一例として、該リストは、回路構築の際に送付可能である。また、該リストは途中で変更可能である。この場合、該リストは接続が確立されている間のいかなる時にも更新が可能である。

【0221】

MES が別のネットワークへと移動するとき、MES は新規のネットワークの接続ポイントからMMS とコンタクトをとるために、MMS の「エイリアス」(alias) アドレス／アイデンティティのリストを用いる。これにより、移動前のネットワークと移動後のネットワークとがアドレス、又はその他の情報を共有していなくても、MES は新規のネットワーク接続を通じてMMS とのコンタクトを再確立することができる。

【0222】

この新しい技術を簡略化したフローチャートを図21に示す。MMS 102 は、2つの異なる非接続ネットワーク、すなわちネットワーク・セグメントN1及びN2と接続しているものとする。MES 104 は、最初にMMS 102 とネットワークN1を介して接続されるものとする。ネットワークN1を介してMES 104 とMMS 102 との間で接続が確立されるとすぐに、MMS 102 は、MES 104 に対して、MMS が一以上の他のネットワーク (例えば、ネットワークN2) から求められるネットワークアドレスのリストL又は他の識別子を送ることができる。MES 104 は、該リストLを受け取り、記憶する。その後、MES 104 は別のネットワーク (N2) に移動する時、MES 104 はこの記憶されたリストLにアクセスし、それを用いて新規のネットワーク (N2) を通じたMMS 102 との通信を効果的に再確立することが可能となる。

【0223】

この新しいアルゴリズムには、非接続ネットワークを通じて、MMS 102 と通信するための代替ネットワークアドレス又は他の識別子をより効率的に取得することに加え、少なくともいくつかの用途がある。その用途の一例としてネットワークオペレーションがある。例えば、図21に示すアルゴリズムを用いて、多くのネットワーク (いくつか、又は全てが無線ネットワーク) からの安全なファイアウォール／ゲートウェイ、及びコーポレートバックボーンとしてMMS 102 が使用される安全なネットワークをセットアップでき、モバイルノード104が安全に、接続を切断されることなく別々のネットワーク全てに移動することが可能となる。例えば、MMS 102 がハブとして1つの太いパイプでコーポレートネットワーク、及び論理的に分離した多くのネットワークを接続する多数の小さな

10

20

30

40

50

なスポークと接続しているとする。ネットワークは論理的に分離しているため、MMS 102 (この例ではルータとして動作可能) を介した場合を除いて、1つのネットワーク・セグメント上のトラフィックが別のネットワーク・セグメントに達することができない。

#### [0224]

普通、ネットワーク・セグメントからネットワーク・セグメントへ移動するノードにとって、MMS 102との接続に使用される「メインパブリックアドレス又は初期アドレス」への戻り方を示す、各ネットワーク・セグメントに設けられた情報/経路(つまり、デフォルトルート等)をルーティングが必要となる。

接続が確立されるとすぐに、そのアドレスが接続の存続のために用いられる。MES 104からフレームが送られる時、クライアント及び及び中間ノード(ルータ)におけるIPネットワーク(層3)のインフラストラクチャは、フレームの目的地アドレスを見て、最終目的地(MMS 102)にパケットを正確に送る。このことは、一般にIP送信(IP forwarding)、あるいはIPルーティングと呼ばれるもので行われる。この機能がオンになると、あるネットワーク・セグメントのフレーム(ブロードキャスト等)が別のネットワーク・セグメントへ流れる。IP送信をしないと、あるセグメントに送られたフレームは他のセグメントへ送られることはないで、通信パイプが切断され、あるいは非接続ネットワークができてしまう。

#### [0225]

図21に示す代替アドレスリストは、ルーティング情報のうちの幾つかをMES 104に送出する、又は配布する効果を有する。従って、各セグメントは、MMS 102とつながっている他のセグメントの情報は無い状態で離散された状態となる。MES 104はMMS 102によって認証可能であるため、MMSは認証されたMESユニット104にのみリストを送る。MES 104が別のネットワーク・セグメントへ移動する時、MES 104は自動的に正しいアドレスを選択し、それを用いて途中MMSとの通信を開始/継続することができる。従って、非接続ネットワークの問題は解決され、ルーティング・インフラストラクチャの変更は必要なくなる。これにより、有効なユーザに対してのみネットワークへのアクセスを有効にすることによって、より安全なコンピュータ環境を提供することが可能となる。

#### [0226]

例えば、このようにユーザレベルのセキュリティ/暗号化と組み合わせるMMS 102を用いることで、コーポレートバックボーンからのトラフィック、及びコーポレートバックボーンへのトラフィックを、上記のローミング技術を用いてそのセグメント上のノードを目的地としたフレームのみに限定することが可能である。フレームは選択的に暗号化でき、スポーク・ネットワーク・インフラストラクチャが有効にしたデバイスによって行われる可能性のある盗聴を阻止することができる。

#### [0227]

例を図22に示す。図22において、MMS 102は通信網やルート情報を共有しない4つの別々に分かれたネットワーク(1a、1b、1c、1d)と接続されている。どの点から見ても各ネットワーク1は島となっている。コーポレートバックボーン上の有線通信を用いてネットワークの一つ(例えば、1c)とドッキングしているMES 104を想定する。例えば、MES 104は192.168.x.xネットワーク上のアドレスを取得してMMS 102と通信するものとする。

#### [0228]

ある理由によりMESが10.1.x.x(1a)ネットワークに渡り、又は移動する必要があるものとする。10.1.x.x(1a)ネットワークは192.168.x.x(1b)ネットワークのことを知らない(つまり、(1b)ネットワークへのルートがない)ため、MES 104がその領域へ移動する時に、たとえMMSが通信パイプに接続されていても通信パイプは切断される。また、モバイルノード104が図示される他の10.xネットワークのいずれかと接続する場合においても同じことが起こる。

#### [0229]

10

20

30

40

50

図 21 に示すアルゴリズムを用いて、接続開始時間の（あるいは他の方法で）MMS 102 は各種非接続ネットワーク 1a、1b、1c、1d に関するそのインターフェイスアドレスを MES 104 と共有し、MES はこれらを記録する。一旦記録されると、MES 104 は上記ネットワークのいずれか一つに移動して新しいネットワーク・セグメントに移動したことを検出する場合、MES は適切なネットワークアドレスを選択し、そのネットワーク・セグメントで MMS と通信できる。2 以上のアドレスが使用される場合、MES 104 は適切なアドレスを選択してスピード、コスト、有効性、ホップ等、多くのメトリクスに基づき使用する。図 21 と同様のリストを受け取らなかった MES 104 は、その「ホーム」ネットワーク以外のネットワークを通じて MMS と接続することができないので、種々のネットワーク間の移動を事実上阻まれることになる。

10

#### 【0230】

他に、図 21 の技術は分散型ネットワーク・インターフェイスに用いられる。今日のネットワークにおいて、ネットワーク・アドレス・トランスレータ (Network Address Translators; NATs) として知られるものが開発されている。この従来の技術を利用すれば、一つの公開ネットワークアドレスを用いるだけで多くのネットワークデバイスはインターネット上の情報へのアクセスが可能となる。この技術は、単一もしくはわずかなデバイスを介してインターネットに向けられた情報やクエリを全て送ることによって上記の機能を可能とする。該デバイスはネットワーク層で要求を記録し、その後パケットのアドレスとポート情報をデバイスのアドレス/ポートのタプルに再度対応付けし、それをその目的地に送信する。インターネット、あるいは他の当該ネットワークからフレームを受け取ると同時に、デバイスはリパルスクし、そのアドレス/ポートのタプル情報を開始デバイスのものと取り替えて、フレームを送り返す。これらの対応付けは NAT においても静的に定義される。

20

#### 【0231】

誰かが LAN/WLAN の内部で MMS 102 を使用するために、それを NAT に置くことを想定する。現在、MMS 102 が NAT でない限り、あるいは異なるプロキシを用いて MMS と通信を全て行うことによって、誰かがイントラネットの境界範囲外に移動する時、MMS と通信するアドレスがもはやアクセス可能ではないため、MMS とはアクセス可能ではない。図 21 のアルゴリズムを用いれば、MMS と直接接続されていない別のインターフェイスアドレスを静的/動的に明確にすることができる。従って、上記のアルゴリズムを使用すれば、MES 104 は自動的に適切な非接続アドレスを選択し、イントラネットの領域外のネットワークと接続する時にそのアドレスを使用することができる。

30

#### 【0232】

この概要を図 23 に示す。ノードがインターフェイス "d" からインターフェイス "g" へ渡るとする。MMS 102 はローカルインターフェイスを供給するだけではアクセスはできない。MES 104 は分散されたインターフェイスの優先順位を知る必要がある。それから MES 104 は必要なアドレスを選択してインターフェイス "g" 上で使用する。その後、NAT 2000 は、各パケットに関するネットワークアドレス/ポート情報を、内部インターフェイス "c" アドレスへ適切に変換する。MMS 102 から MES 104 に送られるフレームには逆の処理が行われる。

40

#### 【0233】

(ポリシー管理及びロケーションベースのサービス例)

本発明の他の非限定的な実施形態として、多くのメトリクスに基づき付加的なセキュリティ、コスト削減、サービスを提供することが独自にできる手法を提供する。上記の MMS は MES が確立する各アプリケーションのセッションと深く関わっているため、どちらの側（すなわち、MMS および/または MES）もポリシーベースのルールを適用して MMS とその最終的なピアとの間の通信を適合して制御することができる。さらに、MES および/または MES はデバイスのロケール、又は近接性 (proximity)、並びにネットワークの接続に基づきアプリケーション要求を調整又は修正することができる。例えば、MMS および/または MES は学習され静的に定義されて適用されたルールエンジ

50

ン、あるいは確立する各アプリケーションセッション、又は試みる要求に対するポリシーに基づく他のルールを含むことができる。MMSはさらにMESにこのようなルールの幾つか、全くなし、あるいは一部、および/または処理を配分して、メータリング (metering)、又は傍受者によるモバイルデバイスへの侵入 (rogue attacks) に対するセキュリティを提供する。分散型トポロジで利用可能な特定の他のポリシー管理技術とは違い、MMSが中心となり、ルールやポリシー決定を管理し、それらを通信中いかなる時にも遠隔地のデバイスに分散させる。

#### 【0234】

ルール自体は、ユーザ、ユーザ・グループ、デバイス、デバイスグループ、プロセスアプリケーションアイデンティティ、および/またはネットワークの接続ポイントに基づき構成可能である。一旦定義されると (学習されると)、ルールは組み合わされて、例えば、以下のものを含む種々の異なる事象、活動、および/またはサービスを管理し、制御する

#### 【0235】

- ・遠隔地のデバイスへの侵入アクセスの拒否、許可、又は調整
- ・アイデンティティに基づく特定のネットワーク・リソースへのアクセスの拒否、許可、又は調整
- ・利用可能、又は許可された帯域幅へのアクセスの拒否、許可、又は調整
- ・他のネットワーク・リソースへのアクセスの拒否、許可、又は調整
- ・内容又は情報の修正、調整、又は変更

このような決定は例えば、以下の要素を含む種々の異なる要素に基づいて行われる。

#### 【0236】

- ・モバイルデバイスについての近接性、場所、高度、および/または他の特性
- ・日時
- ・アプリケーション又はプロセスアイデンティティ、アドレス等
- ・アプリケーション動作 (例えば、帯域幅条件)
- ・現在のネットワーク状態
- ・他の静的又は動的要素

さらに分散型アーキテクチャを利用することで、MMSは同じ決定セットを適用又は共有することができる。ポリシー管理処理および/または意思決定をMMSに行わせるのは、例えばモバイル装置がエンジンを実行するのに限られた処理能力を持ったり、帯域幅の限度が適用されたり、あるいはセキュリティが目的の場合に望ましい。

#### 【0237】

サンプルMESの制御に使用される可能性のあるメトリクス (ルール) の幾つかを示すテーブルの例を図24に示す。このテーブルは静的又は動的のどちらかに内容を占めてもよいし、場合によっては通信前、通信中、又は通信後に更新されてもよい。例えば、ユーザはテーブルの項目を定義するルール・エディタ (例えば、ウィザード) や他のメカニズムを使用することができる。他の構成例において、メトリクスが学習に基づくシステムによって自動的に定義され、あるいは状態の変更に基づき動的に変更される。また、ルールにはそれぞれ優先順位が割り当てられ、テーブルの場所でも暗示、または割り当てによって明確に指定される。この優先順位によってエンジンが期待動作を正確に決定することができる。付加的なユーザインターフェイスの機能によって、システム管理者やデバイスのユーザはルールエンジンに問い合わせて所定のルールセットの機能を試みる事が可能となる。

#### 【0238】

ポリシー管理決定の基になる、以下のメトリクスをはじめとする多数のメトリクス例を示すテーブル例を図24に示す。

#### 【0239】

- ・MESの通信機能 (送信のみ、受信のみ、送受信)
- ・MESの要求がプロキシされるか否か

10

20

30

40

50

- ・ M E S のソースポート
- ・ M E S のソースアドレス
- ・ M E S の目的地ポート
- ・ M E S の目的地アドレス
- ・ M E S のプロトコル
- ・ 利用可能な帯域幅量
- ・ プロセス名、アイデンティティ又は他の特性
- ・ ネットワーク名、アイデンティティ又は他の特性
- ・ ロケーション（例えば、GPS座標又は他のロケーション情報）
- ・ ネットワークの接続ポイント
- ・ ユーザの識別子、アイデンティティ又は他の特性
- ・ 他のメトリクス

10

上記テーブル例は完全なリストではなく、本発明は上記テーブル例のメトリクス項目の範囲に限定されるものではない。ネットワークアクセス及び権利付与に関してモバイルノードの所望の動作を示すために、該項目はこの例のように具体的であり、あるいは包括的なメカニズム（例えば、ワイルドカード）であることが可能である。

【0240】

図24のテーブル例には、メトリクスに基づくポリシー管理決定の結果を示す「否定要求」項目がさらに含まれる。一例として、図24のテーブルに示す特定の項目例は、利用可能な帯域幅が一秒間で100、000バイト以下に低減される場合、目的地ポート20、21との接続は否定され、減速されることを示す。さらに、示した特定の例において、ルール（列）3、4によってネットワークトラフィックのみがMMSへ、又はMMSから流れることが可能となる（プロキシが行われない他の全てのネットワークトラフィックは暗に破棄される。）。

20

【0241】

一例において、各RPC要求又はフレームが処理される前に、ルールエンジンはオペレーションの状況決定するよう求められる。このプロセスの結果に基づき、その要求が許可、否定、あるいは遅延される。ポリシー管理決定をするためにMMSおよび/またはME Sによって行われる処理のフローチャート例を図25に示す。

【0242】

先に概略を説明したローミング技術と、利用可能な他のロケーション又はナビゲーション情報とを組み合わせることにによって、MMSはモバイル端末システムがいつ1箇所の接続ポイントから別の接続ポイントへ移動したか検出する。ネットワーク・トポロジの環境の変化を検出するために、モバイル端末システムの機能と関連してこの情報を組み合わせることによって、ロケールによって本発明はロケーションベースの傍受及びサービスの付加的なレベルを提供することができる。

30

【0243】

この情報の可能性を十分実現させるために、インターネット・モビリティ・プロトコルとPRCエンジンの両方の改良点について概要を説明する。新しいRPCのプロトコル及び構成の改良点が追加され、この機能が可能となる。これらを以下に挙げる。

40

【0244】

（ロケーション変更RPC（Location Change RPC）の例）  
モバイル端末システムが、インターフェイス支援型ローミング又はグローバル・ポジショニング・システムから変更を検出するといった他の方法を用いて新しい接続ポイントへ移動したことを判断した時、モバイル端末システムは、フォーマットされた「ロケーション変更RPC要求（Location Change RPC Request）」メッセージをそのピア、この場合モビリティ管理サーバに送る。「ロケーション変更RPC」は、一以上の接続ポイント識別情報をタイプ、長さ、値の形式にフォーマットする。タイプは識別情報の種類を示し、対応するタイプはASCIIの48ビットIEEE MACアドレス、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、経度、緯度、高度、接続機橋名を

50

含むが、これらに限定されない。長さは識別データのバイト長を示し、該データは実際の接続ポイント識別子を含む。「ロケーション変更RPC要求」を受け取ると、モビリティ管理サーバは、接続ポイント識別子、並びにモビリティ端末システムの識別子、ユーザ名、PID等の他の関連情報を含む「ロケーション変更警告(Location Change Alert)」を作成する。この警告は「ロケーション変更RPC要求」内で使用された同じタイプ、長さ、データフォーマットでフォーマットされる。その後警告サブシステムが、警告のために登録された全てのアプリケーションにロケーション変更警告と共にこの情報を送る。警告のために登録されたアプリケーションは、現在の活動状況のモニタ、長期の動作ログ、ポリシー管理エンジン、第三者アプリケーション等の監視アプリケーション、並びにネットワーク管理ツールを含んでもよい。単一のそのような第三者アプリケーションは、このロケーション情報と、ウェブベースのマップとを組み合わせてモバイル端末システム又はMMSの場所についての詳細情報を提供する。そのようなアプリケーションに加えて、他の動作をロケーション変更警告と関連付けることができる。これには、電子メールの送信、メッセージの印刷、プログラムの起動、および/またはポリシー変更が含まれる。

[0245]

ロケーション変更RPCはそのヘッダにロケーション変更、距離変更、又は速度変更によってトリガされたかどうかを示すフィールドを含む。

[0246]

ある例では、MESは自身が移動したことを知らない場合がある。MESが接続する媒体やネットワーク・アダプタに応じて、MMSはMESが新しい接続ポイントに渡ったことを知らせる唯一のエンティティであってもよい。モバイルルータの場合を考えてみる。ルータ以降のアドレスは同じままで、ルータのアドレスだけが変化する。この場合、MMSはMESのアドレスを新しく管理することを認識する。したがって、動作の検出を完了するためには、行動検出するためのMESとMMSの両方の組み合わせの動作の検出が必要となる。本実施の形態では、ソースアドレスが変更され、新しいIMPメッセージが受け取られる時に、MMSはIMP層でクライアントの行動を検出する。このことが行われると、MMSは局所的にロケーション変更警告を生成する。また、MMSは接続ポイントが変更したというメッセージをMESに送る。

[0247]

(トポロジRPCの例)

「トポロジRPC要求(Topology RPC Request)」はモビリティ管理サーバからモバイル端末システムへ送られる。このRPCの受け取りと同時に、モバイル端末システムはそのローカルデータ記憶装置に記憶されるトポロジ情報を読み出して、トポロジRPC応答(Topology RPC Response)を作成する。トポロジRPC応答は、前後との接続のタイプ、長さ情報が後に続く全長フィールド(Total Length Field)、タイプ、長さ情報が後に続く接続ポイント識別子、および、サブネットおよびネットワーク情報を示す値のデータによってフォーマットされる。この情報は、サーバで提供されるモバイルネットワークの完全なトポロジカル・マップを作成するのにサーバ上で使用されてもよい。

[0248]

(ロケーション情報UIの例)

サーバ上のユーザインターフェイスは、ロケーション情報を対応付けして表示するための方法を提供する。このロケーション情報は、各アクティブなモバイル端末システムが利用期、長期の動作ログは全てのアクティブなモバイル端末システム及び以前アクティブだったモバイル端末システムのロケーション変更履歴を保持する。ユーザインターフェイスによって、システム管理者は接続ポイント情報を人間が読める形式に構成できる。例えば、接続ポイント情報が48ビットのIEEE MACアドレスの形式で与えられると、サーバ上のユーザインターフェイスを介して提供される情報と共にこのMACアドレスが表示される。接続ポイントが「ホールマークカード(Hallmark Cards)」店

10

20

30

40

50



のアクセスポイントを示すと、次の情報「ホールマーク、住所、市、州、郵便番号」を提示するように設定される。この情報がユーザに対して表示されることによって、「ホールマーク、住所、市、州、郵便番号」情報が提供されることになる。

#### 【0249】

(ロケーションR P Cタイマーの例)

設定可能なタイマーがモバイル端末システムに設けられており、ロケーション変更R P Cがモバイル端末システムからモビリティ管理サーバに送信される速度を制限する。タイマー間隔が接続ポイントの変更が起こる速度よりも大きい場合、モバイル端末システムはタイマー間隔が終了するまで待ってから別のロケーション変更R P Cを生成する。

#### 【0250】

(距離変更通知の例)

距離メトリクスは、ロケーション変更R P Cの生成をトリガするために設けられる。この設定によって、ユーザが前にいた元のポイントから、nフィート、nキロメートル毎、あるいは他の適当な測定単位で3次元的に移動する時に、更新を送信するようにシステムが構成される。デフォルトによってこの設定は無効になる。この設定を可能にすることによって、設定された距離間隔を上回った時に変更通知が出される。

#### 【0251】

(速度閾値通知の例)

速度変更メトリクスは、ロケーション変更R P Cの生成をトリガするために設けられる。このパラメータは、一時間当たりのマイル等、一秒当たりの距離で構成される。このパラメータは、上限及び下限、並びに到達した速度を維持する必要がある時間間隔(すなわち、10分間で0 M P H、又は1分間で70 M P H)を特定する。このスピードに達すると、ロケーション変更通知が生成される。

#### 【0252】

[応用例]

本発明は、実社会の様々な場面で応用される。例を以下に示す。

#### 【0253】

(断続的に接続される携帯用コンピュータ)

多くの企業では、在宅勤務や、自宅で仕事をする社員がいることがある。そういった社員は、多くの場合、ラップトップコンピュータを使用して仕事をする。作業中に、社員は一般に自分達のラップトップコンピュータをドッキングポート又は他のコネクタを使用してイーサネット(Ethernet)等のローカルエリア・ネットワーク(Local area network)に接続する。LAN接続によってネットワークサービス(例えば、プリンタ、ネットワークドライブ)やネットワーク・アプリケーション(例えば、データベースアクセス、電子データサービス)にアクセスが可能となる。

#### 【0254】

あるプロジェクトに取り組む社員が、晩に帰宅する必要がある、自宅で仕事を続行したいとする。この社員は、ラップトップコンピュータで実行しているオペレーティングシステムとアプリケーションを「サスペンド」して、ラップトップコンピュータを片付け、そのラップトップコンピュータを自宅に持って帰ることができる。

#### 【0255】

自宅に戻るとすぐに、その社員はラップトップコンピュータで実行しているオペレーティングシステムとアプリケーションを「レジューム」して、ダイアルアップ接続を介して、および/またはインターネットを通じてオフィスLANと再接続する。(ラップトップコンピュータが一時的に中断された間、ネットワークに対するラップトップコンピュータとそのアプリケーションのプロキシを継続した)モビリティ管理サーバは、ラップトップコンピュータを再認証し、ラップトップコンピュータとの通信を再開する。

#### 【0256】

自宅で仕事をしている社員の立場から見ると、ネットワーク・ドライブ・マッピング、印刷サービス、電子メールセッション、データベースクエリ、他のネットワークサービスや

10

20

30

40

50

アプリケーションは全て会社で終わった状態そのままである。さらに、モビリティ管理サーバはラップトップコンピュータのセッションのプロキシを継続したため、社員の会社から自宅までの帰宅途中に、いずれのネットワーク・アプリケーションもラップトップコンピュータのセッションを終了しなかった。このように、本発明は、上記のような状況や他の状況において、高性能且つ有用な同一又は複数のネットワーク媒体を通じて効果的にセッションを持続可能とする。

【0257】

(モバイル在庫管理及び倉庫への応用)

大きな倉庫又は小売店チェーンを想定する。この構内において、在庫管理を行う従業員がパーソナルラップトップコンピュータ、並びにハンドヘルドデータ収集ユニットや端末装置などを搭載した乗物(すなわち、トラックやフォークリフト)を使って商品の在庫管理が行われる。

【0258】

倉庫や小売店の従業員は、ネットワークサブネットのわからない、管理監督の必要な不便なコンピュータユーザであることが多い。本発明によって倉庫ユーザがモバイルネットワークの複雑さを感じない、即使用可能なシステムの構築が可能となる。倉庫ユーザは、アクセスポイントの範囲内及び範囲外を動いたり、自分たちのモバイル端末システム104の中断及び再開をしたり、ホストセッション、ネットワークアドレス、又はトランスポート接続を気にせずに、位置を変えたりできる。さらに、モビリティ管理サーバ102の管理ソフトウェアは、従業員の生産能力を測るのに利用される処理数等のメトリクスを管理関係者に提供する。また、管理によりネットワークサブネット及びアクセスポイントを使用して従業員が最後にいたとされる物理的な位置を判定できる。

【0259】

(モバイル医療への応用)

無線LAN技術を利用して幾つかの建物間でネットワーク通信を行う大きな病院を想定する。各建物は独自のサブネット上にある。本発明によって看護士や医師がハンドヘルドパーソナルコンピュータや端末を持って病室から病室を動き、病院のデータベースから患者情報の読み出しや書き込みが可能となる。ローカルデータベースやワールド・ワイド・ウェブ(World Wide Web)を通じて、薬物治療や医療処置に関する最新記事へのアクセスが即座に可能となる。本発明はモバイル端末システム104への連続的な接続が可能なので、病院にいる間(一方又は双方向の)ポケットベルはもはや必要なくなる。メッセージはモバイル端末システム104を介して医療関係者に直接送られる。倉庫の従業員の場合と同様、医療関係者は自分たちが利用しているモバイルネットワークについてわかる必要はない。さらに、モバイル端末システム104によって医療関係者は無線送信が望ましくないとされるエリア内(例えば、電波の放射によって医療機器に障害が出る可能性のある場所)での無線伝送ができなくなるが、中断したところから容易に再開して再接続可能となる。

【0260】

(トラック輸送及び貨物輸送)

運送会社は、貨物の状況を把握するのに本発明を用いる。倉庫に入っている間は、モバイル端末システム104はLAN技術を使用して倉庫内の貨物数を更新する。ローカルサービスから離れている間は、モバイル端末システム104はCDPDやARDIS等のWide Area WANサービスを使用してリアルタイムで貨物の状況や位置を維持できる。モバイル端末システム104はネットワーク・インフラストラクチャ間を自動的に切り替えるので、輸送関係者にネットワーク・トポロジーの複雑さを感じさせない。

モバイル企業

企業の社員は、802.11、等のインフラストラクチャが設けられた企業構内にいる間、本発明によるシステムを使用して、電子メール、ウェブコンテンツ、メッセージサービスへのアクセスを行う。ポケットベルサービスや他のモバイル機器のサービスはもはや必要ないので、これらを維持するためのコストが削減される。既存のモバイル機器サービス

の多くが提供する、コストのかかる「利用回数制 (pay-per-use)」モデルに対し、モバイルインフラストラクチャは一度の資金支出で購入できる。

#### 【0261】

(IPマルチブライケーション)

ある組織がインターネットに接続する必要のあるLANを有する場合、LANの管理者には二つの選択肢がある。一つ目の選択は、LAN上の全てのコンピュータに対して割り当てるためのグローバルアドレスを取得することであり、二つ目の選択は、グローバルアドレスをいくつか取得して、アドレス・マルチブライヤとして本発明に従ったモビリティ管理サーバ102を使用することである。多数のIPアドレスを取得することは、高額であるか不可能であるかである場合が多い。インターネット・サービス・プロバイダ (Internet Service Provider; ISP) を利用してインターネットにアクセスする小規模の企業は、ISPが割り当てるIPアドレスだけを使用することになる。IPアドレスの数は同時にインターネットに接続できるコンピュータの数を制限する。また、ISPは一回の接続につき課金するため、インターネット接続に必要なコンピュータが増えれば増えるほど、この方法はそれだけ費用がかかる。

#### 【0262】

アドレス・マルチブライヤとして本発明に従ったモビリティ管理サーバ102を用いれば、これらの問題の多くを解決することができる。企業は、ISPを介してインターネットに接続するためのハードウェアとしてモビリティ管理サーバ102を用いることができる。これにより、モバイル端末システム104は容易に接続することができる。インターネットへの接続は全てモビリティ管理サーバ102を通じて行われるため、一つのアドレスだけをISPから取得すればよい。このように、アドレス・マルチブライヤとして本発明を用いることによって、企業はわずかな数 (多くの場合一つ) のアドレスとアカウントをISPから取得すればよく、全体のLANでインターネットへの同時接続 (十分な帯域幅が備えられていることを前提として) が可能になる。

#### 【0263】

以上現在最も実用的且つ好適な実施形態とされる例と共に本発明を説明したが、本発明は開示した実施形態に限定されず、添付クレームの範囲内で種々に変形、同等に構成できるものとする。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図1】

本発明のモバイル・コンピューティング・ネットワークの全体図である。

##### 【図2】

モバイル端末システムとモビリティ管理サーバとのソフトウェア・アーキテクチャを例示するものである。

##### 【図2A】

モバイル端末システムとモビリティ管理サーバとの間で情報伝達を実行するステップを例示している。

##### 【図3】

モバイル・インターセプタ・アーキテクチャを例示している。

##### 【図3A】

モバイル・インターセプタによって実行されるステップを例示したフローチャートである。

##### 【図3B】

RPC作業要求を扱うRPCエンジン (RPC engine) によって実行されるステップを例示したフローチャートである。

##### 【図4】

RPC作業要求を処理するステップを例示したフローチャートである。

##### 【図5】

RPC作業要求を処理するステップを例示したフローチャートである。

10

20

30

40

50

【図 5 A】

R P C 作業要求を処理するステップを例示したフローチャートである。

【図 5 B】

R P C 作業要求を処理するステップを例示したフローチャートである。

【図 5 C】

R P C 作業要求を処理するステップを例示したフローチャートである。

【図 6】

受信された作業要求を例示している。

【図 7】

受信された作業要求が、どのようにそれぞれ別の優先度のキューにディスパッチされるか 10  
を示すものである。

【図 8】

上記それぞれ別の優先度のキューにおけるコンテンツの処理を示している。

【図 9】

上記それぞれ別の優先度のキューにおけるコンテンツの処理を示している。

【図 10 A】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 10 B】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し 20  
ている。

【図 10 C】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 11】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 12】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し 30  
ている。

【図 12 A】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 12 B】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 12 C】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 13 A】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し 40  
ている。

【図 13 B】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 13 C】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し  
ている。

【図 14 A】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示し 50

ている。

【図14B】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示している。

【図15A】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示している。

【図15B】

インターネット・モビリティ・プロトコルを提供するために実行されるステップを例示している。

10

【図16】

リスナのデータ構造を例示している。

【図17】

モバイル相互接続ローミング (mobile interconnect roaming) を提供するためのステップを例示している。

【図17A】

モバイル相互接続ローミング (mobile interconnect roaming) を提供するためのステップを例示している。

【図18】

モバイル相互接続ローミング (mobile interconnect roaming) を提供するためのステップを例示している。

20

【図19A】

インターフェイスによって補助されたローミング処理を例示する一つのフローチャートを形成している。

【図19B】

インターフェイスによって補助されたローミング処理を例示する一つのフローチャートを形成している。

【図20】

インターフェイスによって補助されているローミングのトポロジ・ノード・データ構造を例示する。

30

【図21】

モビリティ管理システムのネットワークアドレスを、非接続ネットワーク・トポロジにおいてモバイル端末システムに配布する技術を例示している。

【図22】

図21の技術を、セキュアな通信を実現するために利用した例を示している。

【図23】

図21の技術を、分散型ネットワーク・インターフェイス・シナリオにおけるネットワークアドレスの変換に用いた例を示している。

【図24】

ポリシー管理テーブルを例示している。

40

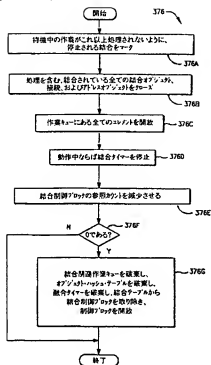
【図25】

ポリシー管理処理のステップを例示したフローチャートである。

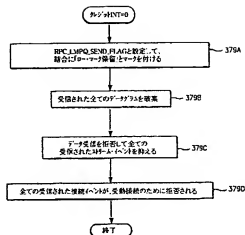




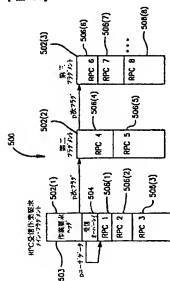
【図5B】



【図5C】

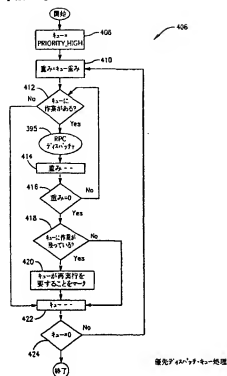


【図6】

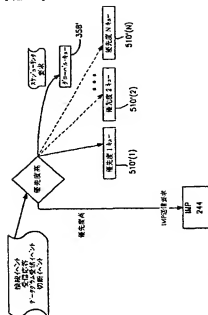




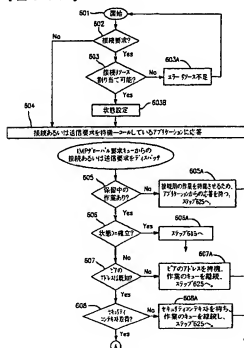
【図 8】



【図 9】



【図 10 A】



【図 10 B】

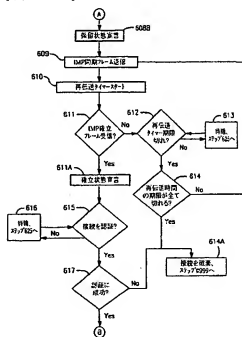
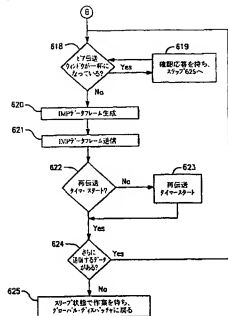
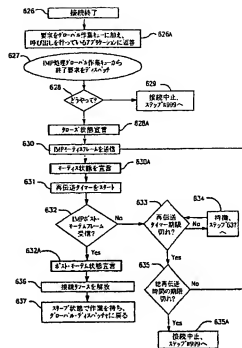


図 10 A の優先度管理の優先度比較の結果、作業済みの要素があるか? 優先度比較の結果、作業済みの要素があるか?

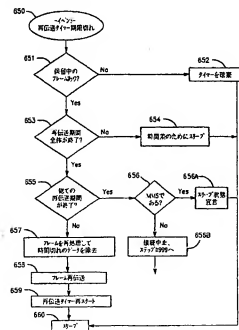
【図10C】



【図11】



【図12】



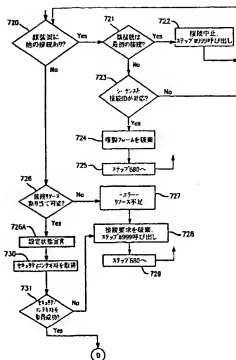
再送スラップ・プログラム

【図12A】

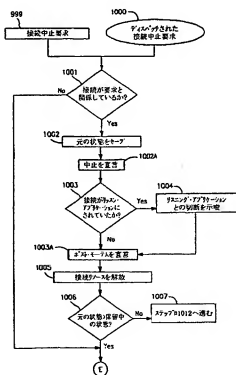




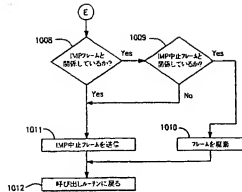
【图 14 A】



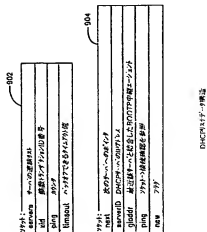
( 15 A )



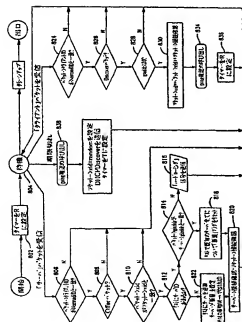
[ 圖 1 5 B ]



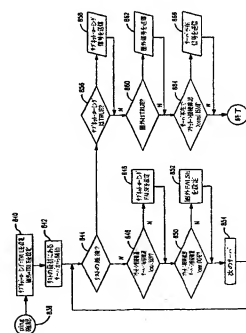
【图 16】



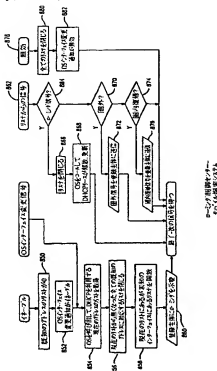
【图 17】



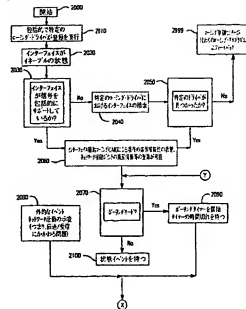
{ 1 7 A }



【 例 1 8 】

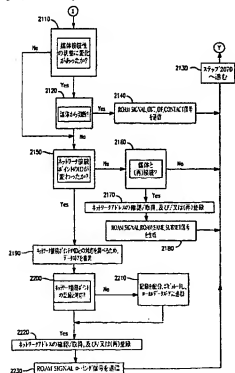


【图 19 A】

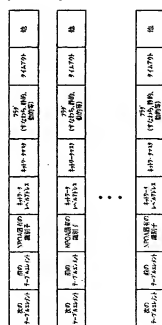


インターフェイス補助ローリング(IAR)決定樹

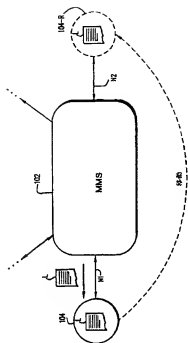
【 圖 1 9 B 】



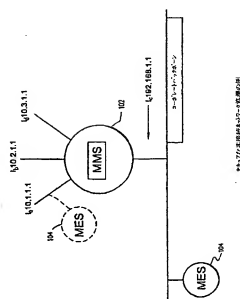
【圖 20】


$$14.07 = 7.04$$

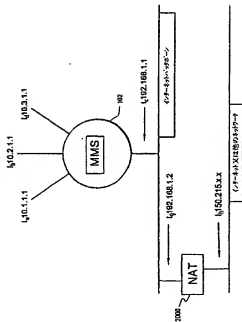
【圖 2 1】



【圖 2 2】



【圖 23】



【圖 24】

[illegible]

本城圖

1.  $\frac{1}{x^2} = x^{-2}$
2.  $x^{-2} \cdot (-2) = -2x^{-3}$
3.  $-2x^{-3} = -\frac{2}{x^3}$

4. VM89の76-△が受け取るMESの番号7-98-415008

上記例で、利用可能な帯域幅が一秒間で100,000bpsを以下に

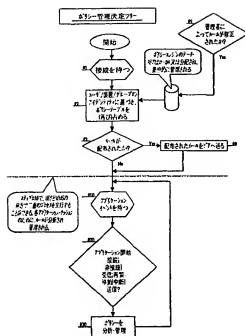
され、減退される。この例では、 $N=6$  (第3), 4) によって、 $\alpha$  が

[illegible][illegible]

1997年12月1日開始、1998年12月31日終了の期間に、

• • • • •

【圖 25】







WO 02/23362 A1

**FIGURE**

with measurement of a unit square  
before the expression of the time limit for ascending the  
claims used to be equalized in the error of average of  
error/average

For two linear orders and after observation, right in the "Clad  
and "Error on "Calculation of observations" appearing in the begin-  
ning of each regular issue of the PCT Gazette

**METHOD AND APPARATUS FOR PROVIDING MOBILE AND  
OTHER INTERMITTENT CONNECTIVITY IN A COMPUTING  
ENVIRONMENT**

**FIELD OF THE INVENTION**

5       The present invention relates to connectivity between networked  
computing devices. More particularly, the present invention relates to  
methods and systems that transparently address the characteristics of  
nomadic systems, and enable existing network applications to run reliably in  
the associated mobile environments. Still more particularly, the invention  
10       relates to techniques and systems for providing a continuous data stream  
connection between intermittently-connected devices such as handheld data  
units and personal computing devices.

**BACKGROUND AND SUMMARY OF THE INVENTION**

15       Increasingly, companies are seeing rapid access to key information as  
the way to maintaining a competitive advantage. To provide immediate  
access to this information, mobile and other intermittently-connected  
computing devices are quietly and swiftly becoming an essential part of  
corporate networks -- especially with the proliferation of inexpensive  
laptops and hand-held computing devices. However, integrating these  
20       nomadic devices into existing network infrastructures has created a  
challenge for the information manager.

      Many problems in mobile networking parallel the difficulties in early  
local area networks (LANs) before the adoption of Ethernet. There are a  
variety of mobile protocols and interfaces, and because standards are just  
25       developing, there is little interoperability between systems. In addition,  
performance over these network technologies has typically been slow and

WU 80/33862

2

PCT/JP00/028091

bandwidth limited. Implementation costs to date have been high due the specialized nature of deployed systems.

Along with these issues, mobile technologies present a category of problems unto their own. Interconnects back into the main network may travel over and through a public network infrastructure, thus allowing sensitive information to possibly be tapped into. Furthermore, if any of the intermediary interconnects are via a wireless interface, the information is actually broadcast, and anyone with a similar interface can eavesdrop without much difficulty.

But, perhaps even more significantly, mobile networking has generally in the past been limited to mostly message-oriented or stateless applications -- and thus has not been readily adaptable for existing or new corporate applications that use client/server, host-terminal, web-based or shared file systems models. This is because such commonly used applications need stateful entities that employ a continuous stream of data -- not just a stateless packet exchange -- to work effectively and reliably.

To this end, many or most popular off-the-shelf networking applications require TCP/IP sessions, or private virtual circuits. These sessions cannot continue to function if they encounter network interruptions, nor can they tolerate roaming between networks (i.e., a change of network addresses) while established. Yet, mobile networking is, by its nature, dynamic and unreliable. Consider these common scenarios encountered in mobile networks:

#### Disconnected or Out of Range User

When a mobile device disconnects from a given network or loses contact (e.g., through an outage or "hole" in the coverage of a wireless interconnect), the session-oriented application running on the mobile device

WU 10/22/02

PCT/US02/08001

3

loses its stateful connection with its peer and ceases to operate. When the device is reinitialized or moves back into contact, the user must re-connect, log in again for security purposes, find the place in the application where work was left off, and possibly re-enter lost data. This reconnection process is time consuming, costly, and can be very frustrating.

Moving to a Different Network or Across a Router Boundary (Network Address Change)

Mobile networks are generally segmented for manageability purposes. But the intent of mobile devices is to allow them to roam. Roving from one network interconnect to another can mean a change of network address. If this happens while the system is operational, the routing information must be changed for communications to continue between the associated peers. Furthermore, acquiring a new network address may require all of the previously established stateful application sessions to be terminated -- again presenting the reconnection problems noted above.

Security

As mentioned before, companies need to protect critical corporate data. Off-the-shelf enterprise applications are often written with the assumption that access to the physical network is controlled (i.e., carried within cables installed inside a secure facility), and security is maintained through an additional layer of authentication and possible encryption. These assumptions have not been true in the nomadic computing world -- where data is at risk for interception as it travels over public airways or public wire-line infrastructure.

It would be highly desirable to provide an integrated solution that transparently addresses the characteristics of nomadic systems, and enables existing network applications to run reliably in these mobile environments.

The present invention solves this problem by providing a seamless solution that extends the enterprise network, letting network managers provide mobile users with easy access to the same applications as stationary users without sacrificing reliability or centralized management. This solution combines advantages of present-day wire-line network standards with emerging mobile standards to create a solution that works with existing network applications.

In accordance with one aspect of a non-limiting exemplary and illustrative embodiment of the present invention, a Mobility Management Server (MMS) coupled to the mobile interconnect maintains the state of each of any number of Mobile End Systems (MES) and handles the complex session management required to maintain persistent connections to the network and to peer application processes. If a Mobile End System becomes unreachable, suspends, or changes network address (e.g., due to roaming from one network interconnect to another), the Mobility Management Server maintains the connection to the associated peer -- allowing the Mobile End System to maintain a continuous virtual connection even though it may temporarily lose its actual physical connection.

The illustrative non-limiting example embodiments provided by the present invention also provide the following (among others) new and advantageous techniques and arrangements:

- a Mobility Management Server providing user configurable session priorities for mobile clients;

WU 02/23/03

5

PC 12/03/03/0001

- per-user mobile policy management for managing consumption of network resources;
- a routing methodology making use of the industry standard Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) in coordination with a Mobility Management Server;
- automatic system removal of unreliable datagrams based on user configurable timeouts; and
- automatic system removal of unreliable datagrams based on user configurable retries.

10 In more detail, the preferred illustrative embodiments of the present invention in one of their aspects provide a Mobility Management Server that is coupled to the mobile interconnect (network). The Mobility Management Server maintains the state of each of any number of Mobile End Systems and handles the complex session management required to maintain

15 persistent connections to the network and to other processes (e.g., running on other network-based peer systems). If a Mobile End System becomes unreachable, suspends, or changes network address (e.g., due to roaming from one network interconnect to another), the Mobility Management Server maintains the connection to the associated peer, by acknowledging receipt of data and queuing requests. This proxying by the Mobility Management Server allows the application on the Mobile End System to maintain a continuous connection even though it may temporarily lose its physical connection to a specific network medium.

20 In accordance with another aspect of preferred embodiments of the present invention, a Mobility Management Server manages addresses for Mobile End Systems. Each Mobile End System is provided with a proxy address on the primary network. This highly available address is known as the "virtual address" of the Mobile End System. The Mobility Management

WU 02/23/02

PCT/US98/08091

6

Server maps the virtual addresses to current "point of presence" addresses of the nomadic systems. While the point of presence address of a Mobile End System may change when the mobile system changes from one network to another, the virtual address stays constant while any connections are active or longer if the address is statically assigned.

In accordance with yet another aspect of the preferred exemplary embodiment of the present invention, a Mobility Management Server provides centralized system management of Mobile End Systems through a console application and exhaustive matrices. The preferred embodiment also provides user configurable session priorities for mobile devices coming through a proxy server, and per-user mobile policy management for managing consumption of network resources.

In accordance with yet another aspect, a Remote Procedure Call protocol and an Internet Mobility Protocol are used to establish communications between the proxy server and each Mobile End System.

Remote procedure calls provide a method for allowing a process on a local system to invoke a procedure on a remote system. The use of the RPC protocol allows Mobile End Systems to disconnect, go out of range or suspend operation without losing active network sessions. Since session maintenance does not depend on a customized application, off-the-shelf applications will run without modification in the nomadic environment.

The Remote Procedure Call protocol generates transactions into messages that can be sent via the standard network transport protocol and infrastructure. These RPC messages contain the entire network transaction initiated by an application running on the Mobile End System -- enabling the Mobility Management Server and Mobile End System to keep connection state information synchronized at all times -- even during interruptions of the physical link connecting the two. In the preferred



embodiment of the present invention providing RPC's, the proxy server and the Mobile End Systems share sufficient knowledge of each transaction's state to maintain coherent logical database about all shared connections at all times.

- 5 The Internet Mobility Protocol provided in accordance with the preferred embodiment of the present invention compensates for differences between wired local area network interconnects and other less reliable networks such as a wireless LAN or WAN. Adjusted frame sizes and protocol timing provides significant performance improvements over non-mobile-aware transports -- dramatically reducing network traffic. This is  
10 important when bandwidth is limited or when battery life is a concern. The Internet Mobility Protocol provided in accordance with the preferred embodiment of the present invention also ensures the security of organizational data as it passes between the Mobile End System and the  
15 Mobility Management Server over public network interconnects or airways. The Internet Mobility Protocol provides a basic firewall function by allowing only authenticated devices access to the organizational network. The Internet Mobility Protocol can also certify and encrypt all communications between the Mobility Management Server and the Mobile  
20 End System.

- In accordance with yet another aspect of preferred non-limiting embodiments of the present invention, mobile inter-connectivity is built on standard transport protocols (e.g., TCP/IP, UDP/IP and DHCP, etc) to extend the reach of standard network application interfaces. The preferred  
25 exemplary embodiments of the present invention efficiently integrate transport, security, address management, device management and user management needs to make nomadic computing environment effectively transparent. The Internet Mobility Protocol provides an efficient

W3 432346.1

PCT/US2001/00491

8

mechanism for multiplexing multiple streams of data (reliable and unreliable) through a single virtual channel provided by such standard transport protocols over standard network infrastructure.

With the help of the RPC layer, the Internet Mobility Protocol  
5 coalesces data from different sources targeted for the same or different destinations, together into a single stream and forwards it over a mobile link. At the other end of the mobile link, the data is demultiplexed back into multiple distinct streams, which are sent on to their ultimate destination(s).  
10 The multiplexing/demultiplexing technique allows for maximum use of available bandwidth (by generating the maximum sized network frames possible), and allows multiple channels to be established (thus allowing prioritization and possibly providing a guaranteed quality of service if the underlying network provides the service).

The Internet Mobility Protocol provided in accordance with the  
15 preferred example embodiments of the present invention provide the additional non-limiting exemplary features and advantages:

- Transport protocol independence.
- Allows the network point of presence (POP) or network  
20 infrastructure to change without affecting the flow of data (except where physical boundary, policy or limitations of bandwidth may apply).
- Minimal additional overhead.
- Automatic fragment sizing to accommodate the transmission  
25 medium. (When the protocol data unit for a given frame is greater than the available maximum transmission unit of the network medium, the Internet Mobility Protocol will fragment and reassemble the frame to insure that it can traverse the network. In the event of a retransmit, the frame will again be

assessed. If the network infrastructure or environment changes, the frame will be refragmented or in the case that the maximum transmission unit actually grew, sent as a single frame.)

- Scenarios of unreliable data are preserved, by allowing frames to discard unreliable data during retransmit.
- Provides a new semantic of Reliable Datagram service. (Delivery of datagrams can now be guaranteed to the peer terminus of the Internet Mobility Protocol connection. Notification of delivery can be provided to a requesting entity.)
- Considers the send and receive transmission path separately, and automatically tailors its operating parameters to provided optimum throughput. (Based on hysteresis, it adjusts such parameters as frame size/fragmentation threshold, number of frames outstanding (window), retransmit time, and delayed acknowledgement time to reduce the amount of duplicate data sent through the network.)
- Network fault tolerant (since the expected usage is in a mobile environment, temporary loss of network medium unavailability does not result in a termination of the virtual channel or application based connection).
- Provides an in-band signaling method to its peer to adjust operating parameters (each end of the connection can alert its peer to any changes in network topology or environment).
- Employs congestion avoidance algorithms and gracefully decays throughput when necessary.
- Employs selective acknowledgement and fast retransmit policies to limit the number of gratuitous retransmissions, and provide faster handoff recovery in nomadic environments. (This also

allows the protocol to maintain optimum throughput in a lossy network environment.)

- Employs sliding window technology to allow multiple frames to be outstanding. (This parameter is adjustable in each direction and provides for streaming frames up to a specified limit without requiring an acknowledgement from its peer.)
- Sequence numbers are not byte oriented, thus allowing for a single sequence number to represent up to a maximum payload size.
- Security aware. (Allows for authentication layer and encryption layer to be added in at the Internet Mobility Protocol layer.)
- Compression to allow for better efficiency through bandwidth limited links.
- Balanced design, allowing either peer to migrate to a new point of presence.
- Either side may establish a connection to the peer.
- Allows for inactivity timeouts to be invoked to readily discard dormant connections and recover expended resources.
- Allows for a maximum lifetime of a given connection (e.g., to allow termination and/or refusal to accept connections after a given period or time of day).

Non-limiting preferred exemplary embodiments of the present invention also allow a system administrator to manage consumption of network resources. For example, the system administrator can place controls on Mobile End Systems, the Mobility Management Server, or both. Such controls can be for the purpose, for example, of managing allocation of network bandwidth or other resources, or they may be related to security

WU 5/11/01

PC 7/20/01/2001

11

issues. It may be most efficient to perform management tasks on the client side for clients with lots of resources. However, this clients don't have many resources to spare, so it may not be practical to burden them with additional code and processes for performing policy management.

- 5 Accordingly, it may be most practical to perform or share such policy management functions for thin clients in a centralized point such as the Mobility Management Server. Since the Mobility Management Server proxies the distinct data streams of the Mobile End Systems, it provides a central point from which to conduct policy management. Moreover, the
- 10 Mobility Management Server provides the opportunity to perform policy management of Mobile End Systems on a per user and/or per device basis. Since the Mobility Management Server is proxying on a per user basis, it has the ability to control and limit each user's access to network resources on a per-user basis as well as on a per-device basis.

- 15 As one simple example, the Mobility Management Server can "lock out" certain users from accessing certain network resources. This is especially important considering that interface network is via a mobile interconnect, and may thus "extend" outside of the boundaries of a locked organizational facility (consider, for example, an ex-employee who tries to
- 20 access the network from outside his former employer's building). However, the policy management provided by the Mobility Management Server can be much more sophisticated. For example, it is possible for the Mobility Management Server to control particular Web URL's particular users can visit, filter data returned by network services requests, and/or compress data
- 25 for network bandwidth conservation. This provides a way to enhance existing and new application-level services in a seamless and transparent manner.

Furthermore, because the Mobile End System may be connected to an "untrusted" network (i.e. outside the corporations locked boundaries) there is a chance of malicious attack while being remotely connected. By sharing policy rules and filters with the Mobile End System, one can protect the MES from rogue connections, provide ingress filtering for the remote node, and further secure the corporate infrastructure from one central location.

A further exemplary embodiment of the invention provides an interface-assisted roaming listener that allows Mobile End Systems to take advantage of interfaces supporting generic signaling, to enable interface-assisted roaming. In accordance with one feature provided in accordance with the exemplary embodiment, the Mobile End System interface-based listener determines in response to an event (e.g., a callback, a timer timeout or a network activity hint indicating data loss), whether the Mobile End System's media connectivity status has changed. For example, the listener signals to the interface when it detects that the Mobile End System has become detached and is no longer in communication with the network. Upon re-attachment, the listener uses previously recorded network point of attachment identification information to determine whether the Mobile End System has been reattached to the same or different network point of attachment. If the reattachment is to the same network point of attachment, the listener signals to alert the mobile client that they need to take steps to reestablish transport level communications. If the reattachment is to a different network point of attachment, the listener signals a "roam" condition and prompts the Mobile End System to acquire an address that is usable on the current network segment (this may entail, for example, registering the current address to be valid on a new subnet, for example). The listener may maintain a network topology map (which may be learned

through operation) to assist it in deciding the correct signal (e.g., "room same subset" or "room") to generate to its clients.

A still further aspect provided by non-limiting preferred exemplary embodiments of our invention allows access to a Mobility Management Server (MMS) in a "disjoint networking" mode. The new algorithm allows for dynamic/trust discovery of alternate network addresses that can be used to establish/continue communications with an MMS - even in a disjoint network topology in which one network infrastructure may have no knowledge of network addresses for another network infrastructure. In accordance with this arrangement, a list of alternate addresses that the MMS is available at is preconfigured, forwarded to or dynamically learned by an MMS (Mobile End System) during the course of a conversation/connection. In one embodiment, the MMS can use a connection over one network to send the MMS one or more MMS network addresses or other MMS identifiers corresponding to other networks. This list can be sent/updated during circuit creation or at any other time during the conversation.

10/When the MMS roams to a second network, it uses the list of MMS "aliases" addresses/identifications to contact the MMS over the new network connection on the second network. This allows the MMS to re-establish contact with the MMS over the new network connection even though the first and second networks may not share any addresses, routes, or other information.

Further example embodiments of the invention provide policy management decision making within a distributed mobile network topology. For example, rule-based policy management procedures can be performed to allow, deny and/or condition request fulfillment based on a variety of metrics. Such policy management can be used, for example, to provide

decision making based on cost metrics such as least cost routing in a multi-homed/path environment.

Such policy management techniques may take into account the issue of mobility or positioning (e.g., roaming) in making decisions. For example, policy management rules may be based on locale of the device (e.g., proximity to network point of attachment such as access point/ethernet station, hubs, routers, or GPS coordinate) so certain operations can be allowed in one building of an enterprise but not in another building. An example of such an application might be an enterprise with several different wireless networks. Such an enterprise might have a loading dock and office area served by a wireless network. The system administrator would be able to configure the system such that workers (e.g., users and devices) on the loading dock are not permitted access to the wireless network in the office environment. Also policy management results can be tri-state: allow, deny or delay (for example, if the decision is based on bandwidth requirements or cost, the decision may be to delay an operation from being executed and to wait for a more opportune time when the operation can be accommodated).

The policy management provided by the preferred example embodiment is capable of modifying an operation based on a decision. For example, one example action is to throttle consumption of network bandwidth for all active applications. Also consider an aggressive application that is consuming significant bandwidth. The policy engine can govern the rate at which the application's operations/transactions are completed. That behavior may also be learned dynamically to squash a possible erratic application. Another example action provides reclassification of data (i.e. dithering of graphics images based on available/showable bandwidth or cost/user restrictions).



WU 0023262

PCT/JP02/00001

15

Furthermore the rules engine allows for other actions to be invoked based on rule evaluation. External procedures such as logging an event, sending an alert or notifying the user that the action is being denied, delayed, re-conditioned may be executed. Such notification can also be interactive and ask for possible overrides to an existing rule from the operator.

The policy management engine provided in the example non-limiting embodiment can base its decision making on any number or combination metrics that are associated with the device, device group, user group, user, or network point of attachment.

As part of the policy management functionality, other local base information and services may also be acquired/provided for the purposes of policy management, network modeling, and/or asset tracking. Such services include the ability to automatically present to users and mobile end systems information that is applicable within the context of a mobile end system's present location. This information may be provided in the form of messages, files, or in some other electronic format.

One non-limiting example of such use of this capability would permit shopping malls, business communities, and large retailers, to locate wireless access points that may be compatible with Bluetooth PANs, IEEE 802.11 LANs, 802.15 PANs, or other wireless network standards in strategic locations within the shopping center. As customers roam from location to location, stores and vendors would be permitted to push down information relevant to the vendors that are present within the mobile end systems current location. This information would include information such as current sales, discounts, and services. In addition to such information, mobile end systems may be provided electronic coupons used for sales promotion. Vendors would be permitted to register for these services

through some centralized authority that may be associated with the mall, business community, retailer, or some other hosted service.

A further example non-limiting use of such a technology would be in vertical industries where information is collected based on location including but not limited to such industries as field service, field sales, package delivery, or public safety where lists of local services, maps, directions, customers, or hazards may be pushed down to mobile end systems based on location.

Yet another non-limiting example use may entail a web based service for monitoring and tracking mobile end systems. For example, customers may register for this tracking service so trusted third parties may log onto the hosted web service and find out exact locations of their mobile end systems. This may include mobile end systems installed on vehicles or carried by pedestrians. As mobile end systems continue to experience reductions in size and cost, such services become more likely. These services would permit people to track and locate individuals that are high risk such as elderly, handicapped, or ill. It may also be used to track items that are highly valued such as automobiles or other expensive mobile properties and packages. Using 3G WAN networks, Bluetooth networks, 802.11 networks, 802.15 networks, and other wireless technologies, combined with this unique ability to provide seamless connectivity while switching network mediums or point of attachments, such services become possible and likely at a much reduced cost.

The present invention thus extends the enterprise network, letting network managers provide mobile users with easy access to the same applications as stationary users without sacrificing reliability or centralized management. The solution combines advantages of existing wire-less

network standards with emerging mobility standards to create a solution that works with existing network applications.

#### BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS

- These, as well as other features and advantages of this invention, will be more completely understood and appreciated by careful study of the following more detailed description of presently preferred example embodiments of the invention taken in conjunction with the accompanying drawings, of which:
- Figure 1 is a diagram of an overall mobile computing network provided in accordance with the present invention;
- Figure 2 shows an example software architecture for a Mobile End System and a Mobility Management Server;
- Figure 2A shows example steps performed to transfer information between a Mobile End System and a Mobility Management Server;
- Figure 3 shows an example mobile interceptor architecture;
- Figure 3A is a flowchart of example steps performed by the mobile interceptor;
- Figure 3B is a flowchart of example steps performed by an RPC engine to handle RPC work requests;
- Figures 4-5C are flowcharts of example steps to process RPC work requests;
- Figure 6 is a diagram of an example received work request;
- Figure 7 is a diagram showing how a received work request can be dispatched onto different priority queues;
- Figures 8 and 9 show processing of the contents of the different priority queues;

WU 83/3181

PLT/NO/2001

15

Figures 10A-15B show example steps performed to provide an Internet Mobility Protocol;

Figure 16 shows example listener data structures;

Figures 17, 17A and 18 are flowcharts of example steps performed to provide for mobile interconnect roaming;

Figures 19A and 19B are together a flowchart of an example interface-assisted roaming process;

Figure 20 shows an example interface assisted roaming topology node data structure;

Figure 21 shows an example technique for distributing mobility management system network addresses to mobile end systems in a disjoint network topology;

Figure 22 shows an example use of the Figure 21 technique to provide secure communications;

Figure 23 shows an example use of the Figure 21 technique to provide network address translation in a distributed network interface scenario;

Figure 24 shows an example policy management table; and

Figure 25 is a flowchart of example policy management processing steps

#### **DETAILED DESCRIPTION OF NON-LIMITING PRESENTLY PREFERRED EXAMPLE EMBODIMENTS**

Figure 1 is an example of mobile enhanced networked computer system 100 provided in accordance with the present invention. Networked computer system 100 includes a Mobility Management Server 102 and one or more Mobile End Systems 104. Mobile End Systems 104 can communicate with Mobility Management Server 102 via a local area

network (LAN) 108. Mobility Management Server 102 serves as network level proxy for Mobile End Systems 104 by maintaining the state of each Mobile End System, and by handling the complex session management required to maintain persistent connections to any peer systems 110 that host network applications – despite the interconnect between Mobile End Systems 104 and Mobility Management Server 102 being intermittent and unreliable. In the preferred embodiment, Mobility Management Server 102 communicates with Mobile End Systems 104 using Remote Procedure Call and Internet Mobility Protocols in accordance with the present invention.

In this particular example, Mobile End Systems 104 are sometimes but not always actively connected to Mobility Management Server 102. For example:

- Some Mobile End Systems 104a-104k may communicate with Mobility Management Server 102 via a mobile interconnect (wirelessly in this case), e.g., conventional electromagnetic (e.g., radio frequency) transceivers 106 coupled to wireless (or wire-line) local area or wide area network 108. Such mobile interconnect may allow Mobile End Systems 104a-104k to “roam” from one cover area 107a to another coverage area 107k. Typically, there is a temporary loss of communications when a Mobile End System 104 roams from one coverage area 107 to another, moves out of range of the closest transceiver 106, or has its signal temporarily obstructed (e.g., when temporarily moved behind a building column or the like).
- Other Mobile End Systems 104l, 104m, ... may communicate with Mobility Management Server 102 via non-permanent wire-based interconnects 109 such as docking ports, network cable connectors, or the like. There may be a temporary loss of communications when Mobile End Systems 104 are temporarily

disconnected from LAN 108 by breaking connection 109, powering off the Mobile End Systems, etc.

- Still other Mobile End Systems (e.g., 104a) may be acoustically coupled to Mobility Management Server 102 via a further network topology 111 such as a wide area network, a dial-up network, a satellite network, or the Internet, to name a few examples. In one example, network 111 may provide intermittent service. In another example, Mobile End Systems 104 may move from one type of connection to another (e.g., from being connected to Mobility Management Server 102 via wire-based interconnect 109 to being connected via network 111, or vice versa) -- its connection being temporarily broken during the time it is being moved from one connection to another.

- Mobile End Systems 104 may be standard mobile devices and off the shelf computers. For example, Mobile End System 104 may comprise a laptop computer equipped with a conventional radio transceiver and/or network card available from a number of manufacturers. Mobile End Systems 104 may run standard network applications and a standard operating system, and communicate on the transport layer using a conventionally available suite of transport level protocols (e.g., TCP/IP suite.) In accordance with the present invention, Mobile End Systems 104 also execute client software that enables them to communicate with Mobility Management Server 102 using Remote Procedure Call and Internet Mobility Protocols that are transported using the same such standard transport level protocols.

Mobility Management Server 102 may comprise software hosted by a conventional Windows NT or other server. In the preferred embodiment, Mobility Management Server 102 is a standards-compliant, client-server

based intelligent server that transparently extends the enterprise network 108 to a nomadic environment, Mobility Management Server 102 serves as network level proxy for each of any number of Mobile End Systems 104 by maintaining the state of each Mobile End System, and by handling the  
3 complex session management required to maintain persistent connections to any peer system 110 that host network applications -- despite the mobile interconnect between Mobile End Systems 104 and transceivers 106 being intermittent and unreliable.

For example, server 102 allows any conventional (e.g., TCP/IP  
10 based) network application to operate without modification over mobile connection. Server 102 maintains the session of Mobile End Systems 104 that disconnect, go out of range or suspend operation, and resumes the sessions when the Mobile End System returns to service. When a Mobile End System 104 becomes unreachable, shuts down or changes its point of  
13 presence address, the Mobility Management Server 102 maintains the connection to the peer system 110 by acknowledging receipt of data and queuing requests until the Mobile End System once again becomes available and reachable.

Server 102 also extends the management capabilities of wired  
20 networks to mobile connections. Each network software layer operates independently of others, so the solution can be customized to the environment where it is deployed.

As one example, Mobility Management Server 102 may be attached  
25 to a conventional organizational network 108 such as a local area network or wide area network. Network 108 may be connected to a variety of fixed-end systems 110 (e.g., one or more host computers 110). Mobility Management Server 102 enables Mobile End Systems 104 to communicate with Fixed End System(s) 110 using continuous session type data streams

even though Mobile End Systems 104 sometimes lose contact with their associated network interconnect or move from one network interconnect 106, 109, 111 to another (e.g., in the case of wireless interconnect, by roaming from one wireless transceiver 106 coverage area 107 to another).

- 5       A Mobile End System 104 establishes an association with the Mobility Management Server 102, either at startup or when the Mobile End System requires network services. Once this association is established, the Mobile End System 104 can start one or more network application sessions, either serially or concurrently. The Mobile End System 104-to-Mobility
- 10   Management Server 102 association allows the Mobile End System to maintain application sessions when the Mobile End System, disconnects, goes out of range or suspends operation, and resume sessions when the Mobile End System returns to service. In the preferred embodiment, this process is entirely automatic and does not require any intervention on the
- 15   user's part.

- In accordance with an aspect of the present invention, Mobile End Systems 104 communicate with Mobility Management Server 102 using conventional transport protocols such as, for example, UDP/TCP. Use of conventional transport protocols allows Mobile End Systems 104 to
- 20   communicate with Mobility Management Server 102 using the conventional routers 112 and other infrastructure already existing on organization's network 108. In accordance with the present invention, a higher-level Remote Procedure Call protocol governs transactions into messages that are sent over the mobile enhanced network 108 via the standard transport
- 25   protocols). In this preferred embodiment, these mobile RPC messages contain the entire network transaction initiated by an application running on the Mobile End System 104, so it can be completed in its entirety by the Mobility Management Server. This enables the Mobility Management



Server 102 and Mobile End System 104 to keep connection state information synchronized at all times -- even during interruptions of network medium connectivity.

- Each of Mobile End Systems 104 executes a mobility management software client that supplies the Mobile End System with the intelligence to intercept all network activity and relay it via the mobile RPC protocol to Mobility Management Server 102. In the preferred embodiment, the mobility management client works transparently with operating system features present on Mobile End Systems 104 (e.g., Windows NT, Windows 98, Windows 95, Windows CE, etc.) to keep client-side application sessions active when contact is lost with the network.

- Mobility Management Server 102 maintains the state of each Mobile End System 104 and handles the complex session management required to maintain persistent connections to associated peer 108 such as host computer 110 attached to the other end of the connection end point. If a Mobile End System 104 becomes unreachable, suspends, or changes network address (e.g., due to roaming from one network interconnect to another), the Mobility Management Server 102 maintains the connection to the host system 110 or other connection end-point, by acknowledging receipt of data and queuing requests. This proxy function means that the peer application never detects that the physical connection to the Mobile End System 104 has been lost -- allowing the Mobile End System's application(s) to effectively maintain a continuous connection with its associated session end point (by simply and easily resuming operations once a physical connection again is established) despite the mobile system temporarily losing connection or roaming from one network interconnect 106A to another network interconnect 106K within coverage area 107K.

Mobility Management Server 102 also provides address management to solve the problem of Mobile End Systems 104 receiving different network addresses when they roam to different parts of the segmented network. Each Mobile End System 104 is provided with a virtual address on the primary network. Standard protocols or static assignment determine these virtual addresses. For each active Mobile End System 104, Mobility Management Server 102 maps the virtual address to the Mobile End System's current actual ("point of presence") address. While the point of presence address of a Mobile End System 104 may change when the device changes from one network segment to another, the virtual address stays constant while any connections are active or longer if the address is assigned statically.

Thus, the change of a point of presence address of a Mobile End System 104 remains entirely transparent to an associated session end point on host system 110 (or other peer) communicating with the Mobile End System via the Mobility Management Server 102. The peer 110 sees only the (unchanging) virtual address provided by the server 102.

In the preferred embodiment, Mobility Management Server 102 can also provide centralized system management through console applications and exhaustive utilities. A system administrator can use these tools to configure and manage remote connections, and troubleshoot remote connection and system problems.

The proxy server function provided by Mobility Management Server 102 allows for different priority levels for network applications, users and machines. This is useful because each Mobility Management Server 102 is composed of finite processing resources. Allowing the system manager to configure the Mobility Management Server 102 in this way provides enhanced overall system and network performance. As one example, the

system manager can configure Mobility Management Server 102 to allow real time applications such as streaming audio or video to have greater access to the Mobility Management Server 102's resources than other less demanding applications such as email.

- 5 In more detail, Mobility Management Server 102 can be configured via an application or application interface, standard network management protocols such as SNMP, a Web-based configuration interface, or a local user interface. It is possible to configure association priority and/or to configure application priority within an association. For example, the
- 10 priority of each association relative to other associations running through the Mobility Management Server 102 is configurable by either the user name, or machine name (in the preferred embodiment, when the priority is configured for both the user and the machine that a user is logged in on, the configuration for the user may have higher precedence). In addition or
- 15 alternatively, each association may have several levels of application priority, which is configured based on network application name. The system allows for any number of priority levels to exist. In one particular implementation, three priority levels are provided: low, medium and high.

#### Server and Client Example Software Architecture

- 20 Figure 2 shows an example software architecture for Mobile End System 104 and Mobility Management Server 102. In accordance with one aspect of the present invention, Mobile End System 104 and Mobility Management Server 102 run standard operating system and application software -- with only a few new components being added to enable reliable
- 25 and efficient persistent session connections over an intermittently connected mobile network 106. As shown in Figure 2, Mobile End System 104 runs conventional operating system software including network interface drivers

200, TCP/UDP transport support 202, a transport driver interface (TDI) 204, and a socket API 206 used to interface with one or more conventional network applications 208. Conventional network file and print services 210 may also be provided to communicate with conventional TDI 204. Server 101 may include similar conventional network interface drivers 207. TCP/UDP transport support 202, a transport driver interface (TDI) 204, and a socket API 206 used to interface with one or more conventional network applications 208. Mobile End System 104 and Mobility Management Server 102 may each further include conventional security software such as a network/security provider 236 (Mobile End System) and a user/security database 238 (server).

In accordance with the present invention, a new, mobile interceptor component 212 is inserted between the TCP/UDP transport module 202 and the transport driver interface (TDI) 204 of the Mobile End System 104 software architecture. Mobile interceptor 212 intercepts certain calls at the TDI 204 interface and routes them via RPC and Internet Mobility Protocols and the standard TCP/UDP transport protocols 202 to Mobility Management Server 102 over network 108. Mobile interceptor 212 thus can intercept all network activity and relay it to server 102. Interceptor 212 works transparently with operating system features to allow client-side application sessions to remain active when the Mobile End System 104 loses contact with network 108.

While mobile interceptor 212 could operate at a different level than the transport driver interface 204 (e.g., at the socket API level 206), there are advantages in having mobile intercepts 212 operate at the TDI level or more specifically, any transport protocol interface. For brevity sake, all references to the transport driver interface will be denoted using the acronym TDI. Many conventional operating systems (e.g., Microsoft

Windows 95, Windows 98, Windows NT and Windows CE, etc.) provide TDI interface 204 -- thus providing compatibility without any need to change operating system components. Furthermore, because the transport driver interface 204 is normally a kernel level interface, there is no need to switch to user mode -- thus realizing performance improvements.

Furthermore, mobile interceptor 212 working at the level of TDI interface 204 is able to intercept from a variety of different network applications 208 (e.g., multiple simultaneously running applications) as well as encompassing network file, print and other kernel mode services 210 (which would have to be handled differently if the interceptor operated at the socket API level 206 for example).

Figure 2A shows an example high level flowchart of how mobile interceptor 212 works. A call to the TDI interface 204 of Mobile End System 104 (block 230) is intercepted by mobile interceptor 212 (block 232). Mobile interceptor 212 packages the intercepted RPC call in a fragment in accordance with an Internet Mobility Protocol, and sends the fragment as a datagram via a conventional transport protocol such as UDP or TCP over the LAN, WAN or other transport 108 to Mobility Management Server 102 (block 232). The Mobility Management Server 102 receives and unpackages the RPC datagram (block 234), and provides the requested service (for example, acting as a proxy to the Mobile End System application 208 by passing data or a response to a application server process running on Fixed End System 110).

Referring once again to Figure 2, Mobility Management Server 102 includes an address translator 220 that intercepts messages from Mobile End Systems 104 via a conventional network interface driver 222. For example, address translator 230 recognizes messages from an associated session peer (Fixed End System 110) destined for the Mobile End System

104 virtual address. These incoming Mobile End System messages are provided to proxy server 224, which then maps the virtual address and message to previously queued transactions and then forwards the responses back to the current point of presence addresses being used by the associated Mobile End System 104.

As also shown in Figure 2, Mobility Management Server 102 includes, in addition to address translation (intermediate driver) 220, and proxy server 224, a configuration manager 228, a control/user interface 230 and a monitor 232. Configuration manager 228 is used to provide configuration information and parameters to allow proxy server 224 to manage connections. Control, user interface 230 and monitor 232 allow a user to interact with proxy server 224.

#### Mobile Interceptor

Figure 3 shows an example software architecture for mobile interceptor 212 that support the RPC Protocol and the Internet Mobility Protocol in accordance with the present invention. In this example, mobile interceptor 212 has two functional components:

- a Remote Procedure Call protocol engine 240, and
  - an Internet Mobility Protocol engine 244.
- Proxy server 224 running on Mobility Management Server 102 provides corresponding engines 240', 244'.

Mobile interceptor 212 in the preferred embodiment thus supports Remote Procedure Call protocol and Internet Mobility Protocol to connect Mobility Management Server 102 to each Mobile End System 104. Remote procedure calls provide a method for allowing a process on a local system to invoke a procedure on a remote system. Typically, the local system is not aware that the procedure call is being executed on a remote

system. The use of RFC protocols allows Mobile End System 104 to go out of range or suspend operation without losing active network sessions. Since session maintenance does not depend on a customized application, off-the-shelf applications will run without modification in the mobile environment of network 102.

Network applications typically use application-level interfaces such as Windows sockets. A single call to an application-level API may generate several outgoing or incoming data packets at the transport, or media access layer. In prior mobile networks, if one of these packets is lost, the state of the entire connection may become ambiguous and the session must be dropped. In the preferred embodiment of the present invention providing RPCs, the Mobility Management Server 102 and the Mobile End System 104 share sufficient knowledge of the connection state to maintain a coherent logical link at all times – even during physical interruption.

The Internet Mobility Protocol provided in accordance with the present invention compensates for differences between wire-line and other less reliable networks such as wireless. Adjusted frame sizes and protocol tuning provide significant performance improvements over non-mobile-aware transports – dramatically reducing network traffic. This is important when bandwidth is limited or when battery life is a concern.

The Internet Mobility Protocol provided in accordance with the present invention also ensure the security of organization's data as it passes between the Mobile End System 104 and the Mobility Management Server 102 on the public wire-line networks or airway. The Internet Mobility Protocol provides a basic firewall function by allowing only authenticated devices access to the organizational network. The Internet Mobility Protocol can also certify and encrypt all communications between the mobility management system 102 and the Mobile End System 104.

- The Remote Procedure Call protocol engine 240 on Mobile End System 104 of Figure 3 marshals TDI call parameters, formats the data, and sends the request to the Internet Mobility Protocol engine 244 for forwarding to Mobility Management Server 102 where the TDI Remote Procedure Call engine 240 executes the calls. Mobile End System 104 marshals TDI call parameters according to the Remote Procedure Call protocol. When the Mobility Management Server 102 TDI Remote Procedure Call protocol engine 240 receives these RPCs, it executes the calls on behalf of the Mobile End System 104. The Mobility Management Server 102 TDI Remote Procedure Call protocol engine 240 shares the complete network state for each connected Mobile End System with the peer Mobile End System 104's RPC engine 240. In addition to performing remote procedure calls on behalf of the Mobile End Systems 104, the server RPC engine 240 is also responsible for system flow control, remote procedure call parsing, virtual address multiplexing (in coordination with services provided by address translator 220), remote procedure call transaction prioritization, scheduling, policy enforcement, and coalescing.

- The Internet Mobility Protocol engine 244 performs reliable datagram services, sequencing, fragmentation, and re-assembly of messages. It can, when configured, also provide authentication, verification, data encryption and compression for enhanced privacy, security and throughput. Because the Internet Mobility Protocol engine 244 functions in power-sensitive environments using several different transports, it is power management aware and is transport independent.

- Figure 3A shows an example process mobile interceptor 212 performs to communicate a TDI call to Mobility Management Server 102. Generally, the mobile interceptor RPC protocol engine 240 forwards marshaled TDI calls to the Internet Mobility Protocol engine 244 to be



transmitted to the Mobility Management Server 102. RPC protocol engine 240 does this by putting the RPC call to a queue maintained by the Internet Mobility Protocol engine 244 (block 302). To facilitate bandwidth management, the Internet Mobility Protocol engine 244 delays sending received RPC calls for some period of time ("the RPC coalesce time out period") (block 304). Typically, the RPC coalesce timeout is set between five and fifteen milliseconds as one example but is user configurable. This delay allows the RPC engine 240 to continue putting TDI calls to the Internet Mobility Protocol engine 244 queue so that more than one RPC call can be transmitted to the Mobility Management Server 102 in the same datagram (fragment).

When the coalesce timer expires, or the RPC protocol engine 240 determines that it will not be receiving more RPC calls (decision block 306), the RPC engine provides the Internet Mobility Protocol engine 244 with a request to flush the queue, coalesce the RPC calls into a single frame, and forward the frame to its peer (block 308). This coalescing reduces the number of transmissions - enhancing protocol performance. However, the Internet Mobility Protocol may also decide to flush queue 244 based on other external criteria to further optimize performance. In the preferred embodiment, if a single RPC request will fill an entire frame, the IMP layer will automatically try to send the request to the peer.

As mentioned above, Mobility Management Server 102 proxy server also has an RPC protocol engine 212' and an Internet Mobility Protocol engine 244'. Figure 3B shows an example process performed by Mobility Management Server 102 upon receipt of an Internet Mobility Protocol message frame from Mobile End System 104. Once the frame is received by the Mobility Management Server 102, the Internet Mobility Protocol engine 244' reconstructs the frame if fragmented (due to the maximum

transmission size of the underlying transport) and then demultiplexes the contents of the message to determine which Mobile End System 104 it was received from. This demultiplexing allows the Internet Mobility Protocol 244' to provide the Remote Procedure Call engine 240' with the correct association-specific context information.

The Internet Mobility Protocol engine 244' then formulates the received message into a RPC receive indication system work request 354, and provides the Mobility Management Server 102 RPC engine 240' with the formulated work request and association-specific context information. When RPC protocol engine 240' receives work request 352, it places it into an association-specific work queue 356, and schedules the association to run by providing a scheduled request to a global queue 358. The main work thread of RPC engine 240' is then signaled that work is available. Once the main thread is awake, it polls the global queue 358 to find the previously queued association scheduled event. It then de-queues the event and begins to process the association-specific work queue 356.

On the association specific work queue 356 it finds the previously queued RPC receive indication work request. The main thread then de-queues the RPC receive indication work request 356 and passes the request. Because of the coalescing described in connection with Figure 3A, the Mobility Management Server 102 often receives several RPC transactions bunched in each datagram. It then demultiplexes each RPC transaction back into distinct remote procedure calls and executes the requested function on behalf of Mobile End System 104. For performance purposes RPC engine 240' may provide a look ahead mechanism during the parsing process of the RPC messages to see if it can execute some of the requested transactions concurrently (pipelining).

#### How RPC Protocol Engine 240' Runs RPC Associations

Figure 4 is a flowchart of an example process for running RPC associations placed on an association work queue 356. When an RPC association is scheduled to run, the main thread for the RPC protocol engine 240' (which may be implemented as a state machine) de-queues the work request from global work queue 358 and determines the type of work request.

There are six basic types of RPC work requests in the preferred embodiment:

- 10 • schedule request;
- connect indication
- disconnect indication
- local terminate association
- "resources available" request; and
- 15 • ping inactivity timeout.

RPC protocol engine 240' handles these various types of requests differently depending upon its type. RPC protocol engine 240' tests the request type (indicated by information associated with the request as stored on global queue 358) in order to determine how to process the request.

- 20 If the type of work request is a "schedule request" (decision block 360), the RPC engine 240' determines which association is being scheduled (block 362). RPC engine 240' can determine this information from what is stored on global queue 358. Once the association is known, RPC engine 240' can identify the particular one of association work queues 356(1) ...
- 25 356(n) the corresponding request is stored on. RPC engine 240' retrieves the corresponding association control block (block 362), and calls a Process

Association Work task 364 to begin processing the work in a specific association's work queue 356 as previously noted.

- Figure 5 shows example steps performed by the "process association work" task 364 of Figure 4. Once the specific association has been determined, this "process association work" task 364 is called to process the work that resides in the corresponding association work queue 356. If the de-queued work request (block 390) is an RPC receive request (decision block 392), it is sent to the RPC parser to be processed (block 394). Otherwise, if the de-queued work request is a pending receive request (decision block 396), the RPC engine 240' requests TDI 204' to start receiving data on behalf of the application's connection (block 398). If the de-queued work request is a pending connect request (decision block 400), RPC engine 240' requests TDI 204' to issue an application specified TCP (or other transport protocol) connect request (block 402). It then waits for a response from the TDI layer 204'. Once the request is completed by TDI 204', its status is determined and then reported back to the original requesting entity. As a performance measure, RPC engine 240' may decide to retry the connect request process some number of times by placing the request back on the association-specific work queue (356) before actually reporting an error back to the requesting peer. This again is done in an effort to reduce network bandwidth and processing consumption.

- The above process continues to loop until a "scheduling weight complete" test (block 404) is satisfied. In this example, a scheduling weight is used to decide how many work requests will be de-queued and processed for this particular association. This scheduling weight is a configuration parameter set by configuration manager 228, and is acquired when the association connect indication occurs (Figure 4, block 372). This value is configurable based on user or the physical identification of the machine.

Once the RPC engine is finished with the association work queue 356 (for the time at least), it may proceed to process dispatch queues (block 406) (to be discussed in more detail below). If, after processing work on the association's work queue 356, more work remains in the association work queue, the RPC engine 240' will reschedule the association to run again at a later time by posting a new schedule request to the global work queue 358 (Figure 4, decision block 366, block 368; Figure 5, decision block 408, block 410).

Referring once again to Figure 4, if the RPC work request is a "connect indication" (decision block 370), RPC engine 240' is being requested to instantiate a new association with a mobile peer (usually, but not always, the Mobile End System 104). As one example, the connect indication may provide the RPC engine 240' with the following information about the peer machine which is initiating the connection:

- 15 • physical identifier of the machine,
- name of the user logged into the machine,
- address of the peer machine, and
- optional connection data from the peer RPC engine 240.

In response to the connect indication (decision block 370), the RPC engine 240 calls the configuration manager 228 with these parameters. Configuration manager 228 uses these parameters to determine the exact configuration for the new connection. The configuration (e.g., association scheduling weights and the list of all applications that require non-default scheduling priorities along with those priorities) is then returned to the RPC engine 240' for storage and execution. RPC engine 240' then starts the new association, and creates a new association control block (block 372). As shown in Figure 5A the following actions may be taken:

- allocate an association control block (block 372A);

- initialize system wide resources with defaults (block 372H);
  - get configuration overrides with current configuration settings (block 372C);
  - initialize flags (block 372D);
  - 5   • initialize the association-specific work queue (block 372E);
  - initialize association object hash table (block 372F);
  - initialize the coalesce timer (block 372G); and
  - insert association control block into session table (block 372I).
- A "disconnect indication" is issued by the Internet Mobility Protocol
- 10 engine 244' to the RPC engine 240' when the Internet Mobility Protocol engine has determined that the association must be terminated. The RPC engine 240' acts for this disconnect indication (block 374), and in response, stops the association and destroys the association control block (block 376).
- As shown in Figure 5B, the following steps may be performed:
- 15   • mark the association as deleted to prevent any further processing of work that may be outstanding (block 376A);
  - close all associated association objects including process, connection and address objects (block 376B);
  - free all elements on work queue (block 376C);
  - 20   • stop coalesce timer if running (block 376D);
  - decrement association control block reference count (block 376E); and
  - if the reference count is zero (tested for by block 376F):
  - destroy association specific work queue,
  - 25   • destroy object hash table,
  - destroy coalesce timer,
  - remove association control block from association table, and

WG 4023362

37

PC/TOSHIBA/0001

- free control block (376C).

A "terminate session" request is issued when system 102 has determined that the association must be terminated. This request is issued by the system administrator, the operating system or an application. RFC engine 240' handles a terminate session request in the same way it handles a disconnect request (decision block 378, block 376).

In the preferred embodiment, the interface between the RFC engine 240' and the Internet Mobility Protocol engine 244' specifies a flow control mechanism based on credits. Each time one thread posts a work request to another thread, the called thread returns the number of credits left in the work queue. When a queue becomes full, the credit count goes to zero. By convention, the calling thread is to stop posting further work once the credit count goes to zero. Therefore, it is necessary to have a mechanism to tell the calling thread that "resources are available" once the queued work is processed and more room is available by some user configurable/pre-determined low-water mark in the queue. This is the purpose of the "resources available" work indication (tested for by decision block 380). As shown in Figure 3C, the following steps may be performed when the credit count goes to zero:

- mark association as "low mark pending" by setting the `RPC_LMPO_SEND_FLAG` (block 379A). Once in this state:
- all received datagrams are discarded (block 379B);
- all received stream events are throttled by refusing to accept the data (block 379C) (this causes the TCP or other transport receive window to eventually close, and provides flow control between the Fixed End System 110 and the Mobility Management Server 102); before returning, the preferred embodiment jams a "pending receive request" to the front of the association specific work

WU 8233361

PC/TX/001/2001

38

queue 356 so that outstanding stream receive event processing will continue immediately once resources are made available).

- all received connect events are refused for passive connections (block 379D).

- 5 When the "resources available" indication is received by the RPC engine 240' (Figure 4, decision block 380), the RPC engine determines whether the association has work pending in its associated association work queue 356. If it does, the RPC engine marks the queue as eligible to run by posting the association to the global work queue 358 (block 382). If a
- 10 pending receive request has been posted during the time the association was in the low mark pending state, it is processed at this time (in the preferred embodiment, the RPC engine 240' continues to accept any received connect requests during this processing).

- Referring once again to Figure 4, if RPC engine 240' determines that
- 15 the Mobility Management Server 102 channel used for "ping" has been inactive for a specified period of time (decision block 380), the channel is closed and the resources are freed back to the system to be used by other processes (block 386).

#### **RPC Parsing and Priority Queuing**

- 20 Referring back to Figure 5, it was noted above that RPC engine parses an RPC receive request upon receipt (see blocks 392, block 394). Parsing is necessary in the preferred embodiment because a single received datagram can contain multiple RPC calls, and because RPC calls can span multiple Internet Mobility Protocol datagram fragments. An example format for an RPC receive work request 500 is shown in Figure 6. Each
- 25 RPC receive work request has at least a main fragment 502(1), and may have any number of additional fragments 502(2) ... 502(N). Main fragment



502(1) contains the work request structure header 503 and a receive overlay 504. The receive overlay 504 is a structure overlay placed on top of the fragment 502(1) by the Internet Mobility Protocol engine 344. Within this fragment 504 is a structure member called pUserData that points to the first RPC call 506(1) within the work request 500.

The Figure 6 example illustrates a work request 500 that contains several RPC calls 506(1), 506(2) ... 506(8). As shown in the Figure 6 example, an RPC work request 500 need not be contained in a contiguous block of memory or in a single fragment 502. In the example shown, a second fragment 502(2) and a third fragment 502(3) that are chained together to the main fragment 502(1) in a linked list.

Thus, RPC parser 394 in this example handles the following boundary conditions:

- each RPC receive request 500 may contain one or more RPC calls;
- one or more RPC calls 506 may exist in a single fragment 502;
- each RPC call 506 may exist completely contained in a fragment 502; and
- each RPC call 506 may span more than one fragment 502.

Figure 7 shows an example RPC parser process 394 to parse an RPC receive work request 500. In this example, the RPC parser 394 gets the first fragment 502(1) in the work request, gets the first RPC call 506(1) in the fragment, and parses that RPC call. Parser 394 proceeds through the RPC receive work request 500 and processes each RPC call 506 in turn. If the number of fragment bytes remaining in the RPC receive work request 500 fragment 502(1) is greater than the size of the RPC header 503, parser 394 determines whether the RPC call is fully contained within the RPC fragment 502 and thus may be processed (this may be determined by testing whether

the RPC call length is greater than the number of fragment bytes remaining). If the RPC call type is a chain exception, then the RPC call will handle the updating of the RPC parser 394 state. In the proxy server 224, the only RPC calls using the chain exception are the "integrity send" and "stream send" calls. This chain exception procedure is done to allow the RPC engine to avoid fragment copies by chaining memory descriptor lists together for the purpose of RPC send calls.

Once the parser 394 identifies an RPC call type, a pointer to the beginning of the RPC information is passed to the RPC engine 240 for execution. The RPC engine divides all TDI procedure calls into different priorities for execution. The highest priority calls are immediately executed by passing them to an RPC dispatcher 395 for immediate execution. All lower priority calls are dispatched to dispatch queues 510 for future processing. Each dispatch queue 510 represents a discrete priority.

In the preferred embodiment, mobile applications call the "open address" object and "open connection" object functions before executing other TDI networking functions. Therefore, the system assigns application level priorities during the "open address" object and "open connection" object calls. In the example embodiment, once an address or connection object is assigned a priority, all calls that are associated with that object are executed within that assigned priority.

If, for example, the RPC call is a TDI Open Address Object request or a TDI Open Connection Object Request, it is sent to the RPC dispatcher 395 for immediate execution. The Open Address and Open Connection object RPC calls provide access to a process ID or process name that are used to match against the information provided by the configuration manager 228 during the configuration requests that occur within the

association connect indication described earlier. This is used to acquire configuration for the address or connection object.

In the preferred embodiment, all RPC calls have at least an address object or connection object as a parameter. When the call is made, the priority assigned to that specific object is used as the priority for the RPC call. The configuration assigned to the address or connection object determines which priority all associated RPC calls will be executed in. For example, if the assigned priority is "high," all RPC calls will be executed immediately without being dispatched to a dispatch queue 510. If the assigned priority is "1," all RPC calls will be placed into dispatch queue 510(1).

Referring once again to Figure 5, once the "process association work" task 364 process has completed calculating its scheduled amount of association work (decision block 404), it checks to see if the dispatch queues require servicing (block 406). Figure 6 is a flowchart of example steps performed by the "process dispatch queues" block 406 of Figure 5 to process the dispatch queues 510 shown in Figures 7.

In this example, dispatch queues 510 are processed beginning with the highest priority queue (510(1) in this example) (block 408). Each queue 510 is assigned a weight factor. The weight factor is a configuration parameter that is returned by the configuration manager 228 when a Mobile End System 104 to Mobility Management Server 102 association is created. As one example, low priority dispatch queues 510 can have a weight factor of 4, and medium priority queues can have a weight factor of 8. High priority RPC calls do not, in this example, use weight factors because they are executed immediately as they are parsed.

RPC engine 240' loops through the de-queuing of RPC calls from the current queue until either the queue is empty or the queue weight

number of RPC calls has been processed (blocks 412-416). For each de-queued RPC call, the RPC dispatcher 395 is called to execute the call. The RPC dispatcher 395 executes the processed call on behalf of the Mobile End System 104, and formulates the Mobile End System response for those

5 RPC calls that require responses.

If, after exiting the loop, the queue still has work remaining (decision block 418), the queue will be marked as eligible to run again (block 420).

By exiting the loop, the system yields the processor to the next lower priority queue (blocks 424, 410). This ensures that all priority levels are

10 given an opportunity to run no matter how much work exists in any particular queue. The system gets the next queue to service, and iterates the process until all queues have been processed. At the end of processing all queues, the system tests to see if any queues have been marked as eligible to run - and if so, the association is scheduled to run again by putting a

15 schedule request to the global work queue. The association is scheduled to run again in the "process global work" routine shown in Figure 4 above.

This approach yields the processor to allow other associations that have work to process as opportunity run. By assigning each queue a weight factor, the system may be tuned to allow different priority levels unequal access to the Mobility Management Server 102's CPU. Thus, higher

20 priority queues are not only executed first, but may also be tuned to allow greater access to the CPU.

#### Mobility Management Server RPC Responses

The discussion above explains how remote procedure calls are sent from the Mobile End System 104 to the Mobility Management Server 102 for execution. In addition to this type of RPC call, the Mobility Management Server 102 RPC engine 240 also supports RPC events and

25

RPC receive responses. These are RPC messages that are generated asynchronously as a result of association specific connection peer activity (usually the Fixed End System 110). Mobility Management Server 102  
 RPC engine 249 completes RPC transactions that are executed by the RPC  
 5 dispatcher 395. Not all RPC calls require a response on successful completion. Those RPC calls that do require responses on successful completion cause the RPC dispatcher 395 to build the appropriate response and post the response to the Internet Mobile Protocol engine 244 to be returned to the peer Mobile End System 104. All RPC calls generate a  
 10 response when the RPC call fails (the RPC receive response is the exception to above).

RPC events originate as a result of network 108 activity by the association specific connection (usually the Fixed End System 110). These  
 RPC event messages are, in the preferred embodiment, proxied by the  
 15 Mobility Management Server 102 and forwarded to the Mobile End System 104. The preferred embodiment Mobility Management Server 102 supports the following RPC event calls:

- Disconnect Event (this occurs when association-specific  
 20 connected peer (usually the Fixed End System 110) issues a transport level disconnect request; the disconnect is received by the proxy server 224 on behalf of the Mobile End System 104, and the proxy server then transmits a disconnect event to the Mobile End System);
- Stream Receive Event (this event occurs when the association-specific connected peer (usually the Fixed End System 110) has  
 25 sent stream data to the Mobile End System 104; the proxy server 224 receives this data on behalf of the Mobile End System 104,

and sends the data to the Mobile End System in the form of a Receive Response);

- 5     • Receive Datagram Event (this event occurs when any association-specific listening portal receives datagrams from a network peer (usually the Fixed End System 110) destined for the Mobile End System 104 through the Mobility Management Server 102; the proxy server 224 accepts these datagrams on behalf of the Mobile End System, and forwards them to the Mobile End System in the form of receive datagram events; and

10    • Connect Event (this event occurs when the association-specific listening portal receives a transport layer connect request (usually from the Fixed End System 110) when it wishes to establish a transport layer end-to-end connection with a Mobile End System 104; the proxy server 224 accepts the connect request on behalf of the Mobile End System, and then builds a connect event RPC call and forwards it to the Mobile End System).

15

Figure 9 shows how the RPC engine 240 handles proxy server-generated RPC calls. For high priority address and connection objects, the RPC engine 240 dispatches a send request to the Internet Mobility Protocol engine 244 immediately. The send request results in forwarding the RPC message to the peer Mobile End System 104. For lower priority objects, the Internet Mobility Protocol engine 244 send request is posted to an appropriate priority queue 510. If the association is not scheduled to run, a schedule request is also posted to the global queue 358. The Internet Mobility Protocol send request is finally executed when the dispatch queues are processed as described earlier in connection with Figures 5 & 6.

#### Example Internet Mobility Protocol

Internet Mobility Protocol provided in accordance with the present invention is a message oriented connection based protocol. It provides guaranteed delivery, (re)order detection, and loss recovery. Further, unlike other conventional connection oriented protocols (i.e. TCP), it allows for multiple distinct streams of data to be combined over a single channel, and allows for guaranteed, unreliable, as well as new message oriented reliable data to traverse the network through the single virtual channel simultaneously. This new message oriented level of service can alert the requester when the Internet Mobility Protocol peer has acknowledged a given program data unit.

The Internet Mobility Protocol provided in accordance with the present invention is designed to be so overlay on existing network topologies and technologies. Due to its indifference to the underlying network architecture, it is transport agnostic. As long as there is a way for packetized data to traverse between two peers, Internet Mobility Protocol can be deployed. Each node's network point of presence (POP) or network infrastructure can also be changed without affecting the flow of data except where physical boundary, policy or limitations of bandwidth apply.

With the help of the layer above, Internet Mobility Protocol coalesces data from many sources and shuttles the data between the peers using underlying datagram facilities. As each discrete unit of data is presented from the upper layer, Internet Mobility Protocol combines into a single stream and subsequently submits it for transmission. The data units are then forwarded to the peer over the existing network where upon reception, with the help from the layer above, the stream is demultiplexed back into multiple distinct data units. This allows for optimum use of available bandwidth, by generating the maximum sized network frames

possible for each new transmission. This also has the added benefit of  
trying the channel once for maximum bandwidth utilization and have its  
parameters applied to all session level connections.

In rare instances where one channel is insufficient, the Internet

- 5 Mobility Protocol further allows multiple channels to be established  
between the peers -- thus allowing for data prioritization and possibly  
providing a guaranteed quality of service (if the underlying network  
provides the service).

- The Internet Mobility Protocol also provides for dynamically  
selectable guaranteed or unreliable levels of service. For example, each  
10 protocol data unit that is submitted for transmission can be queued with  
either a validity time period or a number of retransmission attempts or both.  
Internet Mobility Protocol will expire a data unit when either threshold is  
reached, and remove it from subsequent transmission attempts.

- 15 Internet Mobility Protocol's additional protocol overhead is kept  
minimal by use of variable length header. The frame type and any optional  
fields determine the size of the header. Those optional fields are added in a  
specific order to enable easy parsing by the receiving side and bits in the  
header flag field denote their presence. All other control and configuration  
20 information necessary for the peers to communicate can be passed through  
the in-band control channel. Any control information that needs to be sent is  
added to the frame prior to any application level protocol data unit. The  
receiving side processes the control information and then passes the rest of  
the payload to the upper layer.

- 25 Designed to run over relatively unreliable network links where the  
error probability is relatively high, Internet Mobility Protocol utilizes a  
number of techniques to insure data integrity and obtain optimum network  
performance. To insure data integrity, a Fletcher checksum algorithm is



used to detect error frames. This algorithm was selected due to the fact of its efficiency as well as its detection capability. It can determine not only bit errors, but also bit reordering. However, other alternate checksum algorithms maybe used in its place.

- 5 Sequence numbers are used to insure ordered delivery of data. Internet Mobility Protocol sequence numbers do not, however, represent each byte of data as in TCP. They represent a frame of data that can be, in one example implementation, as large as 65535 bytes (excluding the Internet Mobility Protocol header). They are 32 bit or other convenient length in one example to insure that wrap-around does not occur over high bandwidth links in a limited amount of time.

- Combining this capability along with the expiration of data, retransmitted (retried) frames may contain less information than the previous version that was generated by the transmitting side. A frame id is provided to enable detection of the latest versioned frame. However, since data is never added in the preferred embodiment and each element removed is an entire protocol data unit, this is not a necessity for sequence assurance. In one example, the Internet Mobility Protocol will only process the first instance of a specific frame it receives - no matter how many other versions of that frame are transmitted. Each frame created that carries new user payload is assigned its own unique sequence number.

- Performance is gained by using of a sliding window technique - thus allowing for more than one frame to be outstanding (transmitted) at a time before requiring the peer to acknowledge reception of the data. To insure timely delivery of the data, a positive acknowledgement and timer based retransmit scheme is used. To further optimize the use of the channel, a selective acknowledgement mechanism is employed that allows for fast retransmission of missing frames and quick recovery during lossy or

congested periods of network connectivity. In one example, this selective acknowledgment mechanism is represented by an optional bit field that is included in the header.

A congestion avoidance algorithm is also included to allow the protocol to back off from rapid retransmission of frames. For example, a round trip time can be calculated for each frame that has successfully transferred between the peers without a retransmit. This time value is averaged and then used as the basis for the retransmission timeout value. As each frame is sent, a timeout is established for that frame. If an acknowledgment for that frame is not received, and the frame has actually been transmitted, the frame is resent. The timeout value is then increased and then used as the basis for the next retransmission time. This transmit time-out is bounded on both the upper and lower side to insure that the value is within a reasonable range.

Internet Mobility Protocol also considers the send and receive paths separately. This is especially useful on channels that are asymmetric in nature. Based on hysteresis, the Internet Mobility Protocol automatically adjusts parameters such as frame size (fragmentation threshold), number of frames outstanding, retransmit time, and delayed acknowledgement time to reduce the amount of duplicate data sent through the network.

Due to the fact that Internet Mobility Protocol allows a node to migrate to different points of attachment on diverse networks, characteristics (e.g., frame size) of the underlying network may change midstream. An artifact of this migration is that frames that have been queued for transmission on one network may no longer fit over the new medium the mobile device is currently attached to. Combining this issue with the fact that fragmentation may not be supported by all network infrastructures, fragmentation is dealt with at the Internet Mobility Protocol

level. Before each frame is submitted for transmission, Internet Mobility Protocol assesses whether or not it exceeds the current fragmentation threshold. Note that this value may be less than the current maximum transmission unit for performance reason (smaller frames have a greater likelihood of reaching its ultimate destination than larger frames). The tradeoff between greater protocol overhead versus more retransmissions is weighed by Internet Mobility Protocol, and the frame size may be reduced in an attempt to reduce overall retransmissions). If a given frame will fit, it is sent in its entirety. If not, the frame is split into maximum allowable size for the given connection. If the frame is retransmitted, it is reassessed, and will be refragmented if the maximum transmission unit has been reduced (or alternatively, if the maximum transmission unit actually grew, the frame may be reset as a single frame without fragmentation).

The protocol itself is orthogonal in its design as either side may establish or terminate a connection to its peer. In a particular implementation, however, there may be a few minor operational differences in the protocol engine depending on where it is running. For example, based on where the protocol engine is running, certain inactivity detection and connection lifetime timeouts may be only invoked on one side. To allow administrative control, Internet Mobility Protocol engine running on the Mobility Management Server 102 keeps track of inactivity periods. If the specified period of time expires without any activity from the Mobile End System 104, the Mobility Management Server 102 may terminate a session. Also, an administrator may want to limit the overall time a particular connection may be established for, or when to deny access base on time of day. Again these policy timers may, in one example implementation, be invoked only on the Mobility Management Server 102 side.

In one example implementation, the software providing the Internet Mobility Protocol is compiled and executable under Windows NT, 9x, and CE environments with an platform specific modification. To accomplish this, Internet Mobility Protocol employs the services of a network abstraction layer (NAL) to send and receive Internet Mobility Protocol frames. Other standard utility functions such as memory management, queue and list management, event logging, alert system, power management, security, etc are also used. A few runtime parameters are modified depending on whether the engine is part of a Mobile End System 104 or Mobility Management Server 102 system. Some examples of this are:

- Certain timeouts are only invoked on the Mobility Management Server 102
- Direction of frames are indicated within each frame header for echo detection
- Inbound connections may be denied if Mobile End System 104 is so configured
- Alerts only signaled on Mobility Management Server 102
- Power management enabled on Mobile End System 104 but is not necessary on the Mobility Management Server 102

The Internet Mobility Protocol interface may have only a small number of "C" callable platform independent published API functions, and requires one C/S specific function to schedule its work (other than the aforementioned standard utility functions). Communications with local objects is achieved through the use of defined work objects (work requests). Efficient notification of the completion of each work element is accomplished by signaling the requesting entity through the optional completion callback routine specified as part of the work object.

The Internet Mobility Protocol engine itself is queue based. Work elements passed from local clients are placed on a global work queue in FIFO order. This is accomplished by local clients calling a published Internet Mobility protocol function such as "ProtocolRequestWork()". A scheduling function inside of Internet Mobility Protocol then removes the work and dispatches it to the appropriate function. Combining the queuing and scheduling mechanisms conceal the differences between operating system architectures -- allowing the protocol engine to be run under a threaded based scheme (e.g., Windows NT) or in a synchronous fashion (e.g., Microsoft Windows 9x & Windows CE). A priority scheme can be overlaid on top of its queuing, thus enabling a guaranteed quality of service to be provided (if the underlying network supports it).

From the network perspective, the Internet Mobility Protocol uses scatter-gather techniques to reduce copying or movement of data. Each transmitting is sent to the NAL as a list of fragments, and is coalesced by the network layer transport. If the transport protocol itself supports scatter-gather, the fragment list is passed through the transport and assembled by the media access layer driver or hardware. Furthermore, this technique is extensible in that it allows the insertion or deletion of any protocol wrapper at any level of the protocol stack. Reception of a frame is signaled by the NAL layer by calling back Internet Mobility Protocol at a specified entry point that is designated during the NAL registration process.

#### Example Internet Mobility Protocol Engine Entry Points

Internet Mobility Protocol in the example embodiment exposes four common entry points that control its startup and shutdown behavior. These procedures are

##### 1. Internet Mobility ProtocolCreate()

2. Internet\_Mobility\_ProtocolRun()
3. Internet\_Mobility\_ProtocolInit()
4. Internet\_Mobility\_ProtocolUnload()

#### Example Internet\_Mobility\_ProtocolCreate()

- 5       The Internet\_Mobility\_ProtocolCreate() function is called by the boot subsystem to initialize the Internet\_Mobility\_Protocol. During this first phase, all resource necessary to start processing work must be acquired and initialized. At the completion of this phase, the engine must be in a state ready to accept work from other layers of the system. At this point, Internet
- 10    Mobility\_Protocol initializes a global configuration table. To do this, it employs the services of the Configuration Manager 228 to populate the table.

- Next it registers in suspend and resume notification functions with the APM handler. In one example, these functions are only invoked on the
- 15    Mobile End System 104 side -- but in another implementation it might be desirable to allow Mobility Management Server 102 to suspend during operations. Other working storage is then allocated from the memory pool, such as the global work queue, and the global NAL peer list.

- To limit the maximum amount of runtime memory required as well as insuring Internet\_Mobility\_Protocol handles are unique, Internet\_Mobility
- 20    Protocol utilizes a 2-tier array scheme for generating handles. The globalConnectionArray table is sized based on the maximum number of simultaneous connection the system is configured for, and allocated at this time. Once all global storage is allocated and initialized, the global Internet
- 25    Mobility\_Protocol state is change to \_STATE\_INITIALIZE\_.

**Example Internet Mobility Protocol(Run)**

The Internet Mobility Protocol(Run) function is called after all subsystems have been initialized, and to start the Internet Mobility Protocol subsystem that it is okay to start processing any queued work. This is the normal state that the Internet Mobility Protocol engine is during general operations. A few second pass initialization steps are taken at this point before placing the engine into an operational state.

Internet Mobility Protocol allows for network communications to occur over any arbitrary interface(s). During the initialization step, the storage for the interface between Internet Mobility Protocol and NAL was allocated. Internet Mobility Protocol now walks through the global portal list to start all listeners at the NAL. In one example, this is comprised of a two step process:

- Internet Mobility Protocol requests the NAL layer to bind and open the portal based on configuration supplied during initialization time; and
  - Internet Mobility Protocol then notifies the NAL layer that it is ready to start processing received frames by registering the Internet Mobility Protocol/RCVFROMCB call back.
- A local persistent identifier (PID) is then initialized. The global Internet Mobility Protocol state is change to \_STATE\_RUN\_.

**Example Internet Mobility Protocol(Halt)**

The Internet Mobility Protocol(Halt) function is called to start the engine that the system is shutting down. All resources acquired during its operation are to be release prior to returning from this function. All Internet Mobility Protocol sessions are abnormally terminated with the restore code.

set to administrative. No further work is accepted from or posted to other layers once the engine has entered into \_STATE\_HALTED\_ state.

#### Example Internet Mobility Protocol Unload()

- The Internet Mobility Protocol(Unload()) function is the second phase of the shutdown process. This is a last chance for engine to release any allocated system resources still being held before returning. Once the engine has returned from this function, no further work will be executed as the system itself is terminating

#### Example Internet Mobility Protocol handle()

- In at least some examples, using just the address of the memory (which contains the Internet Mobility Protocol state information) as the token to describe an Internet Mobility Protocol connection may be insufficient. This is mainly due to possibility of one connection terminating and a new one starting in a short period of time. The probability that the memory allocator will reassign the same address for different connections is high -- and this value would then denote both the old connection and a new connection. If the original peer did not hear the termination of the session (i.e. it was off, suspended, out of range, etc.), it could possibly send a frame on the old session to the new connection. This happens in TCP and will cause a reset to be generated to the new session if the peer's IP addresses are the same. To avoid this scenario, Internet Mobility Protocol uses manufactured handle. The handles are made up of indices into two arrays and a nonce for uniqueness. The tables are laid out as follows.

Table 1: an array of pointers to an array of connection object

- Table 2: an array of connection objects that contains the real pointers to the Internet Mobility Protocol control blocks.



This technique minimizes the amount of memory being allocated at initialization time. Table 1 is sized and allocated at startup. On the Mobile End System 104 side this allows allocation of a small amount of memory (the memory allocation required for this Table 1 on the Mobility Management Server 102 side is somewhat larger since the server can have many connections).

Table 1 is then populated on demand. When a connection request is issued, Internet Mobility Protocol searches through Table 1 to find a valid pointer to Table 2. If no entries are found, then Internet Mobility Protocol will allocate a new Table 2 with a maximum of 256 connection objects -- and then stores the pointer to Table 2 into the appropriate slot in Table 1. The protocol engine then initializes Table 2, allocates a connection object from the newly created table, and returns the manufactured handle. If another session is requested, Internet Mobility Protocol will search Table 1 once again, find the valid pointer to Table 2, and allocate the next connection object for the session. This goes on until one of two situations exist:

- If all the connection objects are exhausted in Table 2, a new Table 2 will be allocated, initialized, and a pointer to it will be placed in the next available slot in Table 1; and
- If all connection objects have been released for a specific Table 2 instance and all elements are unused for a specified period of time, the storage for that instance of Table 2 is released back to the memory pool and the associated pointer in Table 1 is changed to indicate that that entry is now available for use when the next connection request is started (if and only if no other connection object are available in other instances of Table 2).

WU 53/2362

PC/T2362/2361

56

Two global counters are maintained to allow limiting the total number of connections allocated. One global counter counts the number of current active connections; and the other keeps track of the number of unallocated connection objects. The second counter is used to govern the total number of connection object that can be created to some arbitrary limit. When a new Table 2 is allocated, this counter is adjusted downward to account for the number of objects the newly allocated table represents. On the flip side, when Internet Mobility Protocol releases a Table 2 instance back to the memory pool, the counter is adjusted upward with the number of connection objects that are being released.

#### Example Work Flow

Work is requested by local clients through the Internet Mobility ProtocolRequestWork() function. Once the work is validated and placed on the global work queue, the Internet Mobility ProtocolWorkQueueEligible() function is invoked. If in a threaded environment, the Internet Mobility Protocol worker thread is signaled (marked eligible) and control is immediately returned to the calling entity. If in a synchronous environment, the global work queue is immediately run to process any work that was requested. Both methods end up executing the Internet Mobility ProtocolProcessWork() function. This is the main dispatching function for processing work.

Since only one thread at a time may be dispatching work from the global queue in the example embodiment, a global semaphore may be used to protect against race/entry. Private Internet Mobility Protocol work can post work directly to the global work queue instead of using the Internet Mobility ProtocolRequestWork() function.

A special case exists for SEND type work objects. To insure that the semantics of Unreliable Datagram is kept, each SEND type work object can be queued with an expiry time or with a retry count. Work will be aged based on the expiry time. If the specified timeout occurs, the work object is removed from the connection specific queue, and is completed with an error status. If the SEND object has already been coalesced into the data path, the protocol allows for the removal of any SEND object that has specified a retry count. Once the retry count has been exceeded, the object is removed from the list of elements that make up the specific frame, and then returned to the requestor with the appropriate error status

#### Zero-Mode Connection Startup

Internet Mobility Protocol includes a very efficient mechanism to establish connections between peers. Confirmation of a connection can be determined in as little as a three-frame exchange between peers. The initiator sends an IMP SYNC frame to alert its peer that it is requesting the establishment of a connection. The acceptor will either send an IMP ESTABLISH frame to confirm acceptance of the connection, or send an IMP ABORT frame to alert the peer that its connection request has been rejected. Reason and status codes are passed in the IMP ABORT frame to aid the user in deciphering the reason for the rejection. If the connection was accepted, an acknowledgement frame is sent (possibly including protocol data unit or control data) and is forwarded to the acceptor to acknowledge receipt of its establish frame.

To further minimize network traffic, the protocol allows user and control data to be included in the initial handshake mechanism used at connection startup. This ability can be used in an insecure environment or in environments where security is dealt with by a layer below, such that the

Internet Mobility Protocol can be tailored to avert the performance penalties due to double security authentication and encryption processing being done over the same data path.

#### Example Data Transfer

- 5 Internet Mobility Protocol relies on signaling from the NAL to detect when a frame has been delivered to the network. It uses this metric to determine if the network link in question has been momentarily flow controlled, and will not submit the same frame for retransmission until the original request has been completed. Some network drivers however lie about the transmission of frames and indicate delivery prior to submitting them to the network. Through the use of sequence numbers, the Internet Mobility Protocol layer detects this behavior and only will send another datagram until the NAL returns from the original send request.

- 15 Once a frame is received by Internet Mobility Protocol, the frame is quickly validated, then placed on an appropriate connection queue. If the frame does not contain enough information for Internet Mobility Protocol to discern its ultimate destination, the frame is placed on the Internet Mobility Protocol socket queue that the frame was received on, and then that socket queue is placed on the global work queue for subsequent processing. This initial demultiplexing allows received work to be dispersed rapidly with limited processing overhead.

#### Example Accounting

- To insure minimal use of network bandwidth during periods of retransmission and processing power on the Mobility Management Server 102, the protocol allows the Mobility Management Server 102 to "acquire" a connection. After a user configurable period of time, the

- Mobility Management Server 102 will stop retransmitting frames for a particular connection if it receives no notification from the corresponding Mobile End System 104. At this point, the Mobility Management Server 102 assumes that the Mobile End System 104 is in some unreachable state (i.e. out of range, suspended, etc), and places the connection into a dormant state. Any further work destined for this particular connection is stored for future delivery. The connection will remain in this state until one of the following conditions are met:
- Mobility Management Server 102 receives a frame from the Mobile End System 104, thus restoring the connection to its original state;
  - a lifetime timeout has expired;
  - an inactivity timeout has expired; or
  - the connection is shorted by the system administrator.
- In the case that the Mobility Management Server 102 receives a frame from the Mobile End System 104, the connection continues from the point it was interrupted. Any work that was queued for the specific connection will be forwarded, and the state will be resynchronized. In any of the other cases, the Mobile End System 104 will be apprised of the termination of the connection once it reconnects; and work that was queued for the Mobile End System 104 will be discarded.

#### Example Connect and Send Requests

- Figures 10A-10C together are a flowchart of example connect and send request logic formed by Internet mobility engine 244. In response to receipt from a command from RPC engine 240, the Internet Mobility Protocol engine 244 determines whether the command is a "connect" request (decision block 602). If it is, engine 244 determines whether

connection resources can be allocated (decision block 603). If it is not possible to allocate sufficient connection resources ("no" exit to decision block 603), engine 244 declares an error (block 603a) and returns. Otherwise, engine 244 performs a state configuration process in preparation for handling the connect request (block 603b).

For connect and other requests, engine 244 queues the connect or send request and signals a global event before return to the calling application (block 604).

To dispatch a connect or send request from the Internet Mobility Protocol global request queue, engine 244 first determines whether any work is pending (decision block 605). If no work is pending ("no" exit to decision block 605), engine 244 waits for the application to queue work for the connection by going to Figure 10C, block 625 (block 605a). If there is work pending ("yes" exit to decision block 605), engine 244 determines whether the current state has been established (block 606). If the state establish has been achieved ("yes" exit to decision block 606), engine 244 can skip steps used to transition into establish state and jump to decision block 615 of Figure 10D (block 606a). Otherwise, engine 244 must perform a sequence of steps to enter establish state ("no" exit to decision block 606).

In order to enter establish state, engine 244 first determines whether the address of its peer is known (decision block 607). If not, engine 244 waits for the peer address while continuing to queue work and transitions to Figure 10C block 625 (block 607a). If the peer address is known ("yes" exit to decision block 607), engine 244 next tests whether the requisite security context has been acquired (decision block 608). If not, engine 244 must wait for the security context while continuing to queue work and transitioning to block 625 (block 608a). If security context has already been acquired ("yes" exit to decision block 608), engine 244 declares a "state

pending" state (block 608b), and then sends an Internet Mobility Protocol  
 sync frame (block 609) and starts a retransmit timer (block 610). Engine  
 244 determines whether the corresponding established frame was received  
 (block 611). If it was not ("no" exit to decision block 611), engine 244 tests  
 5 whether the retransmit time has expired (decision block 612). If the  
 decision block has not expired ("no" exit to decision block 612), engine 244  
 waits and may go to step 625 (block 613). Eventually, if the established  
 frame is never received (as tested for by block 611) and a total retransmit  
 time expires (decision block 614), the connection may be aborted (block  
 10 614a). If the established is eventually received ("yes" exit to decision block  
 611), engine 244 declares a "state established" state (block 611a).  
 Once state establish has been achieved, engine 244 tests whether the  
 new connection has been authenticated (decision block 615). If it has not  
 been, engine 244 may wait and transition to step 625 (block 616). If the  
 15 connection has been authenticated ("yes" exit to decision block 615), engine  
 244 tests whether authentication succeeded (decision block 617). If it did  
 not ("no" exit to decision block 617), the connection is aborted (block  
 614a). Otherwise, engine 244 tests whether the peer transmit window is full  
 (decision block 618). If it is ("yes" exit to decision block 618), engine 244  
 20 waits for acknowledgment and goes to step 625 (decision block 619). If the  
 window is not full ("no" exit to decision block 618), engine 244 creates an  
 Internet Mobility Protocol data frame (block 620) and sends it (block 621).  
 Engine 244 then determines if the retransmit timer has started (decision  
 block 622). If no, engine 244 starts the retransmit timer (block 623).  
 25 Engine 244 loops through blocks 618-623 until there is no more data to  
 send (as tested for by decision block 624). Engine 244 then returns to a  
 sleep mode waiting for more work and returns to the global dispatcher  
 (block 625).

**Example Termination**

- Figure 11 is a flowchart of example steps performed by Internet Mobility Protocol engine 244 to terminate a connection. In response to a "terminate connection" request (block 626), the engine queues the request to its global work queue and returns to the calling application (block 626a).
- The terminate request is eventually dispatched from the Internet Mobility Protocol process global work queue for execution (block 627). Engine 244 examines the terminate request and determines whether the terminate request should be immediate or graceful (decision block 628). If immediate
- 10 ("short") exit to decision block 628, engine 244 immediately aborts the connection (block 629). If graceful ("graceful") exit to decision block 628, engine 244 declares a "state close" state (block 628a), and sends an Internet Mobility Protocol "Morris" frame (block 630) to indicate to the peer that the connection is to close. Engine 244 then declares a "Morris" state (block
- 15 630a) and starts the retransmit timer (block 631). Engine 244 tests whether the response of "post morris" frame has been received from the peer (decision block 632). If not ("no") exit to decision block 632, engine 244 determines whether a retransmit timer has yet expired (decision block 633). If the retransmit timer is not expired ("no") exit to decision block 633,
- 20 engine 244 waits and proceeds to step 637 (block 634). If the retransmit timer has expired ("yes") exit to decision block 633, engine 244 determines whether the total retransmit time has expired (decision block 635). If the total time is not yet expired ("no") exit to decision block 635, control returns to block 630 to resend the Morris frame. If the total retransmit time has
- 25 expired ("yes") exit to decision block 635, engine 244 immediately aborts the connection (block 635a).
- Once a "post morris" responsive frame has been received from the peer ("yes" exit to decision block 632), engine 244 declares a "post morris"



WU 81/23462

63

PCT/JP03/0491

state (block 632a), releases connection resources (block 636), and returns to sleep waiting for more work (block 637).

#### Example Retransmission

- Figure 12 is a flowchart of example "retransmit" events logic performed by Internet Mobility Protocol engine 244. In the event that the retransmit timer has expired (block 650), engine 244 determines whether any frames are outstanding (decision block 651). If no frames are outstanding ("no" exit to decision block 651), engine 244 dismisses the timer (block 652) and returns to sleep (block 660). If, on the other hand, frames are outstanding ("yes" exit to decision block 651), engine 244 determines whether the entire retransmit period has expired (decision block 653). If it has not ("no" exit to decision block 653), the process returns to sleep for the difference in time (block 654). If the entire retransmit time period has expired ("yes" exit to decision block 653), engine 244 determines whether a total retransmit period has expired (decision block 655). If it has ("yes" exit to decision block 655) and this event has occurred in the Mobility Management Server engine 244' (as opposed to the Mobile End System engine 244), a dormant state is declared (decision block 656, block 656a). Under these same conditions, the Internet Mobility Protocol engine 244 executing on the Mobile End System 104 will abort the connection (block 656b).

- If the total retransmit period is not yet expired ("no" exit to decision block 655), engine 244 reprocesses the frame to remove any expired data (block 657) and then retransmits it (block 658) – restarting the retransmit timer as it does so (block 659). The process then returns to sleep (block 660) to wait for the next event.

Example Internet Mobility Protocol expiration of a PDU

- Figure 12 block 657 allows for the requesting upper layer interface to specify a timeout or retry count for expiration of any protocol data unit (i.e. a SEND work request) submitted for transmission to the associated peer. By use of this functionality, Internet Mobility Protocol engine 244 maintains the semantics of unreliable data and provides other capabilities such as unreliable data removal from retransmitted frames. Each PDU (protocol data unit) 506 submitted by the layer above can specify a validity timeout and/or retry count for each individual element that will eventually be consumed by the Internet Mobility Protocol engine 244. The validity timeout and/or retry count (which can be user-specified for some applications) are used to determine which PDUs 506 should not be retransmitted but should instead be removed from a frame prior to retransmission by engine 244.
- The validity period associated with a PDU 506 specifies the relative time period that the respective PDU should be considered for transmission. During submission, the Internet Mobility Protocol Request/Work function checks the expiry timeout value. If it is non-zero, an age timer is initialized. The requested data is then queued on the same queue as all other data being forwarded to the associated peer. If the given PDU 506 remains on the queue for longer than the time period specified by the validity period parameter, during the next event that the queue is processed, the given (all) PDU(s) that has an expired timeout is removed and completed locally with a status code of "timeout failure" rather than being retransmitted when the frame is next retransmitted. This algorithm ensures that unreliable data being queued for transmission to the peer will not grow stale and/or boundlessly consume system resources.

In the example shown in Figure 12A, at least three separate PDUs 506 are queued to Internet Mobility Protocol engine 244 for subsequent processing. PDU 506(1) is queued without an expiry time denoting no timeout for the given request. PDU 506(2) is specified with a validity period of 2 seconds and is chronologically queued after PDU 506(1). PDU 506(n) is queued 2.5 seconds after PDU 506(2) was queued. Since the act of queuing PDU 506(n) is the first event causing processing of the queue and PDU 506(2) expiry time has lapsed, PDU 506(2) is removed from the work queue, completed locally and then PDU 506(n), is placed on the list. If a validity period was specified for PDU 506(n) the previous sequence of events would be repeated. Any event (queuing, dequeuing, etc) that manipulates the work queue will cause stale PDUs to be removed and completed.

As described above, PDUs 506 are collected by the Internet Mobility Protocol Engine 244 transmit logic and formatted into a single data stream. Each discrete work element, if not previously expired by the validity timeout, is gathered to formulate Internet Mobility Protocol data frames. Internet Mobility Protocol Engine 244 ultimately sends these PDUs 506 to the peer, and then places the associated frame on a Frames-Outstanding list. If the peer does not acknowledge the respective frame in a predetermined amount of time (see Figure 12 showing the retransmission algorithm), the frame is retransmitted to recover from possibly a lost or corrupted packet exchange. Just prior to retransmission, the PDU list that the frame is comprised of is iterated through to determine if any requests were queued with a retry count. If the retry count is non zero, and the value is decremented to zero, the PDU 506 is removed from the list, and the frames header is adjusted to denote the deletion of data. In this fashion, stale data, unreliable data, or applications employing their own

retransmission policy etc. not burdened by engine 244's retransmission algorithm.

- In the Figure 12B example, again three separate PDUs 506 are queued to Internet Mobility Protocol engine 244 for subsequent processing.
- 5 PDU 506(1) is queued without a retry count. This denotes continuous retransmission attempts or guaranteed delivery level of service. PDU 506(2) is queued with a retry count of 1 and is chronologically queued after PDU 506(1). PDU 506(n) is queued sometime after PDU 506(2). At this point, some external event (e.g., upper layer timeout timer, etc.) causes
- 10 engine 244's send logic to generate a new frame by gathering enough PDUs 506 from the work queue to generate an Internet Mobility Protocol data frame 500. The frame header 503 is calculated and stamped with a retry ID of 0 to denote that this is the first transmission of the frame. The frame is then handed to the NAL layer for subsequent transmission to the network.
- 15 At this point a retransmit timer is started since the frame in question contains a payload. For illustration purposes it is assumed that an acknowledgement is not received from the peer for a variety of possible reasons before the retransmit timer expires. The retransmit logic of engine 244 determines that the frame 500 in question is now eligible for
- 20 retransmission to the network. Prior to resubmitting the frame to the NAL layer, engine 244's retransmit logic iterates through the associated list of PDUs 506. Each PDU's retry count is examined and if non-zero, the count is decremented. In the process of decrementing PDU 506(2)'s retry count, the retry count becomes zero. Because PDU 506(2)'s retry count has gone
- 25 to zero, it is removed from the list and completed locally with a status of "retry failure." The frame header 503 size is then adjusted to denote the absence of the PDU 506(2)'s data. This process is repeated for all remaining PDUs. Once the entire frame 500 is reprocessed to produce an

"redied" frame 500, the retry ID in the header is incremented and the resultant datagram is then handed to the NAL layer for subsequent (re)transmission.

#### Example Reception

- Figures 13A-13D are a flowchart of example steps performed by Internet Mobility Protocol engine 244 in response to receipt of a "receive" event. Such receive events are generated when an Internet Mobility Protocol frame has been received from network 108. In response to this receive event, engine 244 pre-validates the event (block 670) and tests whether it is a possible Internet Mobility Protocol frame (decision block 671). If engine 244 determines that the received frame is not a possible frame ("no" exit to decision block 671), it discards the frame (block 672). Otherwise ("yes" exit to decision block 671), engine 244 determines whether there is a connection associated with the received frame (decision block 673). If there is a connection associated with the received frame ("yes" exit to decision block 673), engine 244 places the work on the connection receive queue (block 674), marks the connection as eligible to receive (block 675), and places the connection on the global work queue (block 676). If no connection has yet been associated with the received frame ("no" exit to decision block 673), engine 244 places the received frame on the socket receive queue (block 677) and places the socket receive queue on the global work queue (block 678). In either case, engine 244 signals a global work event (block 679). Upon dispatching of a "receive eligible" event from the global work queue (see Figure 13B), engine 244 dequeues the frame from the respective receive queue (block 680). It is possible that more than one DAP frame is received and queued before the Internet Mobility Protocol engine 244 can start de-queuing the messages.

Engine 244 loops until all frames have been de-queued (blocks 681, 682). Once a frame has been de-queued ("yes" exit to decision block 681), engine 244 validates the received frame (block 683) and determines whether it is okay (decision block 684). If the received frame is invalid, engine 244 discards it (block 685) and de-queues the next frame from the receive queue (block 685). If the received frame is valid ("yes" exit to decision block 684), engine 244 determines whether it is associated with an existing connection (block 686). If it is not ("no" exit to decision block 686), engine 244 tests whether it is a sync frame (decision block 687). If it is not a sync frame ("no" exit to decision block 687), the frame is discarded (block 688). If, on the other hand, a sync frame has been received ("yes" exit to decision block 687), engine 244 processes it using a passive connection request discussed in association with Figures 14A and 14B (block 688).

If the frame is associated with a connection ("yes" exit to decision block 686), engine 244 determines whether the connection state is still active and not "out of motion" (decision block 689). If the connection is already "out of motion," the frame is discarded (block 685). Otherwise, engine 244 parses the frame (block 690) and determines whether it is an short frame (decision block 691). If the frame is an short frame, engine 244 immediately aborts the connection (block 691a). If the frame is not an short frame ("yes" exit to decision block 691), engine 244 processes acknowledgment information and releases any outstanding send frames (block 692). Engine 244 then ports the frame to any security subsystem for possible decryption (block 693). Once the frame is returned from the security subsystem engine 244 processes any control data (block 694). Engine 244 then determines whether the frame contains application data (decision block 695). If it does, this data is queued to the application layer (block 696). Engine 244 also determines whether the connection's state is

downstream (block 697 and 697a -- this can happen on Mobility Management Server engine 244 in the preferred embodiment), and return state back to established.

- If the frame is possibly a "Morris" frame ("yes" exit to decision block 698), engine 244 indicates a "disconnect" to the application layer (block 699) and enters the "Morris" state (block 699a). It reads a "post mortem" frame to the peer (block 700), and enters the "post mortem" state (block 700a). Engine 244 then releases connection resources (block 701) and returns to sleep waiting for more work (block 702). If the parsed frame is a "post mortem" frame ("yes" exit to decision block 703), blocks 700a, 701, 702 are executed. Otherwise, control returns to block 680 to dequeue the next frame from the receive queue (block 704).

#### Example Passive Connections

- Blocks 14A-14B are together a flowchart of example steps performed by Internet Mobility Protocol engine 244 in response to a "passive connection" request. Engine 244 first determines whether there is another connection for this particular device (block 720). If there is ("yes" exit to decision block 720), the engine determines whether it is the initial connection (decision block 721). If peer believes the new connection is the initial connection ("yes" exit to decision block 721), engine 244 aborts the previous connections (block 722). If not the initial connection ("no" exit to decision block 721), engine 244 tests whether the sequence and connection ID match (decision block 723). If they do not match ("no" exit to decision block 723), control returns to decision block 720. If the sequence and connection ID do match ("yes" exit to decision block 723), engine 244 discards duplicate frames (block 724) and returns to step 680 of Figure 13B (block 725).

If there is no other connection ("no" exit to decision block 720), engine 244 determines whether it can allocate connection resources for the connection (decision block 726). If it cannot, an error is declared ("no" exit to decision block 726, block 727), and the connection is aborted (block 728). If it is possible to allocate connection resources ("yes" exit to decision block 726), engine 244 declares a "configure" state (block 726a) and acquires the security context for the connection (block 730). If it was not possible to acquire sufficient security context ("no" exit to decision block 731), the connection is aborted (block 728). Otherwise, engine 244 sends an established frame (block 732) and declares the connection to be in state "establish" (block 732a). Engine 244 then starts a retransmitter (block 733) and waits for the authentication process to conclude (block 734). Eventually, engine 244 tests whether the device and user have both been authenticated (block 735). If either the device or the user is not authenticated, the connection is aborted (block 736). Otherwise, engine 244 indicates the connection to the listening application (block 737) and gets the configuration (block 738). If either of these steps do not succeed, the connection is aborted (decision block 739, block 740). Otherwise, the process returns to sleep waiting for more work (block 741).

#### 20 Example Abnormal Termination

Figures 15A and 15B are a flowchart of example steps performed by the Internet Mobility Protocol engine 244 in response to an "abort" connection request. Upon receipt of such a request from another process (block 999) and dispatched via the queue (block 1000), engine 244 determines whether a connection is associated with the request (decision block 1001). If it is ("yes" exit to decision block 1001), engine 244 saves the original state (block 1002) and declares an "abort" state (block 1002a).



WU 6121261

PCT/JP01/0091

71

Engine 244 then determines whether the connection was indicated to the  
 RPC engine (decision block 1003) -- and if so, indicates a disconnect  
 event (block 1004). Engine 244 then declares a "post mortem" state (block  
 1005), releases the resources previously allocated to the particular  
 5 connection (block 1005), and tests whether the original state is greater than  
 the state pending (decision block 1006). If not ("no") exit to decision block  
 1006, the process transitions to block 1012 to return to the calling routine  
 (block 1007). Otherwise, engine 244 determines whether the request is  
 10 associated with a received frame (decision block 1008). If the short request  
 is associated with a received frame, and the received frame is an short frame  
 (decision block 1009), the received frame is discarded (block 1010).  
 Otherwise engine 244 will send an short frame (block 1011) before  
 returning to the calling routine (block 1012).

#### Example Roaming Control

15 Referring once again to Figure 1, mobile network 108 may comprise  
 a number of different segments providing different network interconnects  
 (107a-107k corresponding to different wireless transceivers 106a-106k). In  
 accordance with another aspect of the present invention, network 108  
 including Mobility Management Server 102 is able to gracefully handle a  
 20 "roaming" condition in which a Mobile End System 104 has moved from  
 one network interconnect to another. Commonly, network 108 topographies  
 are divided into segments (subnets) for management and other purposes.  
 These different segments typically assign different network (transport)  
 addresses to the various Mobile End Systems 104 within the given segment.  
 25 It is common to use a Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)  
 to automatically configure network devices that are newly activated on such  
 a subnet. For example, a DHCP server on the sub-net typically provides its

clients with (among other things) a valid network address to "lease". DHCP clients may not have permanently assigned, "hard coded" network addresses. Instead, at boot time, the DHCP client requests a network address from the DHCP server. The DHCP server has a pool of network addresses that are available for assignments. When a DHCP client requests  
5 as network address, the DHCP server assigns, or leases, an available address from that pool to the client. The assigned network address is then "owned" by the client for a specified period ("lease duration"). When the lease expires, the network address is returned to the pool and becomes  
10 available for reassignment to another client. In addition to automatically assigning network addresses, DHCP also provides networks and other configuration information to clients running DHCP client software. More information concerning the standard DHCP protocol can be found in RFC2131.

15 Thus, when a Mobile End System 104 using DHCP roams from one subnet to another, it will appear with a new network address. In accordance with one aspect of the present invention, Mobile End System 104 and Mobility Management Server 102 take advantage of the automatic configuration functionality of DHCP, and coordinate together to ensure that  
20 the Mobility Management Server recognizes the Mobile End System's "new" network address and associates it with the previously-established connection the Mobility Management Server is proxying on its behalf.

One example embodiment uses standard DHCP Discover/Offer client-server broadcast messaging sequences as an echo request-response, along with other standard methodologies in order to determine if a Mobile  
25 End System 104 has roamed to a new subnet or is out of range. In accordance with the standard DHCP protocol, a Mobile End System 104 requiring a network address will periodically broadcast client identifier and

WG 4221261

73

PCT/US02/261

hardware address as part of a DHCP Discover message. The DHCP server will broadcast its Offer response (this message is broadcast rather than transmitted specifically to the requesting Mobile End System because the Mobile End System doesn't yet have a network address to send to). Thus, any Mobile End System 104 on the particular subnet will pick up any DHCP Offer server response to any other Mobile End System broadcast on the same subnet.

This example embodiment provides DHCP listeners to monitor the DHCP broadcast messages and thereby ascertain whether a particular Mobile End System 104 has roamed from one subnet to another and is being offered the ability to acquire a new network address by DHCP. Figure 16 shows example DHCP listener data structures. For example, a Mobile End System listener data structure 902 may comprise:

- a linked list of server data structures,
- an integer transaction ID number (xid),
- a counter ("ping"), and
- a timeout value.

A server data structure 904 may comprise a linked list of data blocks each defining a different DHCP server, each data block comprising:

- a pointer to next server,
- a server ID (network address of a DHCP server),
- an address (global) of a BOOTP relay agent recently associated with this DHCP server,
- a "ping" value (socket -> ping), and
- a flag.

These data structures are continually updated based on DHCP broadcast traffic appearing on network 108. The following example functions can be used to maintain these data structures:

- `roomCreate()` [initialize variables]
- 5   • `roomReinitialize()` [delete all listeners]
- `roomStartIndications()` [call a supplied callback routine when a Mobile End System has roamed or changed interfaces, to give a registrant roaming indications]
- `roomStopIndications()` [remove the appropriate callback from the list, to stop giving a registrant roaming indications]
- 10   • `Interface Change` [callback notification from operating system indicating an interface has changed its network address]
- `Listener Signal` [per-interface callback from a Listener indicating a roaming or out-of-range or back-in-range condition].
- 15   Additionally, a refresh process may be used to update Listeners after interface changes.

- In the preferred embodiment, all Mobile End Systems 104 transmit the same Client Identifier and Hardware Address in DHCP Discover requests. This allows the listener data structures and associated processes to
- 20 distinguish Mobile End System-originated Discover requests from Discover requests initiated by other network devices. Likewise, the DHCP server will broadcast its response, so any Mobile End System 104 and/or the Mobility Management Server 102 will be able to pick up the DHCP server Offer response to any other Mobile End System. Since multiple DHCP
- 25 servers can respond to a single DHCP Discover message, the listener data structures shown in Figure 16 store each server response in a separate data block, tied to the main handle via linked list.

Upon receiving a Discover request having the predetermined Client Hardware Address and Client Identifier, the preferred embodiment recognizes this request as coming from a Mobile End System 104. If the message also has a BOOTP relay address set to zero, this indicates that the message originated on the same subnet as the listener. Listeners may ignore all DHCP Offers unless they have a transaction ID (xid) matching that of a Discover message recently sent by a Mobile End System 104. The listener can determine that a Mobile End System 104 has roamed if any response comes from a known server with a new BOOTP relay agent ID and/or offered network address masked with an offered subnet mask. Listeners add new servers to the Figure 16 data structures only after receiving a positive response from an old server. If a listener receives responses from new server(s) but none from an old server, this may indicate roaming (this can be a configurable option). If the listener fails to receive responses from new or old servers, the listener is out of range (this determination can be used to signal an upper layer such as an application to halt or reduce sending of data to avoid buffer overflow).

If the listener never receives a response from any server, there is no point of reference and thus impossible to determine whether roaming has occurred. This condition can be handled by signaling an error after a timeout and allowing the caller to retry the process. The preferred embodiment determines that a Mobile End System 104 has roamed if any response has come from a known server with a new BOOTP relay agent ID (or a new offered network address when masked with offered subnet mask). If the listener data structures see responses from new servers but none from an old server, it is possible that roaming has occurred, but there must be a delay before signaling, in order to wait for any potential responses from the old servers. If there are no responses from new or old servers, then the

Mobile End System 104 is probably out of range and Mobility Management Server 102 waits for it to come back into range.

Figure 17 is a flowchart of example steps of a Listener process of the preferred embodiment. Referring to Figure 17, a DHCP listener process is

- 5 created by allocating appropriate memory for the bundle, opening NAL sockets for the DHCP client and server UDP ports, and setting receive callbacks for both. A timer is then set (block 802) and then the process enters the "Wait" state to wait for a routing related event (block 804). Three external inputs can trigger an event:
  - 10 • a DHCP server packet is received;
  - a DHCP client packet sent by another Mobile End System is received
  - a timer timeout occurs.
- 15 If a DHCP server packet has been received, the packet is examined to determine whether its client identifier matches the predetermined client ID (decision block 806). If it does not, it is discarded. However, if the packet does contain the predetermined ID, a test is performed to determine whether the packet is a DHCP Offer packet (decision block 806). Offer packets are rejected unless they contain a transaction ID matching a recently
  - 20 sent DHCP Discover sequence.
- If the packet transaction ID matches (block 810), then a test is made as to whether the server sending the DHCP offer packet is known (i.e., the server ID is in the listener data structure shown in Figure 16) (block 812). If the server ID is not on the list ("no" exit to decision block 812), it is
  - 25 added to the list and marked as "new" (or "first" if it is the first server on the list) (block 822). If the server is already on the list ("Y" exit to decision block 812), a further test is performed to determine whether the packet BOOTP relay address ("G1ADDR") matches the server address

("GLADDR") (decision block 814). If there is no match, then the Offer  
 packet may be originating from a different subnet, and it is determined that  
 a "hard roam" has occurred (block 816). The caller application is signaled  
 that there has been a roam. If, on the other hand, decision block 814  
 5 determines there is a match in BOOTP relay addresses, then no roam has  
 occurred, the listener process stamps the server receive time, resets "new"  
 flags for all other servers on the list, and stores the current ping number  
 with the server (block 818, 820). The process then returns to "wait" period.  
 If the event is a received client packet, the listener process  
 10 determines whether the packet has the predetermined client ID, is a DHCP  
 Discover packet and has a BOOTP relay address (GLADDR) of 0 (blocks  
 824, 826, 828). These steps determine whether the received packet is  
 DHCP Discover message sent by another Mobile End System 104 on the  
 same sub-net as the listener. If so, the listener process then sets the  
 13 transaction ID to the peer's transaction ID (block 830) for use in comparing  
 with later-received DHCP Offer packets, calls a ping check (block 834) and  
 resets the timer (block 836).

In response to a timer timeout, the process calls a "ping check"  
 (block 838). "Pings" in the preferred embodiment are DHCP Discover  
 20 packets with a random new xid. Example steps for this ping check 838 are  
 shown in Figure 17A. The purpose of the ping check routine is to  
 determine if a "soft roam" condition has occurred (i.e., a Mobile End  
 System has temporarily lost and then regained contact with a sub-net, but  
 has not roamed to a different sub-net). The process determines whether  
 25 there is a sub-net roam condition, an out-of-range condition, or a "no  
 server" condition. In other words:

- Has a Mobile End System roamed from one sub-net to another?
- Is a Mobile End System out of range?

- Is a DHCP server absent?

These conditions are determined by comparing Mobile End System prior "ping" responses with the current "ping" response (decision blocks 846, 850). For example, if the current ping number minus the old server's last ping response is greater than the sub-net server pings and there is at least one server marked "new," there has been a sub-net roam to a different server. The result of this logic is to either signal a sub-net roam, and out of range condition or a no server condition (or none of these) to the calling process.

Figure 18 shows a flowchart of example steps performed by a Mobile End System 104 roaming control center. To enable roaming at the Mobile End System 104, the list of known addresses is initialized to zero (block 850) and an operating system interface change notification is enabled (block 853). The process then calls the operating system to get a list of current addresses that use DHCP (block 854). All known addresses no longer in the current list have their corresponding listeners closed (block 856). Similarly, the process opens listeners on all current but not known interfaces (block 858). The process then signals "roam" to registrars (block 860).

When the listener process of Figure 17 signals (block 862), the process determines whether the signal indicates a "roam", "out of range" or "back in range" condition (decision block 864, 870, 874). A roam signal ("yes" exit to decision block 864) causes the process to close corresponding listener 866 and call the operating system to release and renew DHCP lease to a network address (block 868). If the listener signals "out of range" (decision block 870), the process signals this condition to registrars (block 872). If the signal is a "back in range" (decision block 874), then this condition is signaled to all registrars (block 876). Upon receiving a



disabled roam command (block 878), the process closes all listeners (block 880) and disables the operating system interface change notification (block 882).

#### Example Interface Assisted Roaming Listener

5 A further, interface-based listener feature enables roaming across network points of attachment on the same network or across different network media. This interface-based listener feature operates without requiring the beaconing techniques described above, while permitting the system to fall back on beaconing if the underlying interface(s) is unable to support the appropriate signalling.

10 In this further embodiment, an interface-based listener integrates information from network interface adapters (e.g., via a low level interface roaming driver) with information available from network stacks to determine whether a mobile node has moved to a new Network Point of Attachment. Figures 19A & 19B show an example listener algorithm that  
15 may be used to efficiently determine the migration path of the mobile node. This process is shown using a single network interface connected to a single network medium, but can be used by itself or in conjunction with other roaming algorithms to traverse across many diverse network media and interfaces (e.g., to create a self-healing infrastructure using redundant  
20 paths).

Referring to Figure 19A, at system initialization time or when the network adapter driver loads (Figure 19A, block 2000), low-level interface roaming drivers register with the roaming control center module of Figure  
25 18 (block 2010). Such registration (which is made via the function `crRegisterCardHandler()` in the example embodiment) provides entry points for:

W U 0/523462

80

PC/TX/501/2001

- open,
- close,
- get status, and
- a Boolean set to TRUE if the driver can notify the registries of

5 changes in status, and FALSE if the roaming control center module should use timer-based (or other) polling to check status.

The example embodiment function `crRegisterCardHandler()` also provides a interface description string or token that can be used by the roaming control center module for preliminary match-ups to the correct roaming driver. A default roaming driver may also be installed for  
10 interfaces that use an OS generic mechanism for signaling/querying media connectivity as well as changes to network point of attachment.

In the example embodiment, when an interface's state becomes enabled (i.e. access to the network is now possible) (block 2030), the  
15 roaming control center tries to enable Interface Assisted Roaming (IAR) according to the following steps (please note however, that the steps may be interchanged or either might be omitted based on the design of the operating system (OS) and/or the hosting device being used in a particular application):

- 20 1. If a generic handler is installed, a call to the generic `crOpenInstance()` handler is made. The generic handler queries the low-level adapter driver to see if it can generically support signaling the status of media connectivity as well as any changes to the network point of attachment (block 2030). If the interface driver is unable to support this  
25 functionality generically ("no" exit to block 2030), an error status is returned to the caller to indicate that it should use an alternative mechanism for acquiring signaling information.

2. If the generic handler returns an error ("no" exit to block 2030), a search is made with the token of the activated interface through the currently registered roaming drivers (block 2040). If the interface matches one of the tokens that was registered during `crRegisterCellHandler()` phase (block 2050), the roaming control center calls the specific `crOpenInstance()` for that instance of the adapter. This function attempts to open the low level driver, poll once for status (media connectivity, and the network point of attachment ID), and set the periodic polling timer (if applicable). If the low level driver does not support the requests for some reason, an error is returned indicating that the roaming control center should use an alternate mechanism for acquiring signaling information.
3. If either of the previous steps is unable to achieve the required functionality, an error is returned to the roaming control center to signal that it should not use the IAR functionality and fall back to other roaming algorithms, such as the beaconing listener shown in Figures 17 & 17A, Mobile IP, or in some cases the currently attached network itself deals with roaming ("no" exit to block 2060, block 2999). Otherwise interface Assisted Roaming is enabled (block 2060) and the roaming control center follows the algorithm outlined below.
- Initially, the interface-assisted listener records current media connectivity status and network point of attachment identification information in a local data store (block 2060). Assuming the interface assisted subsystem is successful in providing roaming feedback, the subsystem waits for a status event (block 2100). The event can comprise, for example:
- a callback from the low level roaming driver,
  - a timed poll interval (blocks 2070, 2090), or

W04/023363

82

PCT/US03/2001

- a hint from network level activity (i.e. unable transmitting/receiving) (block 2080).

If the status of the interface signifies either a change in medium connectivity has occurred, or a change in network point of attachment

- 5 ("yes" exit to block 2110 or 2120 of Figure 19B), any clients of the roaming control center are notified of the state change using the following rules:

1. If the status signifies a change from being connected to the underlying network medium to being detached ("yes" exit to block 2120)

- 10 and there are no other paths to the peer, the listener concludes that the mobile end system has lost its connection, and the roaming control center signals its clients with a status of ROAM\_SIGNAL\_OUT\_OF\_CONTACT (block 2140).

2. If the status signifies that the interface has been reconnected to the medium, and the network point of attachment has not changed ("no" exit to block 2150 after "no" exit to block 2120) and a

- 15 ROAM\_SIGNAL\_OUT\_OF\_CONTACT was previously signaled, this indicates that the mobile end system had previously lost but has now reestablished contact with a particular network point of attachment. In this case, the roaming control center will revalidate any network address it may have registered or acquired for proper access (block 2170), and signals
- 20 ROAM\_SIGNAL\_ROAM\_SAME\_SUBNET (block 2180) to alert the roaming control center clients that a reattachment has occurred and that they should take whatever steps necessary to quickly reestablish transport level communications. For example, during the disruption in service it is possible
- 25 that some data may have been lost -- and the clients may need to act to recover such lost data.

3. If the status signifies that the interface is attached to the medium but the network point of attachment has changed ("yes" exit to block 2150),

WU 0121342

83

PC/T25012/2001

the roaming control center will signal its clients that a roaming condition has occurred. To more efficiently support handoffs between network point of attachments, the roaming control center in this example employs the use of a learning algorithm along with a local data-store. The data-store is normally populated dynamically (i.e. learning), but it can be seeded with static information (i.e., already learned information) to improve performance. The data-store itself maintains a list of network points of attachment identifiers, along with information such as network and media access address, network mask, etc. This "network topology map" assists the roaming control center in deciding the correct signal to generate to its clients.

Determination of the correct signal is done in the following manner in the example embodiment:

- a) A search is made through the network topology map data-store to determine if the interface has already visited this particular network point of attachment (block 2190). If a match is found ("yes" exit to block 2200), a further check is made to see if the network point of attachment is on the same network segment as the one that the interface was previously associated with. If the network segment is the same, the roaming control center generates a ROAM\_SIGNAL\_ROAM\_SAME\_SUBNET. This alerts the roaming control center clients that a handoff occurred and it should take whatever steps necessary to quickly reestablish network level communications as during the handoff it is possible that some data may have been lost.
- b) If during the search a match is found, but the new network point of attachment is not on the same network segment, then the listener concludes that the mobile end system has roamed to a different subnetwork. In this case, the roaming control center:

- acquires an address that is usable on the new network segment (block 2220). This may entail registering the current address to be valid on the new segment, (re)acquiring an address from a local server, having one statically defined, or using heuristics to determine that an address that was previously assigned is still valid. In the latter case, the roaming control center may determine that the interface is changing between a given set of network point of attachments and may not immediately relinquish or de-register the network address for performance reasons. In this example, there is a difference between acquiring an address on the network (e.g., via DHCP) or registering the address on the local network (e.g., via a foreign agent in Mobile IP). The roaming entity either (re)acquires (e.g., possibly establishing/updating a lease with the DHCP server) or registers the current address with a foreign agent (Mobile IP).

  - Generates a ROAM\_SIGNAL, ROAM signal to its clients (block 2230) indicating roaming to a different subnet.

    - o) If the search yields no match ("no" exit to block 2200), a new record is created in the local data-store populated with the network point of attachment's identifier, media access address, network mask and other ancillary information (block 2210). The roaming control center then executes blocks 2220 and 2230 to acquire and register a network address, and to generate a "roam" signal.

Since the interface-assisted roaming technique described above gives access to the underlying interface information, it is possible to employ an additional set of policy parameters (defined by the user and/or the system) that can enable automatic efficient selection of alternate valid network paths. If there is more than one network available at a time, the subsystem

WU 42/3363

85

PC/TX/03/28091

- can choose the path(s) with the least cost associated with it (i.e., a wide area network connection versus a local area connection). This can be done by a number of metrics such as, for example, bandwidth, cost (per byte), and/or quality of service. Such "least cost routing" techniques can provide advantages in terms of network connection quality, efficiency, and reduction in frame loss. For example, it is possible to provide a "make before break" handoff scheme based on other heuristics available (media connectivity, signal strength, retransmission rate, etc.), thus allowing continuous packet flow with minimal loss to and from the roaming node.
- 10 See policy management discussion below.

- Figure 20 shows an example interface assisted roaming topology node data structure. Figure 20 shows this data structure implemented as a linked list, but it could alternatively be represented as an array where the next and previous fields are omitted. In a wireless network infrastructure, the "NPOA" may, for example, be the MAC address of the access point or base station that the mobile node is associated with. In other networks, it may be the unique identifier of an intervening network interconnect (e.g., gateway, IWF, etc.). The data structure may be seeded with static information or dynamically learned. Other information may also be associated with each node (e.g., MTU size, latency, cost, availability, etc.)
- 15

#### **EXAMPLE FURTHER PROVISIONMENT TO HANDLE CERTAIN RACE CONDITIONS**

- Through further experimentation evidence has shown that some network adapters may erroneously signal that they are (re)connected to the median before they are totally registered on the network segment. In some instances during roaming events the storage area of where the network identifier is kept may not yet been updated, and thus it is possible for the
- 25

system to incorrectly believe that these adapters have roamed back onto the same subnet. Eventually, when the device finishes registering, the storage area is updated with the new network identifier, causing yet another ROAM signal to be generated. This scenario would correctly work if both pieces of information were gated together and only signaled once when the interface was finished registering with the network. However when polling it is difficult to determine when the network ID is valid if the "in contact with network" signal is generated previously.

In essence the roaming node may in fact be in media connectivity state since it can communicate at the media access level with the network, but in fact one cannot yet send any application data across the link since the registration process has not completed. Therefore, it is desirable to compensate for this condition. One way to provide such compensation is to determine peer connectivity by sending link confirmation frames, or what is more commonly known as an echo request/response packets. These echo or ping frames are generated by one peer (most likely the roaming node), to determine if two-way peer-to-peer connectivity is achievable. If the requesting peer receives a response frame to its request, it can be concluded that a duplex path has been achieved. At this point, the NPOA information can be regarded as valid until the next disconnect situation is realized. Other information, such as the reception of any frame from the peer on the interface in question, also allows the roaming node to assume the registration process has concluded and two-way communications is achievable.

Another race condition between the network interface and the underlying protocol stack situation has arisen that can sometimes cause a problem. It is possible for a device to have roamed to a new network segment and been signaled correctly from the interface below, but the



WU # 252392

PC#0000000001

57

transport stack itself has not made the necessary adjustments to its routing  
 table(s) for application data to flow. To compensate for this condition, an  
 additional signal ROAM\_SIGNAL\_ROUTE\_CHANGE, was added and is  
 generated whenever the underlying transport's routing table changes. When  
 5 this signal is indicated, the roaming subsystem client take whatever action  
 is necessary to determine if connectivity to the peer system is achievable.  
 This may entail the roaming client to enumerate through the underlying  
 transport's routing table to determine if the routing modification has  
 affected the communications path to the peer. Other more intrusive  
 10 algorithms, such as the ones described above, can also be used to confirm  
 that a two-way communication path exists between the peers.

#### Example Roaming Across Disjoint Networks

A further aspect of an example non-limiting preferred embodiment  
 of our invention provides an algorithm and arrangement for accessing the  
 15 MMS (Mobility Management Server) is what we call "disjoint networking"  
 mode. The new algorithm allows for dynamic/static discovery of alternate  
 network addresses that can be used to establish/continue communications  
 with an MMS – even in a disjoint network topology in which one network  
 may have no knowledge of network addresses for another network.

20 In general, the algorithm allows for a list of alternate addresses that  
 the MMS is available at to be forwarded to an MES (Mobile End System)  
 during the course of a conversation. Thus, the MMS uses a connection over  
 one network to send the MES one or more MMS network addresses or other  
 MMS identities corresponding to other networks. As one example, this list  
 25 can sent during circuit creation. It is also possible for the list to change  
 midstream. In this case, the list can be updated at any time during the  
 connection.

When the MES roams to another network, it uses the list of MMS "alias" addresses/identifications to contact the MMS from the new network point of attachment. This allows the MES to re-establish contact with the MMS over the new network connection even though the primary and auxiliary networks may not share any address or other information.

Figure 21 shows a simplified flowchart of this new technique.

Suppose that the MMS 102 is connected to two different disjoint networks or network segments N1 and N2. Suppose that the MES 104 is initially coupled to the MES 102 via network N1. Once a connection has been established between the MES 104 and the MMS 102 over network N1, the MMS 102 can send the MES 104 a list L of network addresses or other identifiers that the MMS is called on one or more other networks (e.g., network N2). The MES 104 receives and stores this list L. Then, when the MES 104 roams to another network (N2), it can access this stored list L and use it to efficiently re-establish communication with the MMS 102 over the new network (N2).

There are at least several uses for this new algorithm in addition to the ability to more efficiently obtain an alternative network address or other identifier for communicating with the MMS 102 over a disjoint network. One example usage is secure network operation. For example, using the algorithm shown in Figure 21, one can setup a secure network where the MMS 102 is used as a secure firewall/gateway from a multitude of networks (some/all may be wireless) and a corporate backbone, and allow for secure and seamless migration of the mobile node 104 between all disconnected networks. Think, for example, of the MMS 102 as a hub, with one fat pipe connecting to the corporate network and many thin spokes connecting many logically discrete networks. Since they are logically discrete, traffic

on one network segment cannot reach another, except through the MMS 102 (which can act as a router in this example).

Normally for a node to roam from network segment to network segment, there must be routing information/paths provided on each network segment (i.e. default route, etc) specifying how to get back to the "main public or initial address" used to connect the MMS 102. Once a connection is established, that address is used for the life of the connection. When a frame is sent from the MMS 104, the IP network (layer 3) infrastructure on the client and intermediary nodes (routers) looks at the destination address of the frame and correctly forwards the packet on to its ultimate destination (the MMS 102). This is done by using what is commonly referred to as IP forwarding, or IP routing. With this functionality turned on, frames (broadcasts, etc) from one network segment can leak onto another. By not using IP forwarding, frames sent on one segment are not forwarded onto the other, thus breaking the communications pipe or creating a disjoint network.

The alternate address list shown in Figure 21 has the effect of pushing or distributing some of the routing intelligence out to the MMS 104. Each segment therefore can be kept discrete and without knowledge of any other segment attached to the MMS 102. The MMS 104 can be authenticated by the MMS 102 so that the MMS only sends a list L to authorized MMS units 104. When the MMS 104 roams onto another network segment, it can automatically select the correct address to use to initiate/continue communications with the MMS middleware, thus solving the disjoint network problem, and not require any changes to the routing infrastructure. This provides for a more secure computing environment by only letting validated users to gain access to the network.

For example, by using the MMS 102 in this manner combined with user level security/encryption, we can limit traffic from and to the corporate

backbone to only the frames destined for those nodes on this segment using the roaming techniques described above. Frames can be optionally encrypted to thwart any potential eavesdropping by devices that may be validated by the spoke network infrastructure.

- 5 Figure 22 shows an example. In Figure 22, the MMS 102 is attached to four separate and distinct networks (Ia, Ib, Ic, Id) without any interconnectivity or route information shared. For all intents and purposes, each network I is an island. Now envision an MES 104 being docked to one of the networks (e.g., Ic) using a wired connection on the corporate backbone.
- 10 For example, suppose that the MES 104 acquires an address on the 192.168.x.x network to communicate with the MMS 102.

- Now suppose that for some reason, the MES now needs to migrate or roam to the 10.1.x.x (Ia) network. Since the 10.1.x.x (Ia) network has no knowledge of the 192.168.x.x (Ib) network (i.e. no route to it), when the
- 15 MMS 104 moves into its domain, the communication pipe is broken even though the MMS is attached to it. Again, the same thing happens when the mobile node 104 attaches to any of the other 10.x networks depicted.

- Now using the algorithm shown in Figure 21, the MMS 102 at connection initiation time (or by some other method) shares its interfaces
- 20 address on each of the various disjoint networks Ia, Ib, Ic, Id with the MES 104 and the MES records these. Once recorded, if the MES 104 roams into any one of the networks and detects that it has roamed onto a new network segment, the MES can now select the appropriate network address to communicate with the MMS for that network segment. If more than one
- 25 address can be used, the MES 104 can select the appropriate address to use based on a number of metrics such as speed, cost, availability, hops, etc. As MES 104 that has not received a list as in Figure 21 may be effectively

prevented from routing between the various networks because it has no way to contact the MMS over any network other than its "home" network.

Another application for the Figure 21 technique is in distributed network interfaces. In today's networks, folks have deployed what is known as Network Address Translators (NATs). By use of this conventional technology, one can have many network devices use only one public network address for access to information on the Internet. The technology provides this functionality by framing all information and queries destined to the Internet through a single flow device(s). The device(s) records the request at the network layer, then renames the address and port information in the packet to the device's own address/port tuple and sends it onto its destination. Upon reception of a frame from the Internet or other such network, the device(s) does the reverse look and forwards it back to the correct source by replacing its address/port tuple information with that of the initiating device. These mappings may be defined statically also at the NAT.

Suppose someone wants to use the MMS 102 for the LAN/WLAN internally and have it sit behind a NAT. Currently, unless the MMS 102 is the NAT, or by using a different proxy for all communications with the MMS, when someone roams outside of the bounds of the intranet, the MMS is no longer accessible since the address to converse with it is no longer accessible. With the Figure 21 algorithm, one can statically/dynamically define another interface address that is not directly attached to the MMS. Therefore, using the algorithm described above, the MMS 104 can now automatically select the appropriate disjoint address to use when attaching to a network that is outside the intranet's domain.

Figure 23 illustrates this scenario. Suppose a node migrates from interface "d" to interface "g". Just supplying the MMS 102 local interfaces

would not allow access. The MMS 104 needs a priori knowledge of the distributed interface. It can then select the necessary address to use on interface "a". The NAT 2000 will then do the appropriate translation of network address/port information on each packet to the internal interface "c" address. The reverse operation will happen on frames sent by the MMS 102 to the MMS 104.

#### Example Policy Management and Location Based Services

A further non-limiting embodiment of the invention provides the unique ability to offer additional security, cost savings, and services based on a number of metrics. Since the MMS described above is intimately involved with each application session the MMS establishes, either side (i.e., the MMS and/or the MMS) can apply policy-based rules to tailor and control the communications between the MMS and its ultimate peer. It can further condition or modify applications request based on the locale or proximity of the device and its attachment to the network. For example, the MMS and/or the MMS can include a rules engine that applies learned, statically defined, or other rules based on policy to each application session that is established or request that is attempted. The MMS can further distribute some, none or part of such rules and/or processing to the MTS to provide further metering or security against rogue attacks of the mobile device. Unlike certain other policy management technology available in a distributed topology, the MMS provides a central place to administer the rules and policy decisions and have them distributed to the remote device at any time during the course of a conversation/transaction.

The rules themselves can be configured based on user, user group, device, device group, process, application identity and/or network point of attachment. Once defined (learned), they can be combined to govern and

control a variety of different events, activities, and/or services, including for example:

- denying, allowing or conditioning ingress access to the remote device;
- denying, allowing or conditioning access to specific network resources based on identity;
- denying, allowing or conditioning access to available or allowable bandwidth;
- denying, allowing or conditioning access to other network resources and/or
- modifying, conditioning or changing content or information.

Such decisions can be based on any of various different factors including for example:

- proximity, location, altitude and/or other characteristics of the mobile device;
- time of day;
- application or process identity, address, etc;
- application behavior (e.g., bandwidth requirements);
- current network conditions; and/or
- other static or dynamic factors.

Furthermore by employing the distributed architecture, the MMS can also apply or share the same decision set. Having the MMS perform the policy management processing and/or decision making may be desirable in instances where the mobile device has limited processing power to execute the engine or bandwidth limitations are applicable, or for security purposes.

Figure 24 shows an example table of the some metrics (rules) that might be used to control a sample MMS. This table may be populated either

statically or dynamically, and maybe updated anytime before, during, or after the connection/conversation. For example, a person could use a rules editor (e.g., a wizard) other mechanism to define entries in the table. In other example arrangements, the metrics could be automatically defined by the system based on learning, or could be dynamically changed based on changing conditions. The rules also have a priority assigned to them whether implied by the location in the table or specifically designated by an assignment. This priority allows the engine to correctly determine the expected behavior. Additional user interface functions allow the system administrator and or user of the device to interrogate the rules engine and test out the functionality of a given rule set.

The Figure 24 example table shows a number of example metrics on which policy management decisions may be based, including:

- MMS communications capability (transmit only, receive only, or transmit and receive);
- Whether the MMS request is proxied;
- MMS source port;
- MMS source address;
- MMS destination port;
- MMS destination address;
- MMS protocol;
- Amount of bandwidth available;
- Process name(s), identities or other characteristics;
- Network name(s), identities or other characteristics;
- Location (e.g., GPS coordinates or other location information);
- Network point of attachment;
- User identity name, identity or other characteristic;



• Other metrics.

It will be appreciated that the invention should not be limited by the scope of the metrics entries in the example table as it is not meant to be an exhaustive list. The entries can be specific as in this example or use a

- 5 generic mechanism (e.g., wildcards) to describe the desired behavior of the mobile node with regards to network access and entitlements.

The Figure 24 example table further includes a "deny request" entry that indicates the result of a policy management decision to be made based on the metrics. As one example, the particular example entries in the Figure 24 table specify that all connections to destination ports 20 and 21 should be denied or throttled back if the available bandwidth is reduced to less than 100,000 bytes per second. Furthermore, in the particular example shown, rules (rows) 3 and 4 allow only network traffic to flow to and from the MMS (all other network traffic that is not provided is implicitly discarded).

- 10 In one example, before each RPC request or frame is processed, the rules engine is consulted to determine if the status of the operation. Based on the outcome of this process, the request may be allowed, denied or delayed. Figure 25 is an example flowchart of steps that may be performed by the MMS and/or the MUIS to make policy management decisions.

- 20 Furthermore by combining the roaming technology outlined previously with other location or navigational information that may be available, the MMS detects when a mobile end system has moved from one point of attachment to another. By combining this information in conjunction with the ability of the mobile end system to detect a change in environment of network topology, or local enable the invention provides additional levels of location based monitoring and services.

25 To fully realize the potential of this information, enhancements to both the Internet Mobility Protocol and RPC engine are outlined. Several

new RPC protocol and configuration enhancements will be added to provide this functionality. These are listed below.

**Example Location Change RPC**

- When the mobile end system has determined that it has moved to a new point of attachment using interface assisted roaming or some other method such as detecting changes from a global positioning system, it will send a formatted "Location Change RPC Request" message to its peer, in this case the mobility management server. The "Location Change RPC" formats one or more of the point of attachment identification information into a type, length, value format. The type identifies the kind of identification information, types supported will include but not be limited to 48 bit IEEE MAC Addresses, IPv4 Addresses, IPv6 Addresses, longitude, latitude, altitude, and attachment names in ASCII. The length indicates the length in bytes of the identification data, and the data contains the actual point of attachment identification. The mobility management server upon receipt of the "Location Change RPC Request" will build a "Location Change Alert" that contains the point of attachment identification and other pertinent information such as the mobile end system identification, the user name, and PID. It then will forward the alert to the alert subsystem on the server. The alert will be formatted with the same type, length, data format utilized within the "Location Change RPC Request". The alert subsystem will then forward the location change alert with this information to all applications that have registered for the alert. Applications that have registered for the alert may include monitoring applications such as the current active status monitor, a long-term activity log, the policy management engine, and other third party applications and network management tools. One such third party application may combine

this location information with Web based maps to provide detailed information about a mobile end system's or MMS location. In addition to such applications, other actions can be associated with location change alerts. This includes sending an email, printing a message, launching a program and/or change in policy.

The Location Change RPC will contain a field in its header that indicates if it was triggered due to location change, distance change, or rate change.

- In some instances, the MES may not know it has roamed. Depending on the medium and the network adapter it is attached to, the MMS may be the only entity that notices that the MES has migrated to a new point of attachment. Consider the case of a mobile router. The addresses behind the router stay the same, only the router address changes. In this case, the MMS knows the new care of address of the MES. Therefore, for example, motion detection it needs to be a combination of the both the MES and MMS to detect motion. In the present embodiment, the MMS detects motion of the clients at the DMP layer when the source address changes and a new JMP message is received. When this occurs, the MMS locally generates a Location Change Alert. It also sends a message back to the MES that its point of attachment has changed.

#### Example Topology RPC

- The "Topology RPC Request" is sent from the mobility management server to mobile end systems. Upon receipt of this RPC the mobile end system will read the topology information stored in its local data store and build a Topology RPC Response. The Topology RPC response will be formatted with a Total Length Field followed by consecutive type, length, data point of attachment identification followed by type, length, value data

WU4123262

98

PCT/US02/28041

indicating the subnet and network information. This information may be used on the server to build a complete topological map of the mobile network being served by the server.

#### Example Location Information UI

- 5 The user interface on the server will provide a method for mapping and displaying location information. This location information will be available for each active mobile end system and the long-term activity log will maintain a history of all active and previously active mobile end system location changes. The user interface will permit the system administrator to
- 10 configure the point of attachment information in human readable form. For example, if the point of attachment information is provided in the form of a 48-bit IEEE MAC address the MAC address will be displayed along with the information provided through the user interface on the server. If the point of attachment represented an access point in front of the "HallMark
- 15 Cards" store it might be configured to present the following information "HallMark, Street Address, City, State, Zip". When displayed to the user, information "HallMark, Street Address, City, State, Zip" is presented.

#### Example Location RPC Timer

- A configurable timer is provided on the mobile end system to limit the rate at which Location Change RPCs may be sent from the mobile end
- 20 system to the mobility management server. If the timer interval is larger than the rate at which the point of attachment changes are occurring, the mobile end system will wait until the timer interval expires before generating another Location Change RPC.

#### Example Distance Change Notification

A distance metric will be provided for triggering the generation of Location Change RPCs. This setting configures the system to send an update when the user moves three dimensionally every a fixed time, kilometer, or other appropriate unit of measure from the last point of origin. By default this setting is disabled. Enabling this setting causes a Change Notification when the distance interval in the configuration is exceeded.

#### Example Rate Threshold Notification

A rate change metric will be provided for triggering the generation of Location Change RPCs. This parameter is configured in distance per second such as miles per hour. It will specify an upper and lower bounds and a time interval that the attained rate must be sustained (e.g. 0 MPH for 10 minutes or 70 MPH for 1 minute). When this speed is reached a Location Change Notification will be generated.

#### EXAMPLES

The present invention finds application in a variety of real-world situations. For example:

#### Intermittently Connected Portable Computer

Many businesses have employees who occasionally telecommute or work from home. Such employees often use laptop computers to get their work done. While at work, the employees typically connect their laptop computers to a local area network such as an Ethernet through use of a docking port or other connector. The LAN connection provides access to network services (e.g., printers, network drives) and network applications (e.g., database access, email services).

Now suppose an employee working on a project needs to go home for the evening and wants to resume working from home. The employee can "suspend" the operating system and applications running on the laptop computer, pack up the laptop computer, and bring the laptop computer home.

Once home, the employee can "resume" the operating system and applications running on the laptop computer, and reconnect to the office LAN via a dialup connection and/or over the Internet. The Mobility Management Server (which continued to proxy the laptop computer via a-  
vis the network and its applications during the time the laptop computer was temporarily suspended) can re-authenticate the laptop computer and resume communicating with the laptop computer.

From the perspective of the employee now working from home, all of the network drive mappings, print services, email sessions, database queries, and other network services and applications, are exactly where the employee left them at the office. Furthermore, because the Mobility Management Service continued to proxy the laptop computer's sessions, none of those network applications terminated the laptop computer's sessions during the time the employee was traveling from the office to home. The invention thus provides efficient persistence of session across the same or multiple network mediums that is very powerful and useful in this and other contexts.

#### Mobile Inventory and Warehouse Application

Imagine a large warehouse or retail chain. Within this company, inventory workers use vehicle mounted (i.e., trucks and forklifts) personal laptop computers and handheld data collection units and terminals to perform inventory management of goods. Warehouse and retail workers are

often inexperienced computer users that do not understand network subnets and require management supervision. The present invention allows the creation of a turnkey system that hides the complexity of the mobile network from the warehouse users. The users can move in and out of range of access points, suspend and resume their Mobile End System 104, and change locations without concern for host sessions, network addresses, or transport connections. In addition, the management software on the Mobility Management Server 102 provides management personnel with metrics such as number of transactions, which may be used to gauge worker productivity. Management can also use the network sub-net and access points to determine worker's last known physical location.

#### Mobile Medical Application

Imagine a large hospital using radio LAN technology for network communications between several buildings. Each building is on a unique sub-net. The present invention enables nurses and doctors to move from room to room with handheld personal computers or terminals -- reading and writing patient information in hospital databases. Access to the most recent articles on medication and medical procedures is readily available through the local database and the World Wide Web. While in the hospital, pagers (one and two way) are no longer required since the present invention allows continuous connection to the Mobile End System 104. Messages can be sent directly to medical personnel via the Mobile End System 104. As in the case with warehouse workers, medical personnel are not required to understand the mobile network they are using. In addition, the Mobile End System 104 allows medical personnel to disable radio transmission in areas where radio emissions are deemed undesirable (e.g., where they might

interfere with other medical equipment) -- and easily resume and reconnect where they left off.

#### Trucking and Freight

- Freight companies can use the present invention to track inventory. While docked at a warehouse, the Mobile End System 104 may use LAN technology to update warehouse inventories. While away from local services, the Mobile End System 104 can use Wide Area WAN services such as CDPD and ARDIS to maintain real time status and location of inventory. The Mobile End System 104 automatically switches between network infrastructures -- hiding the complexity of network topology from vehicle personnel.

#### Mobile Enterprise

- Corporate employees may use the system in accordance with the present invention for access to E-mail, web content and messaging services while within an enterprise campus that has invested in an infrastructure such as 802.11. The cost of ownership is reduced since pager service and other mobile device services are no longer required. The purchase of mobile infrastructure is a one time capital expense as opposed to the costly "pay-per-use" model offered by many existing mobile device services.

#### IP Multitenancy

- If an organization has a LAN that needs to be connected to the Internet, the administrator of the LAN has two choices: get enough globally assigned addresses for all computers on the LAN, or get just a few globally assigned addresses and use the Mobility Management Server 102 in accordance with the present invention as an address multiplexer. Getting a large number of IP addresses tends to be either expensive or impossible. A



small company using an Internet Service Provider (ISP) for access to the Internet can only use the IP addresses the ISP assigns -- and the number of IP addresses limits the number of computers that can be on the Internet at the same time. An ISP also charges per connection, so the more computers  
5 that need to be on the Internet, the more expensive this solution becomes.

Using the Mobility Management Server 102 in accordance with the present invention as an address multiplier could solve many of these problems. The enterprise could get the Mobility Management Server 102 on hardware that is connected to the Internet via an ISP. Mobile End  
10 Systems 104 could then easily connect. Because all connection to the Internet would go through the Mobility Management Server 102, only one address from the ISP is required. Thus, using the present invention as an address multiplier allows the enterprise to get just a few (in many cases one) addresses and accounts from the ISP, and allows the entire LAN to have  
15 simultaneous connections to the Internet (assuming enough bandwidth is provided).

While the invention has been described in connection with what is presently considered to be the most practical and preferred embodiment, it is to be understood that the invention is not to be limited to the disclosed  
20 embodiments, but on the contrary, is intended to cover various modifications and equivalent arrangements included within the scope of the appended claims.

## WHAT IS CLAIMED IS:

1. A mobile computing network including at least one mobile  
computing device coupled to the network via a network point of attachment,  
characterized by a policy-management arrangement that applies policy  
management rules based on various metrics including mobile computing  
device location.
2. A network as in claim 1 further characterized in that processing of  
the attributes of the rules can be distributed and applied at either the mobile  
computing device and/or the mobility management server or both.
3. A network as in any of the preceding claims further characterized  
in that prioritization of the rules is either implied by position in the entry in  
such table or explicitly sorted by an ordinal ensuring the expected behavior.
4. A network as in any of the preceding claims further characterized  
in that datagrams for the rule attributes is locally or centrally administered via  
central management services.
5. A network as in any of the preceding claims further characterized  
in that behavior of a particular application(s) is modified based on a number  
of metrics including cost of service, network point of attachment, trust  
relationship, etc.
6. A network as in any of the preceding claims further characterized  
in that the effect of the behavior modification is to allow, deny or delay a  
request based on attributes of the rules.
7. A network as in any of the preceding claims further characterized  
in that even if the application is already started, a rule or set of rules is  
invoked to modify the application(s) processes.

8. A network as in any of the preceding claims further characterized in that point of presence information (location) is further used to govern application behavior or provide relevant information to the mobile computing device.
- 5 9. A network as in any of the preceding claims further characterized in that rate of motion along with distance measurements is used to alter behavior of applications or the communication path.
10. A network as in any of the preceding claims further characterized in that topological information is extracted and displayed as result of the location information.
- 10 11. In a mobile computing network including at least one mobile computing device coupled to the network via a network point of attachment, an improvement comprising an interface-assisted roaming listener that detects, based at least in part on identification of the network point of attachment, whether said mobile computing device has roamed to a different network segment.
- 13 12. A network as in claim 11 wherein said mobile computing device includes a network interface adapter, and said listener obtains said network point of attachment identification from said network interface adapter.
- 20 13. A network as in claim 11 wherein said listener maintains a network topology map storing information that correlates said network point of attachment identification with further information concerning a network connection.
- 25 14. A network as in claim 11 wherein said listener detects when communications with said network is interrupted or reestablished.

15. A network as in claim 14 wherein said listener generates a roam signal in response to detection of (a) network communications interruption and re-establishment, and (b) change of said network point of attachment identification.
- 5 16. An interface-based listener for use in a mobile computing device, said interface-based listener integrating information from at least one network interface adapter with information available from at least one network stack to determine whether said mobile computing device has moved to a new network point of attachment.
- 10 17. The interface-based listener of claim 16 including a network topology map providing network connection information including network points of attachment information.
18. The listener of claim 17 wherein said listener dynamically constructs said network topology map based on learned information.
- 15 19. The interface-based listener of claim 16 including a status checker that checks status based on occurrence of an event.
20. The interface-based listener of claim 16 wherein said event comprises any of a timer timeout, a low level roaming driver callback, and a network level activity hint.
- 20 21. The interface-based listener of claim 16 including a connection information searcher that queries an interface as to whether the mobile computing system has already visited the current network point of attachment.

WO 01/23343

107

PCT/US2001/00491

22. The interface-based listener of claim 16 including a connection arrangement that registers or rescquires a current address to be valid on a new network segment.

23. The interface-based listener of claim 16 including a roam signal generator that generates a roam signal in response to detection, based at least in part on information provided by an interface, that the mobile computing device has roamed to a different network segment.

24. The interface-based listener of claim 23 further including a heuristic analyzer that determines whether a previously assigned address is still valid.

25. A method of determining whether a mobile node has moved to a new network point of attachment, comprising:

(a) receiving network point of attachment identification information from a network interface;

(b) using said network point of attachment identification information to determine whether said mobile node has moved to a new network point of attachment; and

(c) generating signaling in response to said step (b).

26. A method as in claim 25 further including maintaining a network topology map, and using said map to perform step (c).

27. A method as in claim 25 wherein said step (c) includes generating a roam signal.

28. A method as in claim 25 wherein said step (b) includes obtaining  
said network point of attachment information from a network adapter.
29. A method as in claim 25 further including falling back to an  
alternative roaming detection mechanism if a network interface is not  
5 available that supports generic signaling.
30. A method as in claim 25 further including selecting, at least in  
part in response to said network point of attachment information, between  
alternate network connection paths.
31. A method for facilitating communication with a mobile system  
10 over disjoint networks comprising:
- establishing communications between a node and said mobile system  
over a first network;
- sending to the mobile system over the first network, data identifying  
the node as at least a second network disjoint from the first network; and
- 15 using the data to establish communication between the mobile  
system and the node over the second network.
32. The method of claim 31 further including authenticating the  
mobile system for authorization to communicate with the node over the  
second network before sending the data to the node over the first network.
- 20 33. The method of claim 31 wherein the sending step comprises  
sending distributed interface data to the mobile system over the first  
network.

34. A network as in claim 12 wherein said mobile computing device network interface adapter is physically attached to said network.

35. A network as in claim 12 wherein said mobile computing device communicates wirelessly with the network point of attachment.

5 36. A method for maintaining communication between a mobile computing system and a network node as the mobile computing system roams between over plural disjoint networks comprising:  
establishing communications between the mobile system and a node via a first network segment;

10 sending the mobile computing system, via the first network segment, information for use in re-establishing communications with said node via plural further network segments each of which are disjoint from the first network segment; and

15 using said information to re-establish communications between the mobile computing system and the node via any of said plural further, disjoint network segments.

37. The process of claim 36 wherein said information comprises distributed interface data.

20 38. A process for providing least cost routing in a network having plural disjoint segments, comprising:

WU 0123363

110

PC/TUSML/28/991

(a) establishing communications between the network and a temporarily-attached mobile computing device;

(b) using a roaming mechanism to allow the temporarily-attached mobile computing device to roam between said plural disjoint segments;

5 and

(c) enforcing at least one policy parameter to enable efficient automatic selection of alternate valid network paths for re-establishing communication between the network and the mobile computing device in response to mobile computing device roaming.

10 39. The process of claim 38 wherein the policy parameter comprises an element selected from the following group: bandwidth, cost per data unit and quality of service.

15 40. In a mobile computing network including at least one peer computing system and at least one mobile computing device coupled to the network via a physical link, an improvement comprising a server coupled to the network, said server proxying communications between the mobile computing device and the peer computing system so as to maintain a continuous virtual data stream connection between the mobile computing device and the peer computing system during times when the physical link  
20 to the mobile computing device is temporarily interrupted

41. A network as in claim 40 wherein said mobile computing device has a point-of-presence address on said network, said peer computing



WU 012345

111

PCT/US01/28091

system communicates with said server using a virtual address, and said server maps said virtual address to said point-of-presence address.

42. A network as in claim 41 wherein said server detects when said mobile computing device has changed its point-of-presence address, and re-maps said virtual address to said changed point-of-presence address.

43. A network as in claim 40 wherein said server queues and responds to requests from said peer computing system on behalf of said mobile computing device during times when said mobile computing device is temporarily unreachable or roaming.

44. A network as in claim 40 wherein said server communicates with said mobile computing device using a conventional transport protocol.

45. A network as in claim 44 wherein said server communicates with said mobile computing device using remote procedure calls.

46. A network as in claim 44 wherein said server communicates with said mobile computing device using an Internet Mobility Protocol.

47. A network as in claim 46 wherein said Internet Mobility Protocol provides for automatic removal of datagrams based on user-configurable timeouts.

48. A network as in claim 46 wherein said Internet Mobility Protocol provides for automatic removal of datagrams based on user-configurable metrics.

49. A network as in claim 40 wherein said server performs per-user policy management of consumption of network resources by said mobile computing device.

50. A network as in claim 40 wherein said server provides user-configurable session priorities for said sessions of said mobile computing device.

51. A network as in claim 40 wherein said mobile network includes plural sub-networks, and said mobile computing device uses Dynamic Host Configuration Protocol along with other methodologies to allow said mobile computing device to roam from one of said plural sub-networks to another of said plural sub-networks.

52. A network as in claim 40 wherein said server comprises a Mobility Management Server.

53. A network as in claim 40 further including at least one mobile interconnect coupling said mobile computing devices to said server.

54. A method of maintaining a persistent connection with at least one mobile computing device in a mobile computing environment, said method including:  
managing at least one session between said mobile computing device and at least one further computing device, and  
maintaining the session when the mobile computing device becomes unreachable, suspends or changes network address.

55. A method as in claim 54 further including providing at least one user configurable session priority for said session.

56. A method as in claim 54 wherein said managing step includes managing consumption of network resources by said mobile computing device.

57. A method as in claim 54 wherein the mobile computing environment includes plural sub-networks, and said maintaining step uses Dynamic Host Configuration Protocol to maintain the session when said mobile computing device roams between said sub-networks.
58. A method as in claim 54 wherein said managing step communicates datagrams with said mobile computing device and automatically removes unreliable ones of said datagrams based on at least one user configurable parameter.
59. A method as in claim 58 wherein said user configurable parameter comprises a timeout.
60. A method as in claim 58 wherein said user configurable parameter comprises a user configurable retry number.
61. A method as in claim 54 further including providing said mobile computing device with a variable point of presence address, and wherein said managing step includes mapping said variable point of presence address to a virtual address, the session being associated with the virtual address.
62. A method as in claim 54 wherein said managing step includes using a Remote Procedure Call protocol to communicate with the mobile computing device.
63. A method as in claim 54 wherein said maintaining step maintains the connection state of said session during interruptions in a physical link connecting said mobile computing device with said mobile computing environment.

64. A method as in claim 54 wherein said managing step includes communicating with said mobile computing device using at least one standard transport protocol.

65. A method as in claim 54 wherein said mobile computing device includes plural application sources, and said managing step includes coalescing data from said plural application sources into a stream, and forwarding said stream.

66. A method as in claim 65 further including demultiplexing said coalesced data from said stream and forwarding said demultiplexed data to plural associated destinations.

67. A method as in claim 65 wherein said stream includes frames, and said coalescing includes dynamically resizing said frames to accommodate a maximum transmission unit of the mobile computing environment.

68. A method as in claim 65 wherein said coalescing includes maintaining semantics of unreliable data, and detecting discarding said unreliable data based on said semantics.

69. A method as in claim 54 wherein said managing step includes providing guaranteed delivery of messages to and/or from said mobile computing device.

70. A method as in claim 54 wherein said managing step includes controlling which network resources are accessible by said mobile computing device.

71. A server for maintaining a persistent connection with at least one mobile computing device in a mobile computing environment including at least one further computing device, said server including:  
a session manager that manages at least one session between said mobile computing device and said at least one further computing device, said session manager maintaining the session when the mobile computing device becomes unreadable, suspends or changes network address.
72. A server as in claim 71 wherein said session manager includes a session priority queue that provides at least one user configurable session priority for said session.
73. A server as in claim 71 wherein said session manager includes means for managing consumption of network resources by said mobile computing device.
74. A server as in claim 71 wherein the mobile computing environment includes plural sub-networks, and said session manager uses Dynamic Host Configuration Protocol to maintain the session when said mobile computing device roams between said sub-networks.
75. A server as in claim 71 wherein said session manager communicates datagrams with said mobile computing device and automatically removes unreliable ones of said datagrams based on at least one user configurable parameter.
76. A server as in claim 75 wherein said user configurable parameter comprises a timeout.
77. A server as in claim 75 wherein said user configurable parameter comprises a user configurable retry number.

78. A server as in claim 71 wherein said mobile computing  
environment provides said mobile computing device with a variable point of  
presence address, and said session manager maps said variable point of  
presence address to a virtual address, the session being associated with the  
5 virtual address.

79. A server as in claim 71 wherein said session manager uses a  
Range Procedure Call protocol to communicate with the mobile computing  
device.

80. A server as in claim 71 wherein said mobile computing  
10 environment includes at least one physical link connecting said mobile  
computing device with said mobile computing environment, and said  
session manager maintains the connection state of said session during  
interruptions in said physical link.

81. A server as in claim 71 wherein session manager communicates  
15 with said mobile computing device using at least one standard transport  
protocol.

82. A server as in claim 71 wherein said mobile computing device  
includes plural application sources, and said session manager coalesces data  
associated with said plural application sources into a stream, and forwards  
20 said stream.

83. A server as in claim 71 wherein said mobile computing device  
includes plural application sources, and said session manager demultiplexes  
coalesced data from said plural application sources and forwards said  
demultiplexed data to plural associated destinations.

84. A server as in claim 71 wherein session manager communicates with said mobile computing device using frames, and dynamically resizes said frames to accommodate a maximum transmission unit of the mobile computing environment.

5 85. A server as in claim 71 wherein said session manager maintains semantics of unreliable data, and selectively discards said unreliable data based on said semantics.

86. A server as in claim 71 wherein said session manager provides guaranteed delivery of messages to and/or from said mobile computing device.

10 87. A server as in claim 71 wherein said session manager places controls on mobile computing environment resources said mobile computing device can access.

88. Is a mobile computing environment including a proxy server, a mobile computing device that maintains a persistent virtual connection with at least one further computing device during times when the mobile computing device becomes unreachable, suspends or changes network address, said mobile computing device including:

a transport driver interface, and

20 a mobile interceptor coupled to said transport driver interface, said mobile interceptor intercepting requests for network services at said transport driver interface, generating Remote Procedure Calls responsive to said requests for network services, and forwarding said Remote Procedure Calls to said proxy server.

89. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
interceptor includes a session priority queue that provides at least one user  
configurable session priority.
90. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
interceptor includes means for managing consumption of network resources  
by said mobile computing device.
91. A mobile computing device as in claim 88 wherein the mobile  
computing environment includes plural sub-networks, and the mobile  
computing device further includes means for using Dynamic Host  
Configuration Protocol to obtain a point of presence address when said  
mobile computing device roams between said sub-networks.
92. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
interceptor communicates diagrams with proxy server and automatically  
removes unreliable ones of said diagrams based on at least one user  
configurable parameter.
93. A mobile computing device as in claim 92 wherein said user  
configurable parameter comprises a timeout.
94. A mobile computing device as in claim 92 wherein said user  
configurable parameter comprises a user configurable retry number.
95. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
computing device has an associated a variable point of presence address that  
said Mobility Management Server maps to a virtual address.



96. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
interceptor uses a Remote Procedure Call protocol to communicate with the  
said Mobility Management Server.
97. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
5 computing environment includes at least one physical link connecting said  
mobile computing device with said mobile computing environment, and  
said mobile interceptor receives updated connection state information of at  
least one session from said Mobility Management Server after an  
interruption in said physical link.
98. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
10 computing device includes a standard transport protocol handler, and said  
mobile interceptor communicates with said Mobility Management Server  
via said standard transport protocol handler.
99. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
15 computing device includes plural application sources, and said mobile  
interceptor coalesces data associated with said plural application sources  
into a stream, and forwards said stream to said Mobility Management  
Server.
100. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
20 computing device includes plural application destinations, mobile  
interceptor demultiplexes coalesced data from plural application sources  
and forwards said demultiplexed data to said plural application destinations.
101. A mobile computing device as in claim 88 wherein mobile  
interceptor communicates with said proxy server using frames, and

dynamically resizes said frames to accommodate a maximum transmission unit of the mobile computing environment.

102. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
interceptor maintains semantics of unreliable data, and selectively discards  
5 said unreliable data based on said semantics.

103. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
interceptor provides guaranteed delivery of messages to and/or from said  
proxy server.

104. A mobile computing device as in claim 88 wherein said mobile  
interceptor places controls on mobile computing environment resources said  
mobile computing device can access.

105. A mobile computing environment comprising:  
at least one mobile computing device including:  
a transport driver interface, and

15 a mobile interceptor coupled to said transport driver interface,  
said mobile interceptor intercepting requests for network services at said  
transport driver interface, generating Remote Procedure Calls responsive to  
said requests for network services, and forwarding said Remote Procedure  
Calls to at least one proxy server;  
20 said proxy server including at least one work dispatcher that receives and  
handles said Remote Procedure Calls forwarded by said mobile interceptor,  
said proxy server including a proxy queue that proxies a virtual session on  
behalf of said mobile computing device when the mobile computing device  
becomes temporarily disconnected from said mobile computing  
25 environment.

106. In a mobile computing network including at least one mobile  
computing device coupled to the network via a network point of attachment,  
an improvement comprising an interface-assisted roaming listener that  
detects, based at least in part on identification of the network point of  
attachment, whether said mobile computing device has roamed to a  
different network segment.

107. A network as in claim 106 wherein said mobile computing  
device includes a network interface adapter, and said listener obtains said  
network point of attachment identification from said network interface  
adapter.

108. A network as in claim 106 wherein said listener maintains a  
network topology map storing information that correlates said network point  
of attachment identification with further information concerning a network  
connection.

109. A network as in claim 106 wherein said listener detects when  
communications with said network is interrupted or reestablished.

110. A network as in claim 109 wherein said listener generates a  
roam signal in response to detection of (a) network communications  
interruption and re-establishment, and (b) change of said network point of  
attachment identification.

111. An interface-based listener for use in a mobile computing  
device, said interface-based listener integrating information from at least  
one network interface adapter with information available from at least one  
network stack to determine whether said mobile computing device has  
moved to a new network point of attachment.

112. The interface-based listener of claim 111 including a network topology map providing network connection information including network points of attachment information.

113. The listener of claim 112 wherein said listener dynamically constructs said network topology map based on learned information.

114. The interface-based listener of claim 111 including a status checker that checks status based on occurrence of an event.

115. The interface-based listener of claim 111 wherein said event comprises any of a timer timeout, a low level roaming trigger callback, and a network level activity high.

116. The interface-based listener of claim 111 including a connection information searcher that queries an interface as to whether the mobile computing system has already visited the current network point of attachment.

117. The interface-based listener of claim 111 including a connection arrangement that registers or reacquires a current address to be valid on a new network segment.

118. The interface-based listener of claim 111 including a roam signal generator that generates a roam signal in response to detection, based at least in part on information provided by an interface, that the mobile computing device has roamed to a different network segment.

119. The interface-based listener or claim 118 further including a heuristic analyzer that determines whether a previously assigned address is still valid.

120. A method of determining whether a mobile node has moved to a new network point of attachment, comprising:

(a) receiving network point of attachment identification information from a network interface;

5 (b) using said network point of attachment identification information to determine whether said mobile node has moved to a new network point of attachment; and

(c) generating signaling in response to said step (b).

121. A method as in claim 120 further including maintaining a network topology map, and using said map to perform step (c).

122. A method as in claim 120 wherein said step (c) includes generating a roam signal.

123. A method as in claim 120 wherein said step (b) includes obtaining said network point of attachment information from a network  
15 adapter.

124. A method as in claim 120 further including falling back to an alternative roaming detection mechanism if a network interface is not available that supports generic signaling.

125. A method as in claim 120 further including selecting, at least in part in response to said network point of attachment information, between  
20 alternate network connection paths.

WO 02/23,363

PLT/0002/20/01

1/40

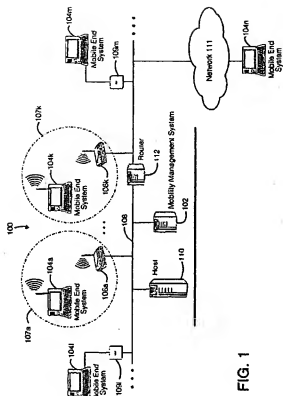


FIG. 1

SUBSTITUTE SHEET (RULE 24)

NO 60222/01

PC/TEL/TEL/TEL/TEL

2/40

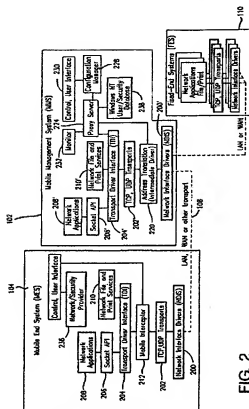
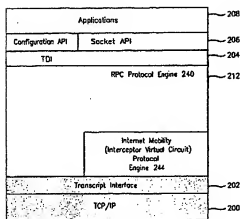
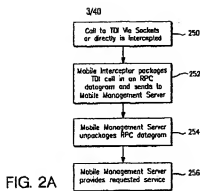


FIG. 2

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 823361

PCT/JP02/02801



SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)



WU 8232341

PC/TX/ML/2001/1

4/40

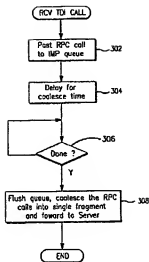


FIG. 3A

WU 8123361

PCT/JP02/0041

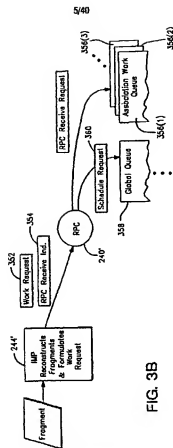


FIG. 3B

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

W O 02/23/01

PCT/US02/0001

8/40

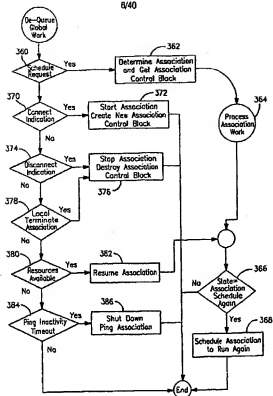


FIG. 4

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 04/24/02

PCT/IB02/02001

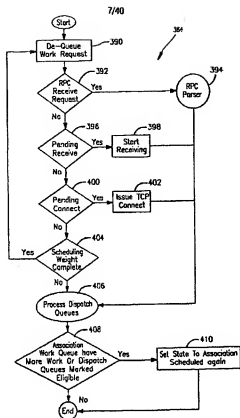


FIG. 5 Process Association Work  
SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 02/22/03

PCT/IB02/28091

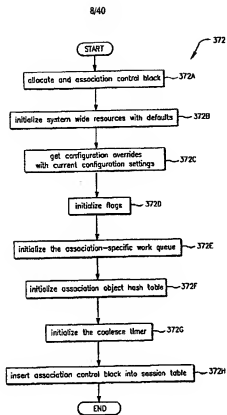
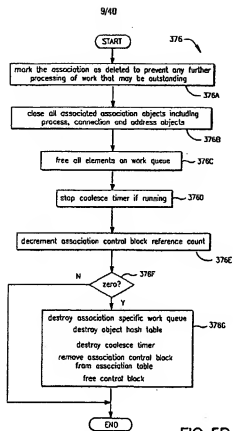


FIG. 5A

SUBSTITUTE SHEET (RULE 24)

WU 821342

PC/TAS/2001



SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 82/2362

PCT/US02/0091

10/40

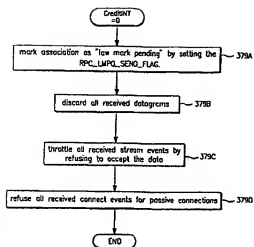


FIG. 5C

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WO 02/03363

PCT/JP00/20091

11/40

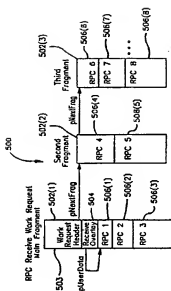


FIG. 6

SUBSTITUTE SHEET (RULE 24)



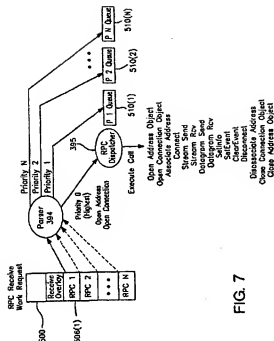


FIG. 7

WU-0123243

PC-TDS/SH/EN/1

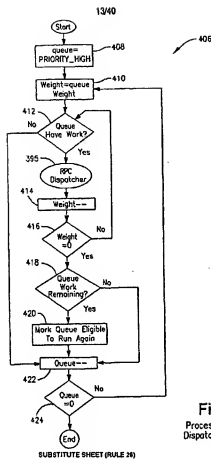
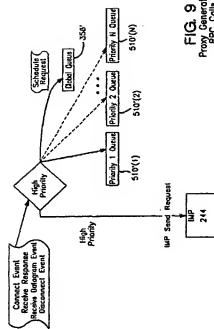


Fig. 8  
Process Priority  
Dispatch Queues

WU 82/2347

PC-TTUS017491

14/40



SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 0103383

PCT/US98/02891

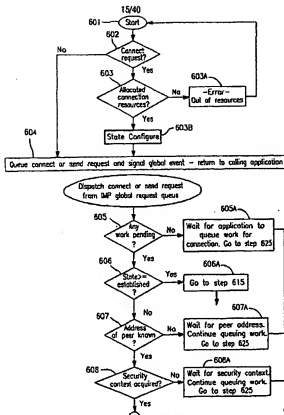


FIG. 10A Connect and Send request logic

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WO 01/22262

PC/TES/02/004

15/40

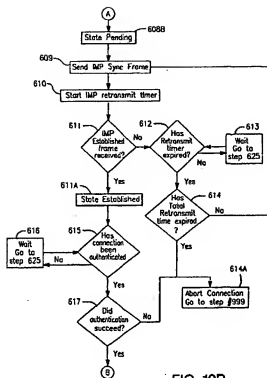


FIG. 10B

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 4253462

PCT/JP03/0201

17/40

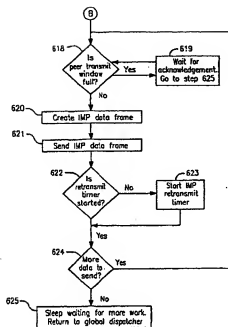


FIG. 10C

SUBSTITUTE SHEET (RULE 27)

WU 6193381

PLTUSM026491

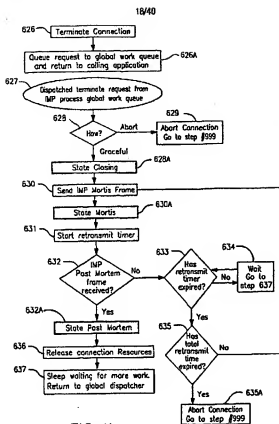


FIG. 11

Terminate Connection request logic  
SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 8233463

PCT/US2002/00491

19/40

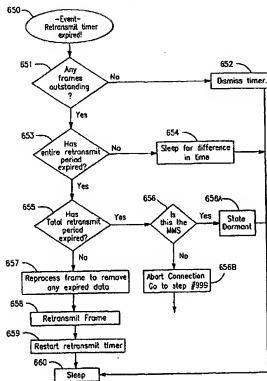


Fig. 12

Retransmit Event Logic

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)



WU 9123392

PLTUS02/02/04

20/40

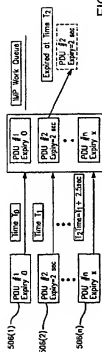


FIG. 12A

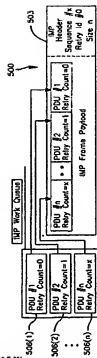


FIG. 12B

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)



WU 43/1341

PCT/JP04/0091

22/40

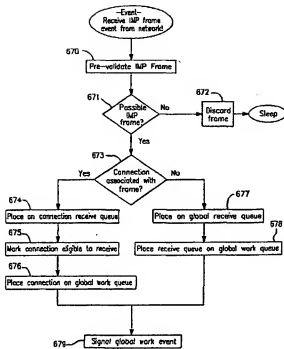


FIG. 13A  
Receive Event Logic  
SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 9103363

PCT/US98/00491

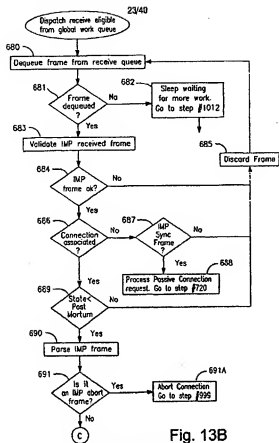


Fig. 13B

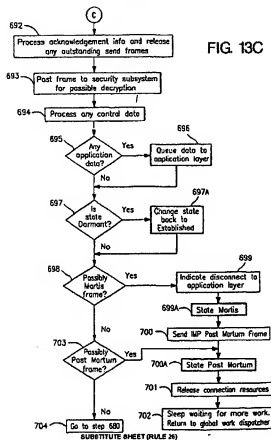
SUBSTITUTE SHEET (RULE 24)

WU 9153/93

PLTUNELZBM1

24/40

FIG. 13C



WU 8133362

PC17030612001

25/40

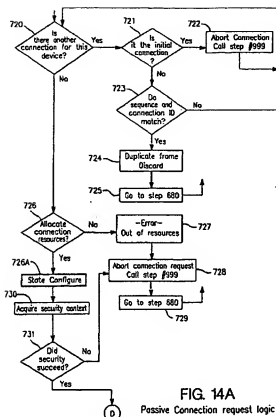


FIG. 14A

Passive Connection request logic

SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WO 02/23462

PC/T2804/00001

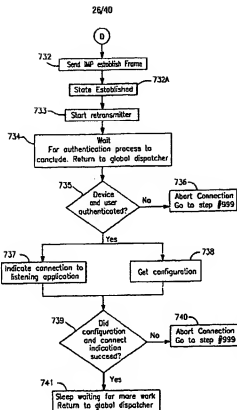


FIG. 14B

SUBSTITUTE SHEET (PAGE 17)

WU 9753392

PC120201/2001

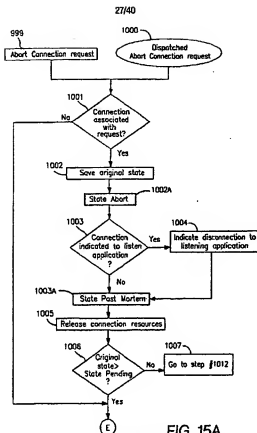


FIG. 15A

Abort Connection request logic  
 SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)



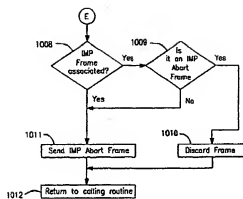


FIG. 15B

WU 02/23/01

PCT/US01/28091

29/40

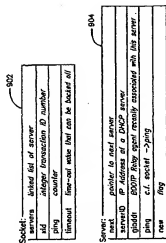


FIG. 16

DHCP Listener Data Structures

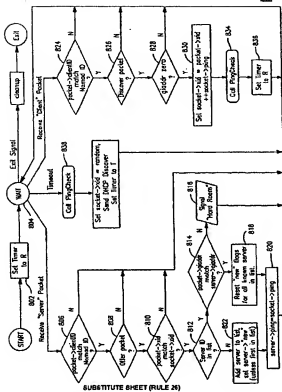
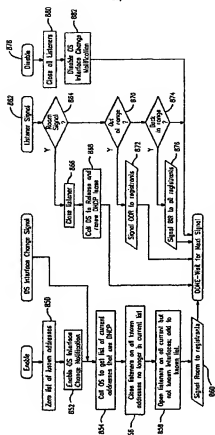


Fig. 17





**FIG. 18**  
ROAMING CONTROL CENTER-  
Mobile End System

WO 03/01363

PCT/US02/00491

33/40

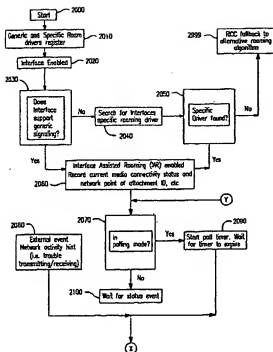


FIG. 19A

Interface Assisted Roaming  
(IAR) Decision Tree

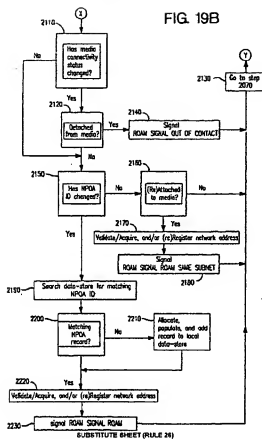
SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

WU 6553461

PCT/US02/02001

34/40

FIG. 19B



WU 83/1362

PC 7/2581/2891

35/40

Next Table Element	Previous Table Element	IPDA Unique Identifier	Network Last Address	Network Mask	Flags (i.e. Static, Dynamic, etc.)	Timeout	Etc.
Next Table Element	Previous Table Element	IPDA Unique Identifier	Network Last Address	Network Mask	Flags (i.e. Static, Dynamic, etc.)	Timeout	Etc.
.							
.							
Next Table Element	Previous Table Element	IPDA Unique Identifier	Network Last Address	Network Mask	Flags (i.e. Static, Dynamic, etc.)	Timeout	Etc.

FIG. 20

Interface Assigned Roaming  
Topology Mode

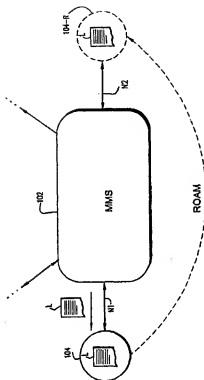
SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)



WU 6172343

PT2004/2001

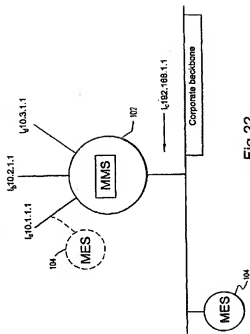
36/40



SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)

Fig.21

Object network Roaming

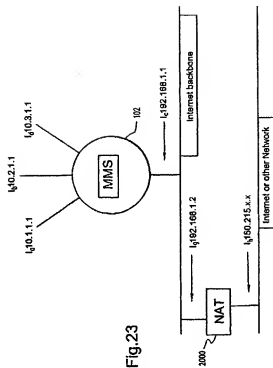


**Fig.22**  
**Example Secure Disjint Coordination**

WU 11/22/02

PC 1/26/02/28/01

38/40



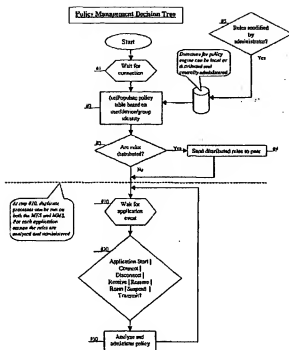
SUBSTITUTE SHEET (RULE 26)



WU 022362

PCT/09/2891

40/40





INTERNATIONAL SEARCH REPORT		International application No. PCT/2002/04001
C (Classification) DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Class group <sup>a</sup>	Classification of documents, with indications, where appropriate, of the relevant passages	References to claims No.
Y.P.	US 2001/011111 A1 (HALL et al) 06 May 2001, col. 1 lines 26-37 and 05-07, col. 3 lines 3-20	05-105
Y.P.	US 2001/011111 A1 (HALL et al) 06 May 2001, abstract, col. 1 lines 01-07, col. 3 lines 00-03, col. 3 lines 33-37	05-105

Form PCT/ISA/210 (Specification of cited documents) only

## フロントページの続き

(81)指定国 AP (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), EA (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), EP (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR), OA (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, PH, PL, PT, R O, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW

(特許注: 以下のものは登録商標)

Windows

ポケットベル

- (72)発明者 ハンソン, アーロン, ディー.  
アメリカ合衆国, 9 8 1 0 7 ワシントン州, シアトル, ノースウエスト シックスティースード  
ストリート 3 0 0 2
- (72)発明者 スタニオロ, エミル, エー.  
アメリカ合衆国, 4 4 2 5 6 オハイオ州, メディナ, アラメダ コート 4 0 5 0
- (72)発明者 メン, アナトリー  
アメリカ合衆国, 9 8 1 3 3 ワシントン州, シアトル, ナンバー 4, ノース アハンドレッドセ  
ブンティーフフス 8 1 6
- (72)発明者 オルソン, エリック, ディー.  
アメリカ合衆国, 9 8 1 1 7 ワシントン州, シアトル, エヌダブリューエス エイティセカン  
ド ストリート 3 0 6
- (72)発明者 サヴァレセ, ジョセフ, ディー.  
アメリカ合衆国, 9 8 0 2 0 ワシントン州, エドモンズ, ナインティーフフス プレイス ウ  
エスト 2 2 2 0 5
- F ターム(参考) 5B085 BA06 BC01 BG02 BG07  
5B089 GB01 KB04  
5K033 CB06 CB08 CC01 DA17 DB16 DB18

【要約の続き】

イ管理サーバは、非接続のネットワーク上で該サーバとコンタクトをとるためのリストを、モバイル端末システムに配布する。